

香川県地震・津波被害想定調査報告書 (概要)



平成26年6月

香 川 県

香川県地震・津波被害想定調査報告書（概要）目次

I	地震・津波被害想定調査の概要	
1.	はじめに	1
1.1	調査の目的	1
1.2	調査の体制	1
II	地震・津波被害想定	
1.	被害想定の対象とする地震・津波の設定	2
1.1	被害想定の対象地震	2
2.	地震動の予測	3
2.1	震源モデル（強震断層モデル）の設定	3
2.1.1	南海トラフの最大クラスの地震	3
2.1.2	南海トラフの発生頻度の高い地震	3
2.1.3	中央構造線で発生する地震	3
2.1.4	長尾断層で発生する地震	3
2.2	予測手法	4
2.3	震度分布予測結果	5
2.3.1	南海トラフの最大クラスの地震	6
2.3.2	南海トラフの発生頻度の高い地震	6
2.3.3	中央構造線で発生する地震	7
2.3.4	長尾断層で発生する地震	7
2.3.5	どこでも起こりうる直下型地震（参考）	8
2.3.6	ゆれやすさマップ（参考）	8
3.	液状化危険度の予測	9
3.1	予測手法	9
3.2	液状化危険度予測結果	9
3.2.1	南海トラフの最大クラスの地震	10
3.2.2	南海トラフの発生頻度の高い地震	10
3.2.3	中央構造線で発生する地震	11
3.2.4	長尾断層で発生する地震	11
4.	津波浸水の予測	12
4.1	波源モデルの設定	12
4.1.1	南海トラフの最大クラスの津波	12
4.1.2	南海トラフの発生頻度の高い津波	12
4.2	予測手法（シミュレーション条件）	12
4.2.1	津波シミュレーションの概要	12
4.2.2	南海トラフの最大クラスの津波の条件	13
4.2.3	南海トラフの発生頻度の高い津波の条件	13

4.3 浸水予測結果	14
4.3.1 南海トラフの最大クラスの地震の津波	14
4.3.2 南海トラフの発生頻度の高い地震の津波	35
Ⅲ 人的・物的被害想定	
1. 被害想定の設定条件	56
1.1 被害想定に用いる地震・津波のケースの選定	56
1.2 被害想定項目	56
1.3 被害想定時間帯	58
2. 被害想定	59
2.1 定量評価結果一覧	59
2.2 減災効果	69
2.2.1 建物の耐震化	69
2.2.2 屋内収容物の転倒防止対策	70
2.2.3 津波避難の早期化	70
2.2.4 減災効果による直接経済被害額	71
3. 被害シナリオ	72
3.1 南海トラフの最大クラスの地震	73
3.2 南海トラフの発生頻度の高い地震	77
3.3 中央構造線で発生する地震	81
3.4 長尾断層で発生する地震	85
Ⅳ. 被害想定結果のまとめ	
1. 被害想定結果のまとめ	89
1.1 県全体結果	89
1.2 市町別一覧	90

I 地震・津波被害想定調査の概要

1. はじめに

1.1 調査の目的

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震は、これまでの想定をはるかに超える巨大な地震・津波により、東北地方を中心に広範な地域に甚大な被害をもたらした。

一方、東海・東南海・南海地震の発生が切迫している状況を踏まえると、南海トラフ沿いで発生する大規模地震対策を検討する必要がある。その結果、「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波」を想定することが必要と考えられ、平成 23 年 8 月に内閣府に設置された「南海トラフの巨大地震モデル検討会」において、関東から四国・九州にかけての極めて広い範囲で強い揺れと巨大な津波が想定されることとなった。

内閣府「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」は、平成 24 年 8 月に「南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）」、平成 25 年 3 月に「南海トラフ巨大地震の被害想定について（第二次報告）」、平成 25 年 5 月に「南海トラフ巨大地震対策について（最終報告）」を公表し、被害想定、対策の基本的方向や実施すべき対策を取りまとめている。

香川県では、南海トラフを震源域とする最大クラス及び発生頻度の高い地震・津波や、中央構造線・長尾断層などを震源域とする直下型地震について、最新の知見をもとに被害想定調査を実施し、今後の防災・減災対策を検討する際の資料とするとともに、防災・減災対策への県民の理解を深めることを目的とし、本報告書を作成したものである。

本被害想定調査報告書は、東日本大震災の貴重な教訓を踏まえると共に最新の知見を踏まえ、4つの想定地震・津波が発生した場合の被害様相をとりまとめたものである。

1.2 調査の体制

本調査に関しては、最新の科学的知見と県の地域特性を反映させるとともに、専門的な見地から評価を行うため、学識経験者などからなる「香川県地震・津波被害想定調査委員会」を設置した。

表 1.2.1 委員名簿

所 属		氏 名	専 門
委員長	香川大学工学部教授 香川大学危機管理研究センター長	白木 渡	総 合 防 災
副委員長	香川大学工学部教授	長谷川 修一	地 質 工 学
委員	香川大学工学部教授	松島 学	構 造 工 学
	徳島大学名誉教授	村上 仁士	津 波 工 学
	名古屋大学減災連携研究センター特任教授	金田 義行	地震津波研究
	香川大学客員教授		
	(独)産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門長	桑原 保人	地 震 研 究
(独)港湾空港技術研究所 海洋情報・津波研究領域長 アジア・太平洋沿岸防災センター 副センター長	富田 孝史	津波防災研究	

II 地震・津波被害想定

1. 被害想定の対象とする地震・津波の設定

1.1 被害想定の対象地震

被害想定の対象地震は、香川県で影響が予想される地震として、地震の発生が切迫している海溝型の南海トラフ地震と香川県内に影響を与える直下型の地震を選定した。

海溝型地震は、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」で対象となっている断層モデル（「南海トラフの最大クラスの地震」及び「南海トラフの発生頻度の高いもの」）が提示または検討されているものを採用した。南海トラフ地域は、宝永地震（1707）、安政東海・安政南海地震（1854）、昭和東南海（1944）など、100年から200年の間隔で発生しており、発生すると大きな被害が出ると予測されている。

直下型地震については、文部科学省地震調査研究推進本部において、全国に存在する約2,000の活断層の内、活動性が高く、社会的、経済的に大きな影響を与えると考えられる断層帯を選定した。想定地震の設定では、「震源断層を特定した地震」より主要活断層帯が明確になっており、香川県に影響を与える「中央構造線で発生する地震」と「長尾断層で発生する地震」を採用した。

表 1.1.1 被害想定の対象地震

タイプ	海溝型地震		直下型地震	
	南海トラフ		中央構造線	長尾断層
震源域	最大クラス (L2)	発生頻度の高いもの (L1)		
地震	○ (Mw9.0)	○ (宝永 Mw8.9、安政 Mw8.8)	○ (M8.0)	○ (M7.1)
津波	○ (Mw9.1)		—	—

注：Mw：モーメントマグニチュード M：マグニチュード

2. 地震動の予測

2.1 震源モデル（強震断層モデル）の設定

2.1.1 南海トラフの最大クラスの地震

南海トラフの最大クラスの地震は、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」で示された強震断層モデルの4ケース（基本・東側・西側・陸側）を採用した。

発生頻度は、千年に一度あるいはそれよりもっと低い頻度で発生するが、発生すれば、甚大な被害をもたらす最大クラスの地震である。

地震動の予測を行うモデルとしては、4ケースのモデルごとに震度を算出し、各地点の最大値を採用した。

2.1.2 南海トラフの発生頻度の高い地震

南海トラフの発生頻度の高い地震は、最新の知見に基づいた強震断層モデルを踏まえたケースを採用した。

発生頻度の高いものとは、一定の頻度（数十年から百数十年に一度程度）で発生し、南海トラフの最大クラスの地震に比べ、規模（震度や津波高）は小さいものの、大きな被害をもたらす地震としている。

地震動の予測を行うモデルとしては、既往地震の断層諸元を基に設定している。

2.1.3 中央構造線で発生する地震

中央構造線は、関東から中部・近畿地方、淡路島南部の海域を経て、四国北部を東西に横断し、九州まで達する長大な断層帯である。このうち、対象とする断層は、讃岐山脈南縁から石鎚山脈北縁東部に位置する断層（長さ約130km）である。

発生頻度は、1千年～1千6百年に一度となっている。

地震動の予測を行うモデルとしては、文部科学省地震調査研究推進本部が設定した断層4ケースのモデルごとに震度を算出し、各地点の最大値を採用した。

2.1.4 長尾断層で発生する地震

長尾断層で発生する地震は、讃岐山脈の北縁に分布する活断層帯で、香川県さぬき市から高松市南部を経て高松市香南町に至り、長さは約24km、概ね東西方向に延びており、断層の南側が北側に対して相対的に隆起する逆断層である。

発生頻度は、3万年に一度となっている。

地震動の予測を行うモデルとしては、文部科学省地震調査研究推進本部が設定した断層3ケースのモデルごとに震度の算出し、各地点の最大値を採用した。

2.3 震度分布予測結果

南海トラフの最大クラスの地震及び発生頻度の高い地震、中央構造線・長尾断層で発生する地震の震度分布図を作成した。

また、「どこでも起こりうる直下型地震」の震度分布図及び「ゆれやすさマップ」も併せて作成した。

「どこでも起こりうる直下型地震」については、直下型地震は現在知られていない断層で発生する場合があります、この未知の断層に対する危険性を知るために、全県の直下を断層と仮定し、一律マグニチュード6.9の地震が発生したと仮定した場合の震度分布を示したものである。

「ゆれやすさマップ」については、地震による地表での揺れは地震の規模（マグニチュード）、震源からの距離、表層の地盤の固さ・柔らかさなどによって変わるため、マグニチュードや震源からの距離は同じでも、表層の地盤が柔らかいとゆれやすくなることから、表層の地盤の固さ・柔らかさを示したものである。

2.3.1 南海トラフの最大クラスの地震

南海トラフの最大クラスの地震は、震度6弱～6強の強い揺れが広く分布し、また、観音寺市・東かがわ市・三豊市の一部の地域で震度7の揺れが分布しているため、被害の範囲が県内全域に及ぼす可能性がある。

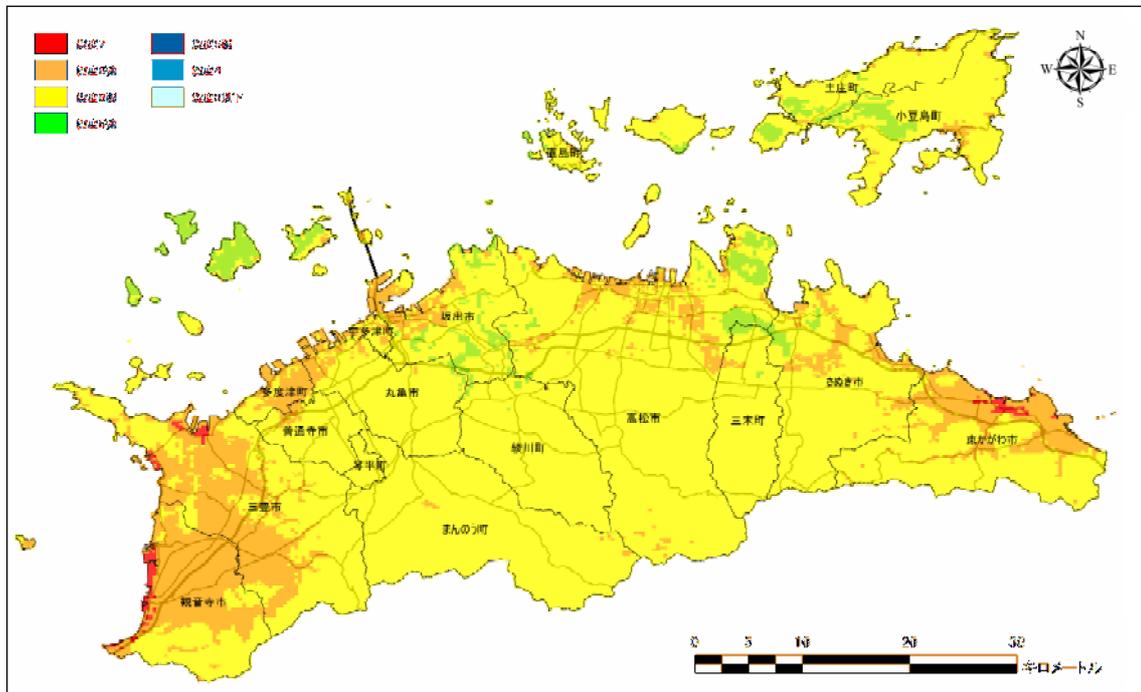


図 2.3.1 南海トラフ (L2)

2.3.2 南海トラフの発生頻度の高い地震

南海トラフの発生頻度の高い地震は、震度4～6弱が分布しているが、被害の範囲は集中する可能性がある。

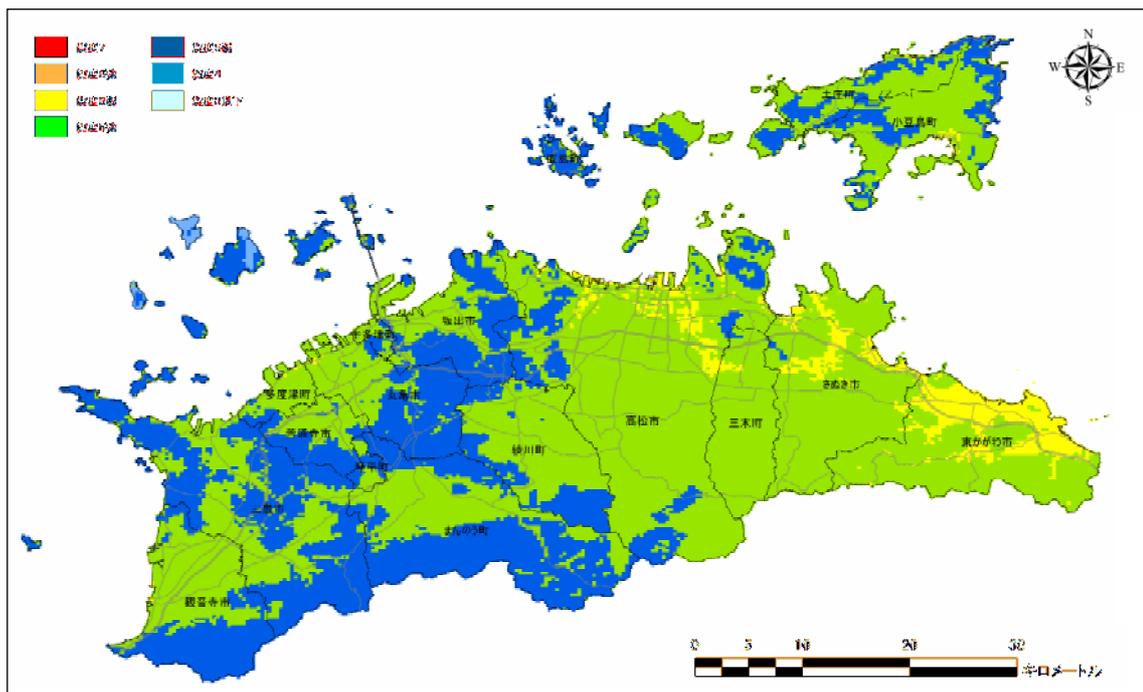


図 2.3.2 南海トラフ (L1)

2.3.3 中央構造線で発生する地震

中央構造線で発生する地震は、震度 4~7 が分布しているが、被害の範囲は島嶼部を除く地域で震度 6 弱~7 の強い揺れが広く分布しているため、被害の範囲が広がる可能性がある。

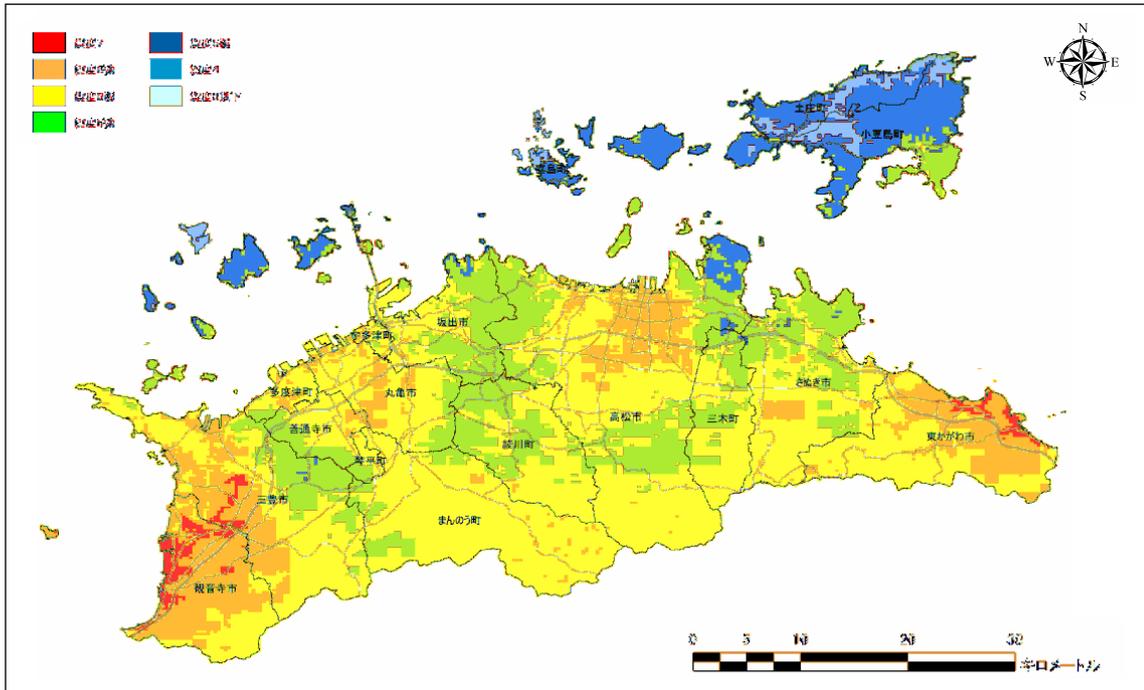


図 2.3.3 中央構造線

2.3.4 長尾断層で発生する地震

長尾断層で発生する地震は、震度 4~6 強が分布しているが、被害の範囲は想定断層付近に集中する可能性がある。

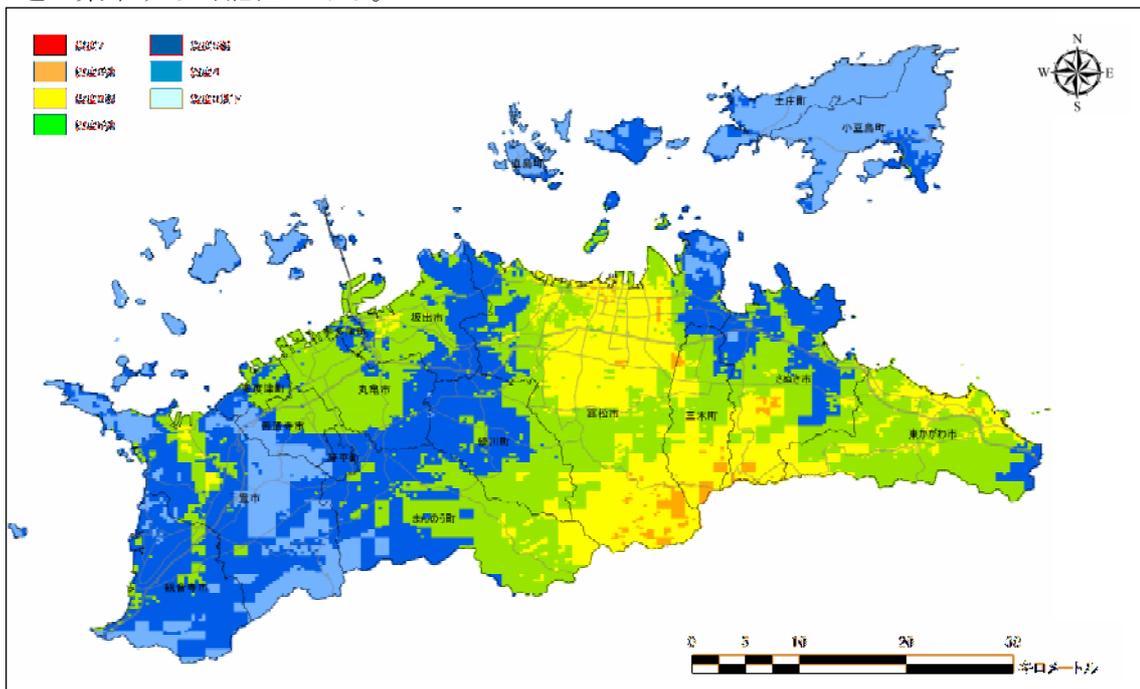


図 2.3.4 長尾断層

2.3.5 どこでも起こりうる直下型地震（参考）

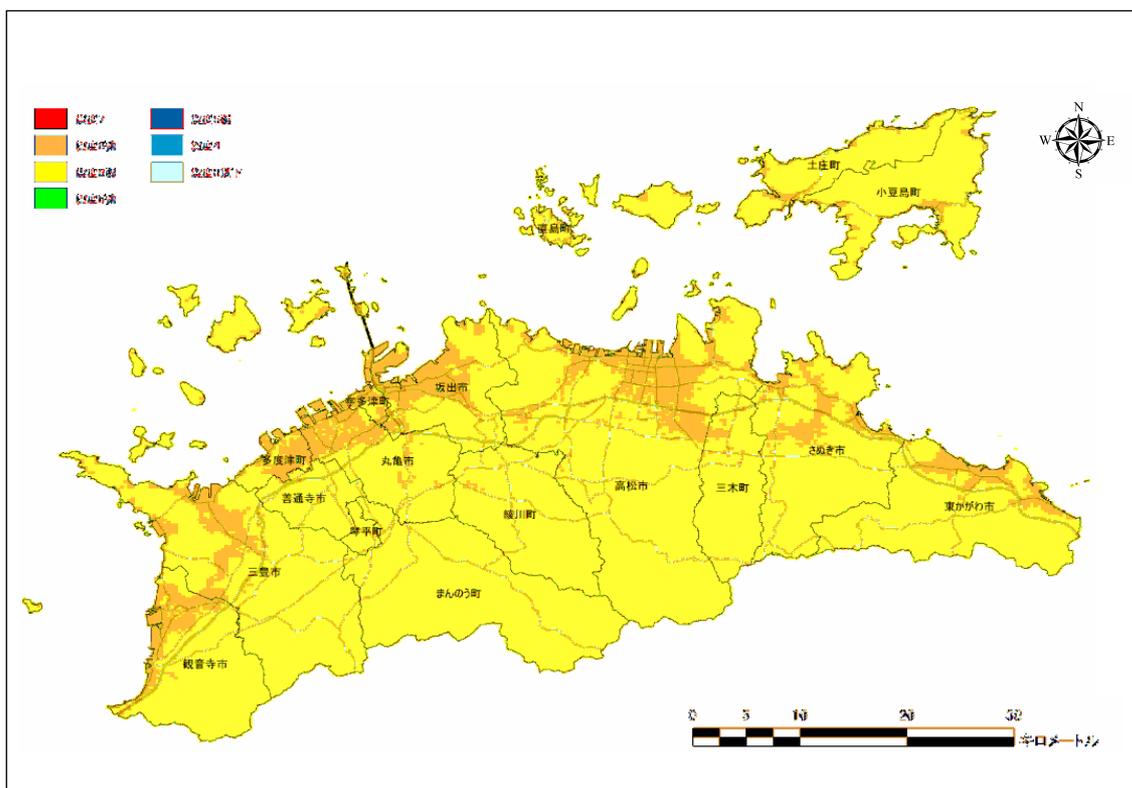


図 2.3.5 どこでも起こりうる直下型地震

2.3.6 ゆれやすさマップ（参考）

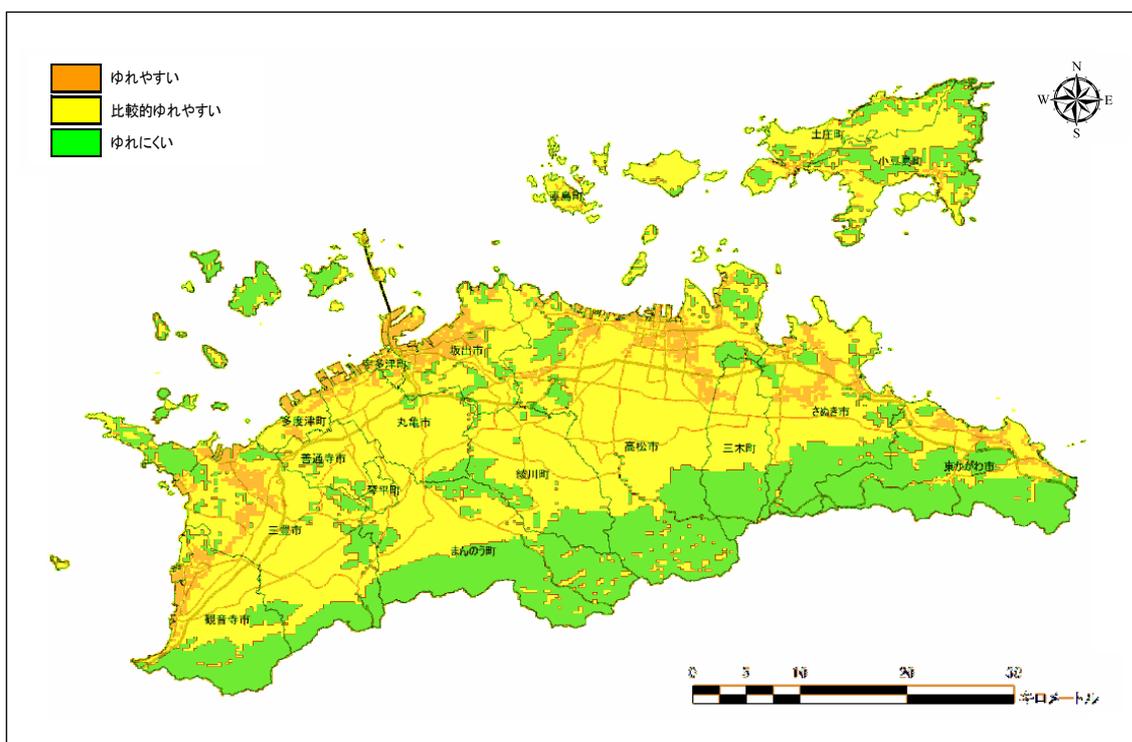


図 2.3.6 ゆれやすさマップ

3. 液状化危険度の予測

3.1 予測手法

(1) 液状化危険度の予測

液状化危険度の予測は、「道路橋示方書・同解説（2002年3月発行）」による、砂質土層の液状化の判定手法を採用しました。すなわち、地震動の予測結果から地表から20mまでの地中のせん断応力（L）と液状化対象層の繰返三軸強度比（R）を求め、液状化対象層ごとに液状化に対する抵抗率（ $F_L=R/L$ ）を求め、さらに地層全体の液状化可能性指数（ P_L ）を評価した。

表 3.1.1 液状化可能性判定基準

危険度ランク	P_L 値	説明
A	$15 < P_L$	<ul style="list-style-type: none">・ 液状化危険度が極めて高い。・ 液状化に関する詳細な調査と液状化対策は不可避
B	$5 < P_L \leq 15$	<ul style="list-style-type: none">・ 液状化危険度が高い。・ 重要な構造物に際して、より詳細な調査が必要。液状化対策が一般に必要。
C	$0 < P_L \leq 5$	<ul style="list-style-type: none">・ 液状化危険度は低い。・ 特に重要な構造物の設計に際してはより詳細な調査が必要。
D	$P_L = 0$	<ul style="list-style-type: none">・ 液状化危険度はかなり低い。

3.2 液状化危険度予測結果

南海トラフの最大クラスの地震及び発生頻度の高い地震、中央構造線・長尾断層で発生する地震の液状化危険度分布図を作成した。

この液状化危険度は、液状化の発生を予測する一定の目安であり、判定結果で危険度が高い地域（危険度AあるいはB）であっても、全域が必ず液状化するというものではないが、重要な構造物等を設計する際には液状化に関する詳細な調査及び対策が必要である。

3.2.1 南海トラフの最大クラスの地震

液状化の危険度は三角州・後背湿地・埋立地などの柔らかい地盤と地表加速度が影響するため、液状化危険度の分布は県内全域に広く分布している。

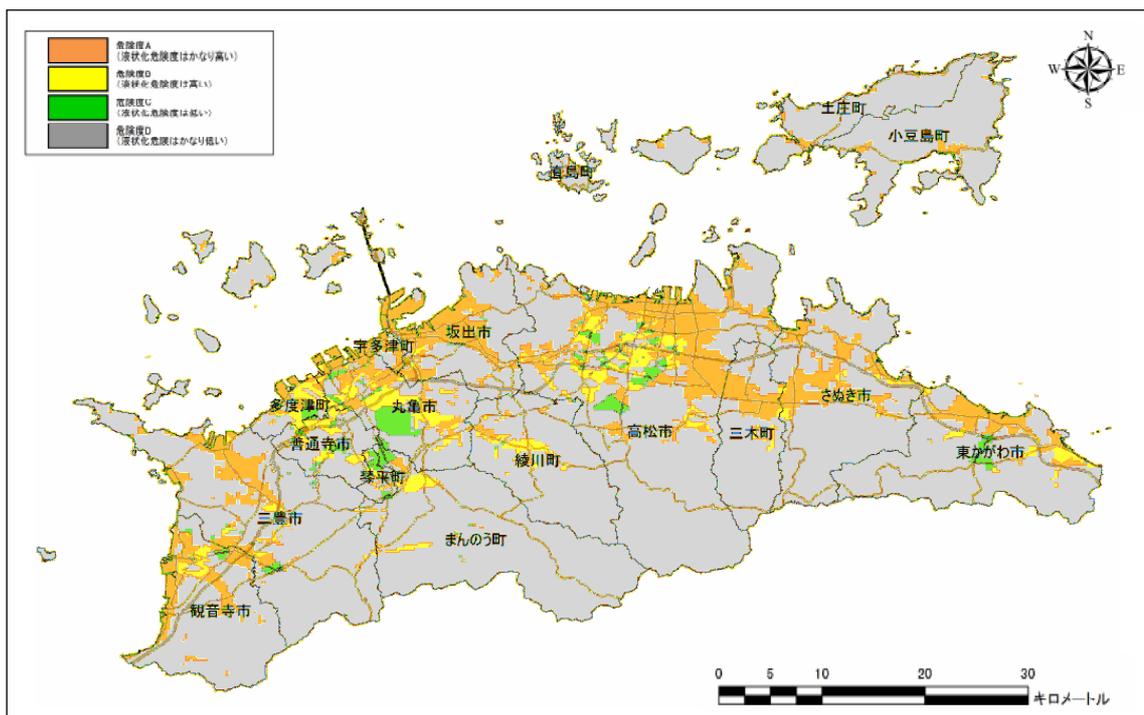


図 3.2.1 南海トラフ (L2)

3.2.2 南海トラフの発生頻度の高い地震

液状化の危険度は三角州・後背湿地・埋立地などの柔らかい地盤と地表加速度が影響するため、液状化危険度の分布は南海トラフ (L2) に比べ規模は小さいものの県内全域に広く分布している。

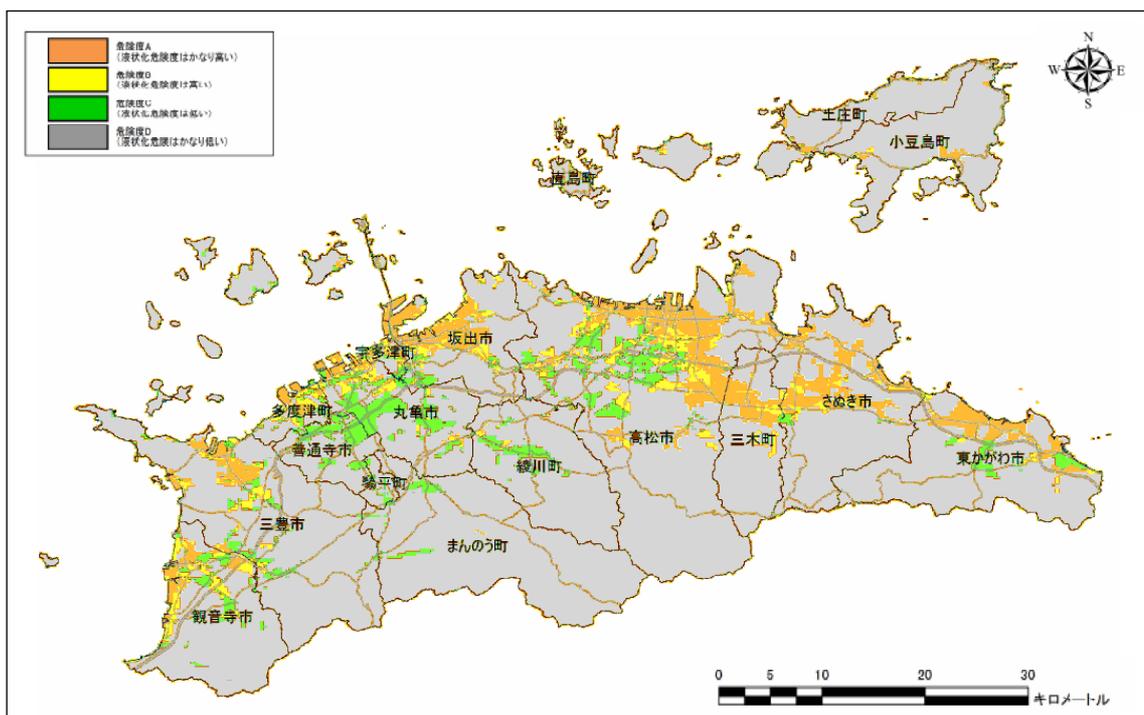


図 3.2.2 南海トラフ (L1)

3.2.3 中央構造線で発生する地震

液状化の危険度は三角州・後背湿地・埋立地などの柔らかい地盤と地表加速度が影響するため、液状化危険度の分布は島嶼部を除く地域で広く分布している。

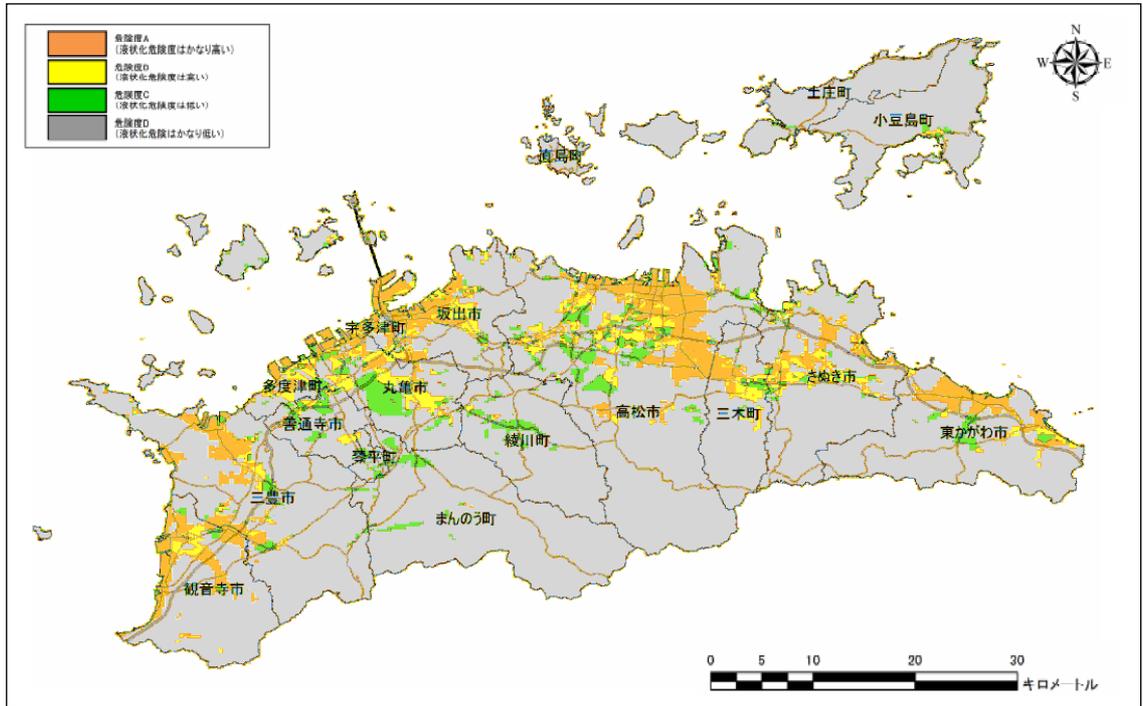


図 3.2.3 中央構造線

3.2.4 長尾断層で発生する地震

液状化の危険度は三角州・後背湿地・埋立地などの柔らかい地盤と地表加速度が影響するため、液状化危険度の分布は想定断層付近に集中している。

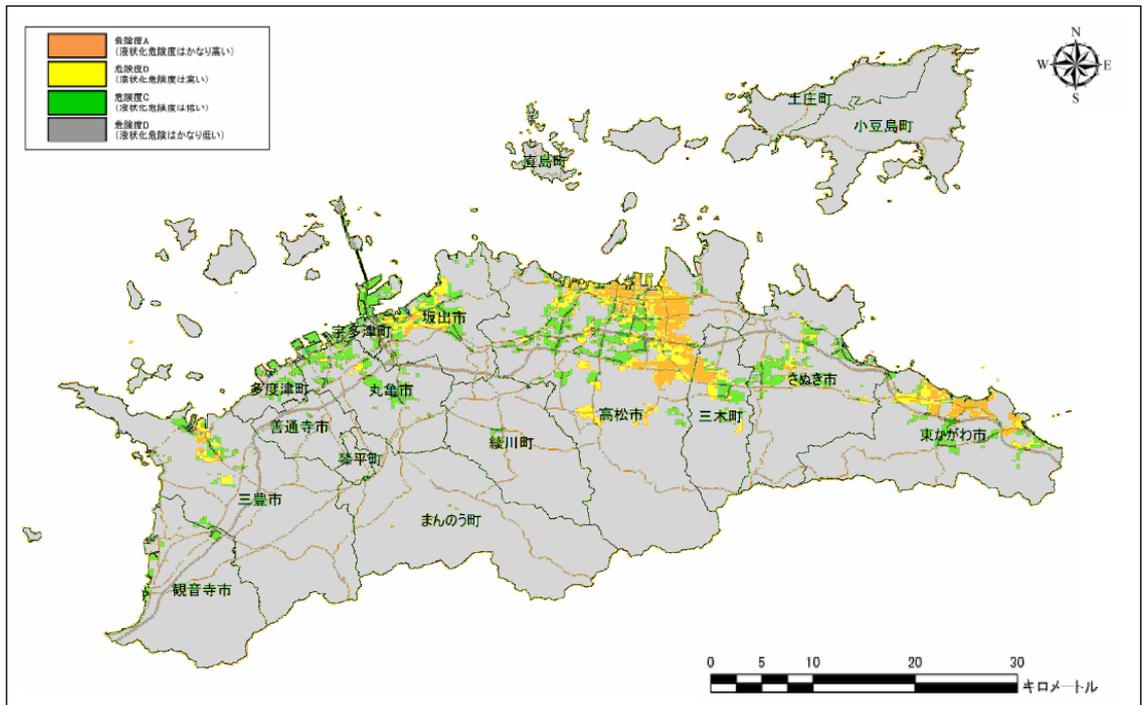


図 3.2.4 長尾断層

4. 津波浸水の予測

4.1 波源モデルの設定

4.1.1 南海トラフの最大クラスの津波

最大クラスの想定震源域・想定津波波源域は、最新の科学的知見をもとに設定している内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」で示されたものを採用した。

香川県では、内閣府で公表された津波断層モデルで示された 11 ケースのうち、香川県の沿岸域において高い津波水位となる 5 ケースを採用した。

4.1.2 南海トラフの発生頻度の高い津波

発生頻度の高い津波の津波断層モデルは、内閣府で公表された津波断層モデルで示された 4 ケースのうち、香川県の沿岸域において高い津波水位となるケースを採用した。

4.2 予測手法（シミュレーション条件）

4.2.1 津波シミュレーションの概要

南海トラフで大地震が発生すると、海底の断層運動により断層面を境に海底に大きな隆起箇所や沈降箇所が生じる。この流域・沈降に伴い海面が変動することで大きな波が発生し、これが四方八方に伝播するものが津波である。

津波シミュレーションは、地震発生時に生じる海域での隆起・沈降現象により生じる波が海岸に伝播する過程をコンピュータ上で計算するものである。

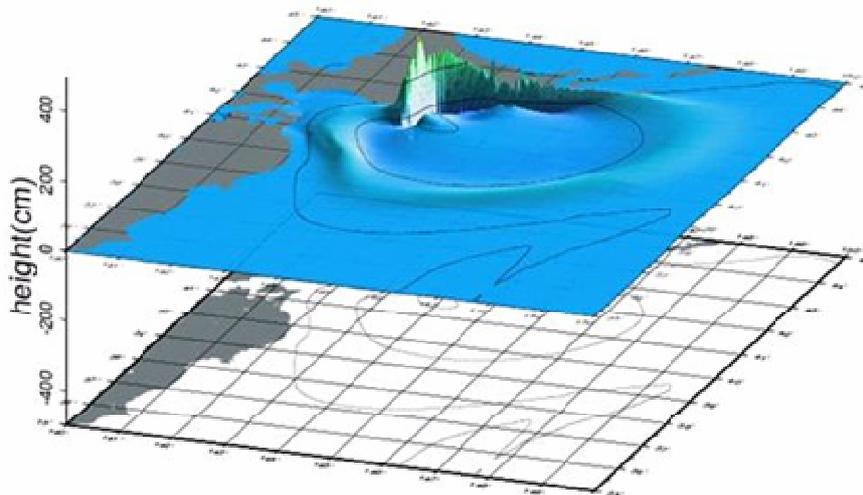


図 4.2.1 津波シミュレーションのイメージ

4.2.2 南海トラフの最大クラスの津波の条件

南海トラフの最大クラスの津波のシミュレーション条件は下記のとおり設定した。

表 4.2.1 津波シミュレーションの主な条件

項目		シミュレーションの条件
潮位	海域	・ 朔望平均満潮位の統計値（過去5年間）及び港湾構造物設計に用いる朔望平均満潮位のうち高い方
	河川	・ 平水流量又は沿岸の朔望平均満潮位と同じ水位
地盤高		・ 地震による地殻変動は、海域は隆起・沈降を考慮し、陸域は、隆起は考慮せず、沈降のみを考慮 ・ 液状化による陸域の沈降量を考慮
堤防などの構造物		・ 河川・海岸等の構造物は、盛土構造物（土で築造された堤防等）は75%沈下、コンクリート構造物は100%沈下 ・ 津波が堤防等の構造物を乗り越えた場合、破壊すると仮定

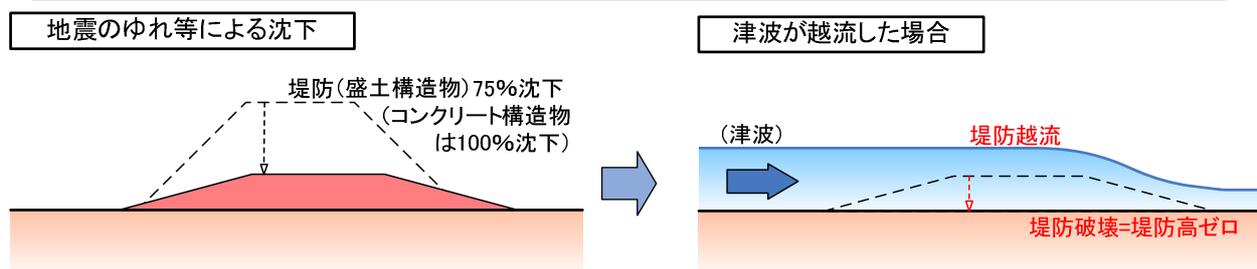


図 4.2.2 堤防などの構造物の取り扱い

4.2.3 南海トラフの発生頻度の高い津波の条件

南海トラフの発生頻度の高い津波のシミュレーション条件は下記のとおり設定した。

表 4.2.2 津波シミュレーションの主な条件

項目		シミュレーションの条件
潮位	海域	・ 朔望平均満潮位の統計値（過去5年間）及び港湾構造物設計に用いる朔望平均満潮位のうち高い方（最大クラスと同じ）
	河川	・ 平水流量又は沿岸の朔望平均満潮位と同じ水位（最大クラスと同じ）
地盤高		・ 地震による地殻変動は、海域は隆起・沈降を考慮し、陸域は、隆起は考慮せず、沈降のみを考慮（最大クラスと同じ） ・ 液状化による陸域の沈降量は考慮しない
堤防などの構造物		・ 河川・海岸等の構造物の沈下は、見込まない ・ 津波が堤防等の構造物を乗り越えた場合、破壊すると仮定（最大クラスと同じ）

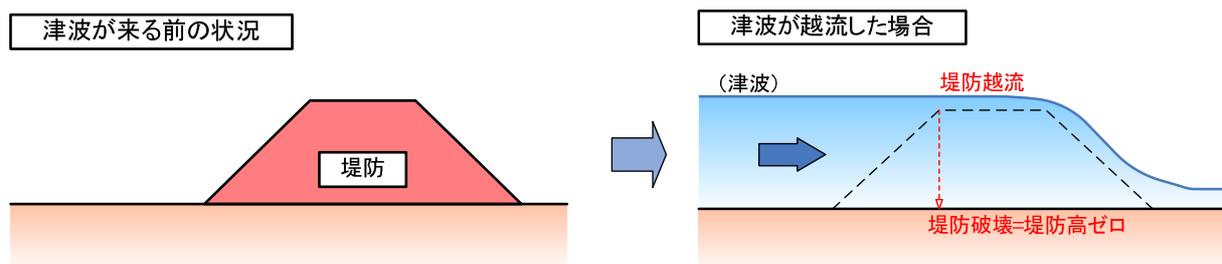


図 4.2.3 堤防などの構造物の取り扱い

4.3 浸水予測結果

4.3.1 南海トラフの最大クラスの地震の津波

(1) 津波の概要

南海トラフで最大クラスの地震が発生すると、地殻の変動域に位置する香川県では、地震により地盤沈降が発生し、津波が来襲する前に海面変動が生じる。その後、南海トラフで発生する津波は沿岸域から、紀伊水道、豊後水道を通じて瀬戸内海に侵入し、地震発生後約1時間で第1波が鳴門海峡を通過し、東かがわ市に到達する。豊後水道から進入した津波は、佐田岬、芸予諸島の影響で地震発生後3時間40分頃観音寺市に到達する。

最大津波波高が発生した後、津波は6時間を過ぎても断続的に来襲し、海面変動は半日経過しても生じている。

最高津波水位を見ると、沿岸域に3m～4mの津波が来襲するため、被害の範囲が広く及ぶ可能性がある。

(2) 津波浸水区域想定図

津波浸水想定図は、採用モデルにおける浸水深（浸水する深さ）の最大値の想定図としている。なお、この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25,000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平成24情複、第930号）(C)Esri Japan

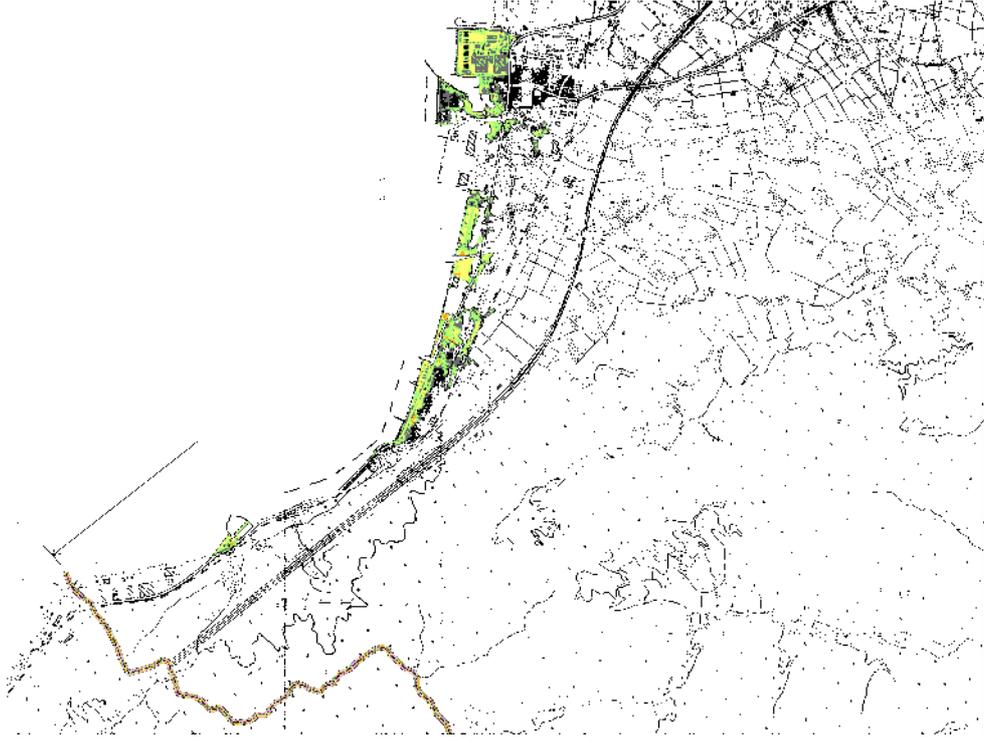


图 4.3.1 观音寺市①

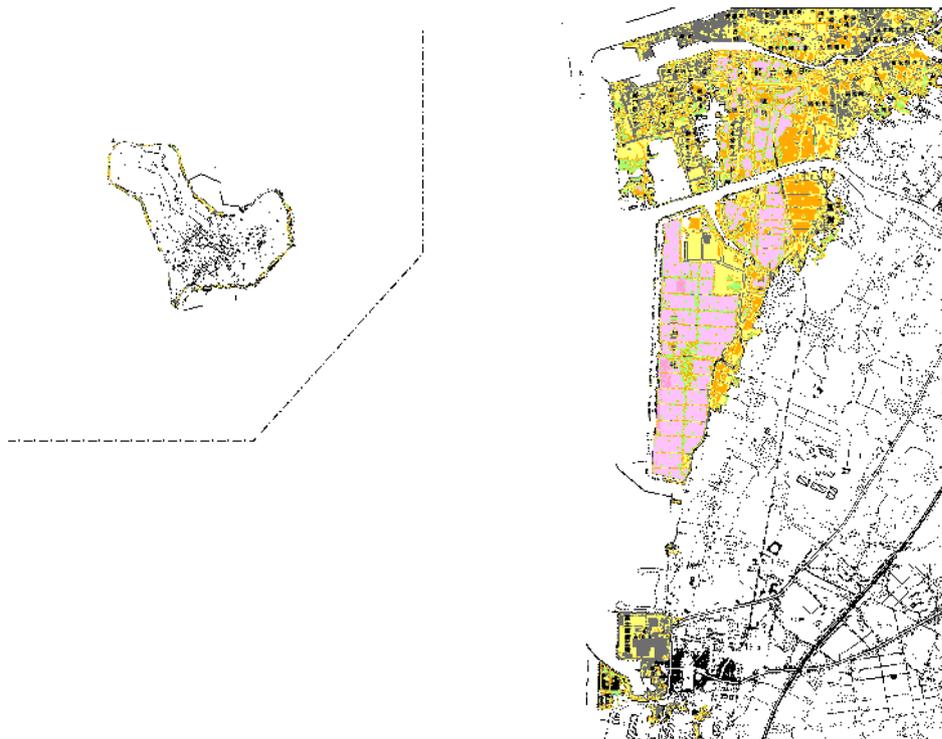


图 4.3.2 观音寺市②・伊吹島

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



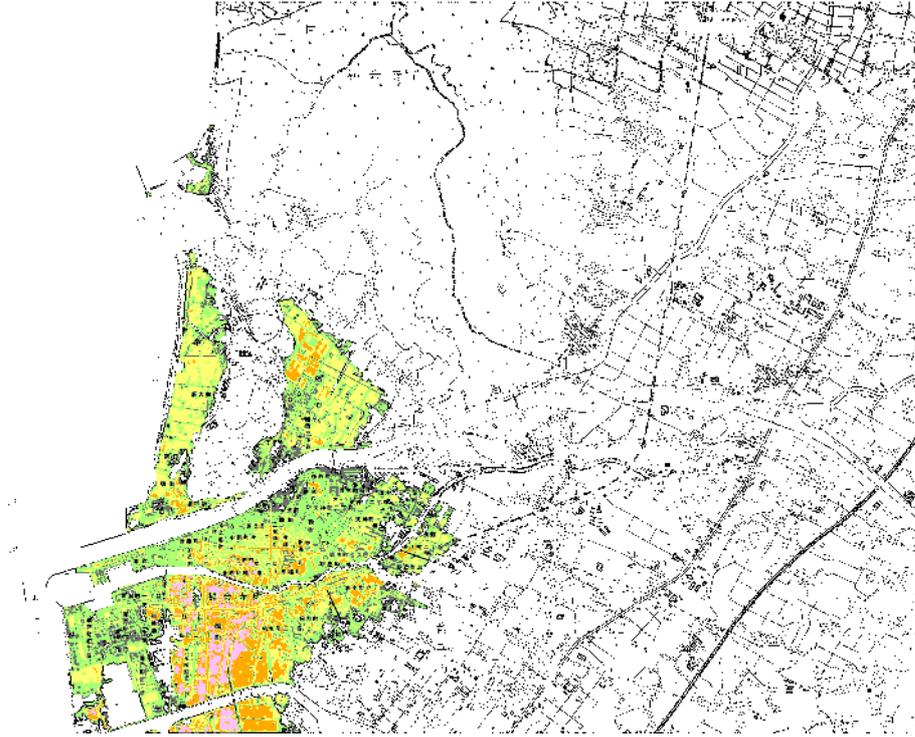


图 4.3.3 观音寺市③

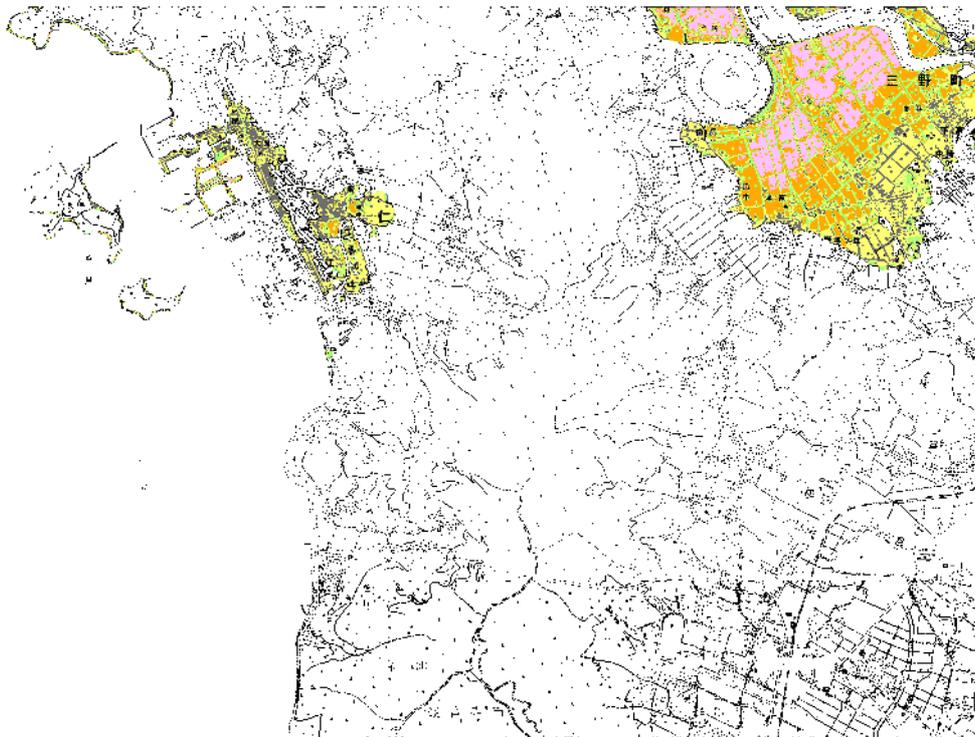


图 4.3.4 三豊市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



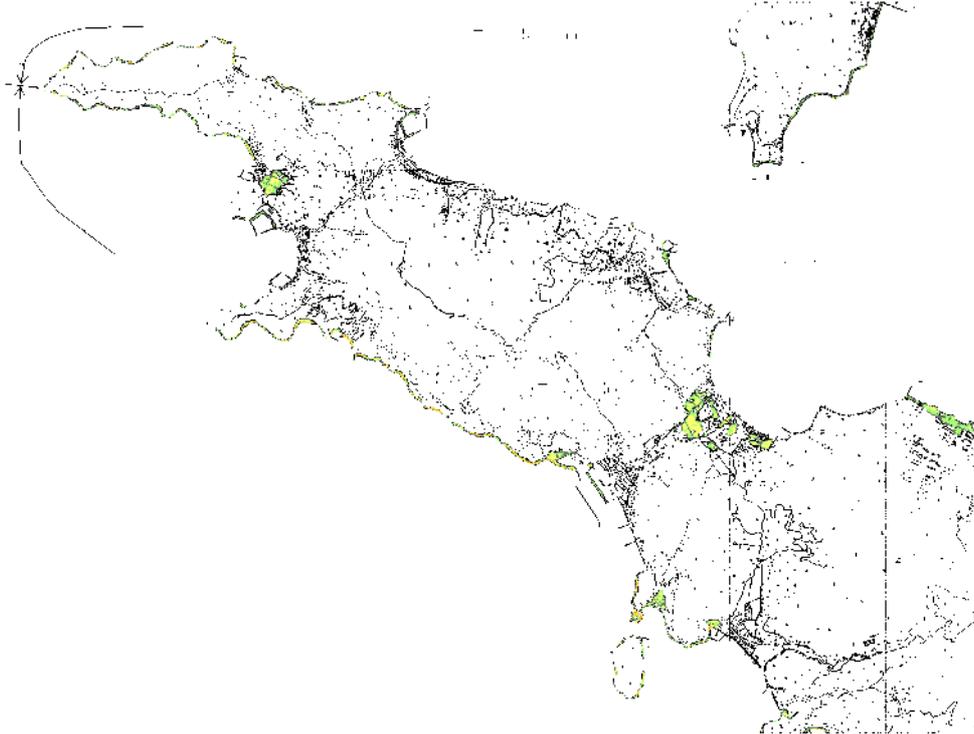


图 4.3.5 三豊市②

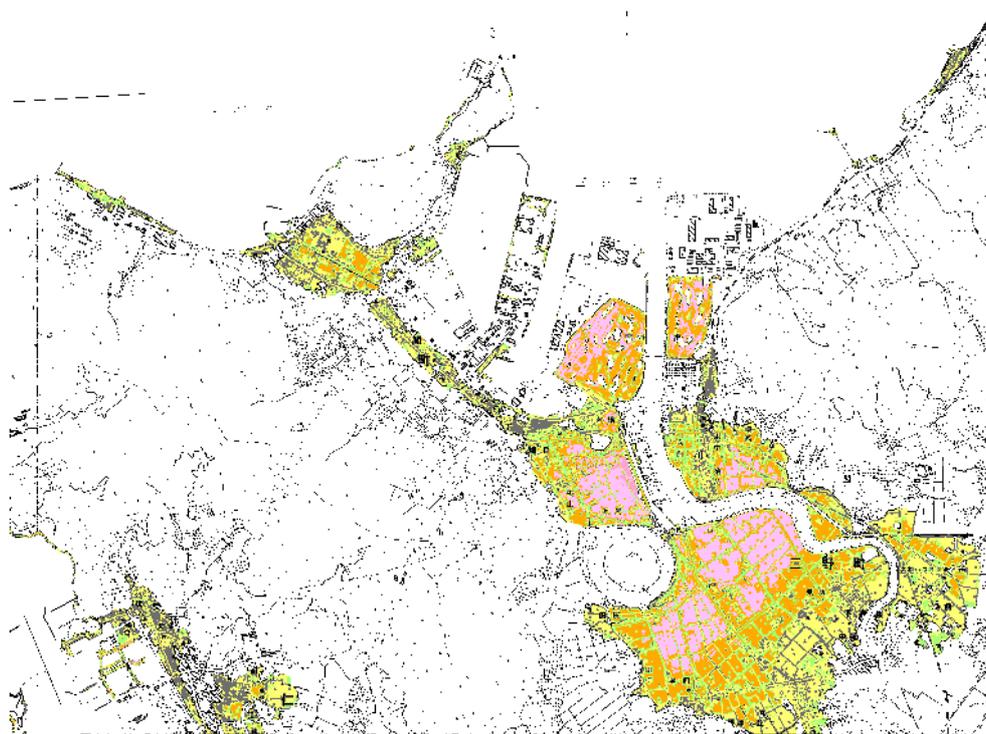


图 4.3.6 三豊市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



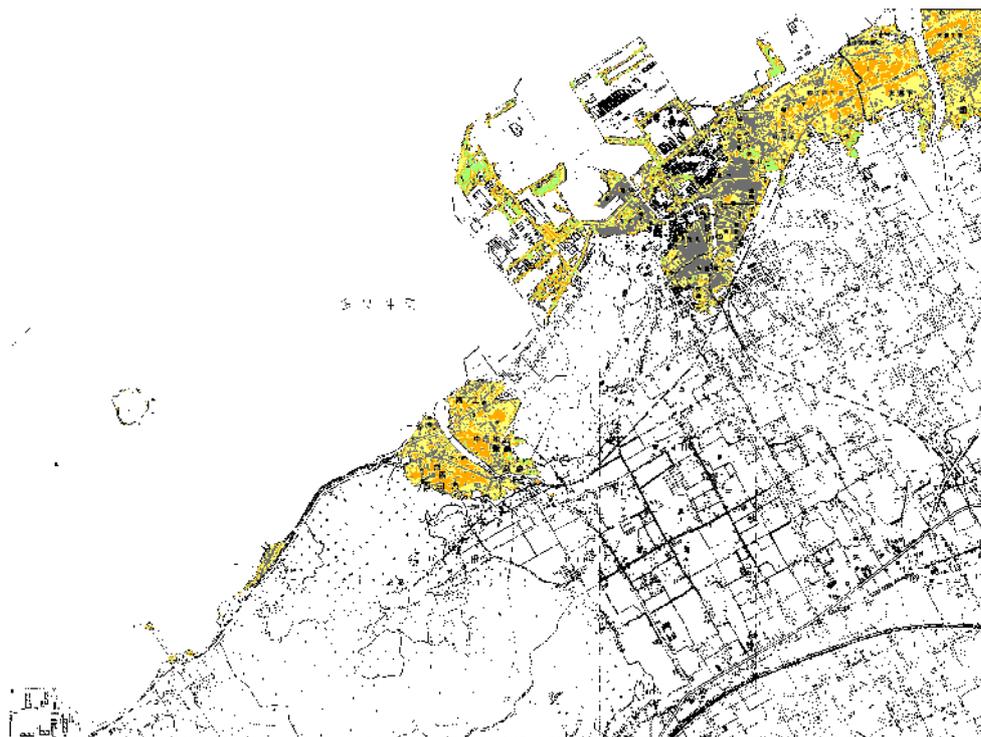


图 4.3.7 多度津町



图 4.3.8 丸龜市・宇多津町①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





图 4.3.9 宇多津町②・坂出市①



图 4.3.10 坂出市②

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3

0 0.5 1 1.5 2 km



图 4.3.11 坂出市③



图 4.3.12 高松市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





图 4.3.13 高松市②



图 4.3.14 高松市③



图 4.3.15 高松市④

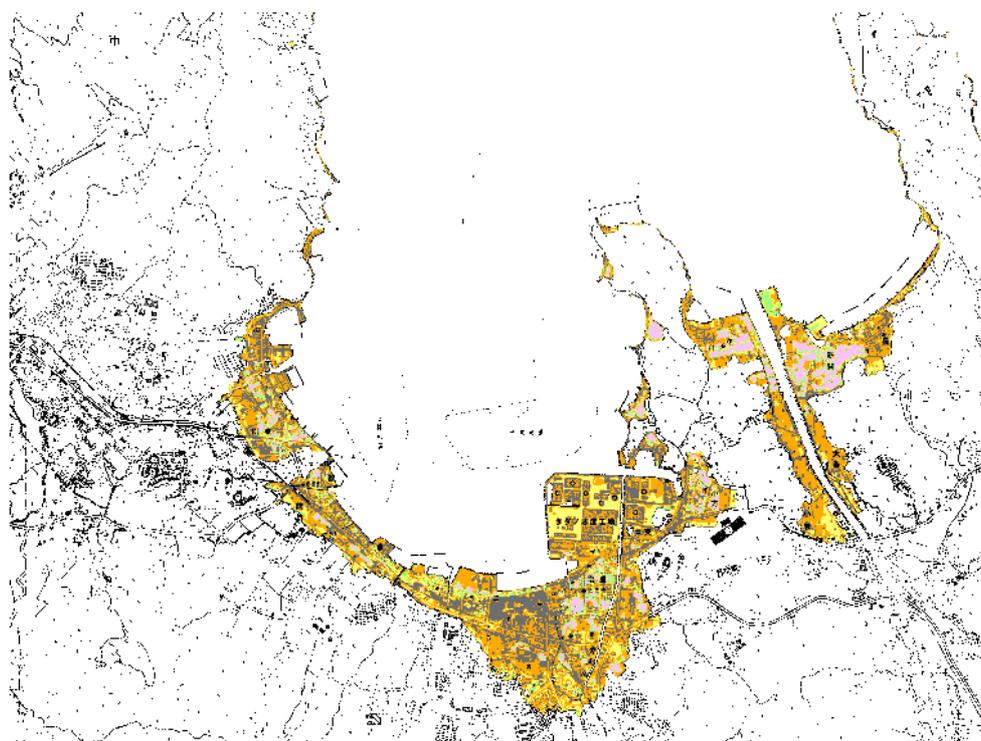


图 4.3.16 高松市⑤・さぬき市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





図 4.3.17 さぬき市②

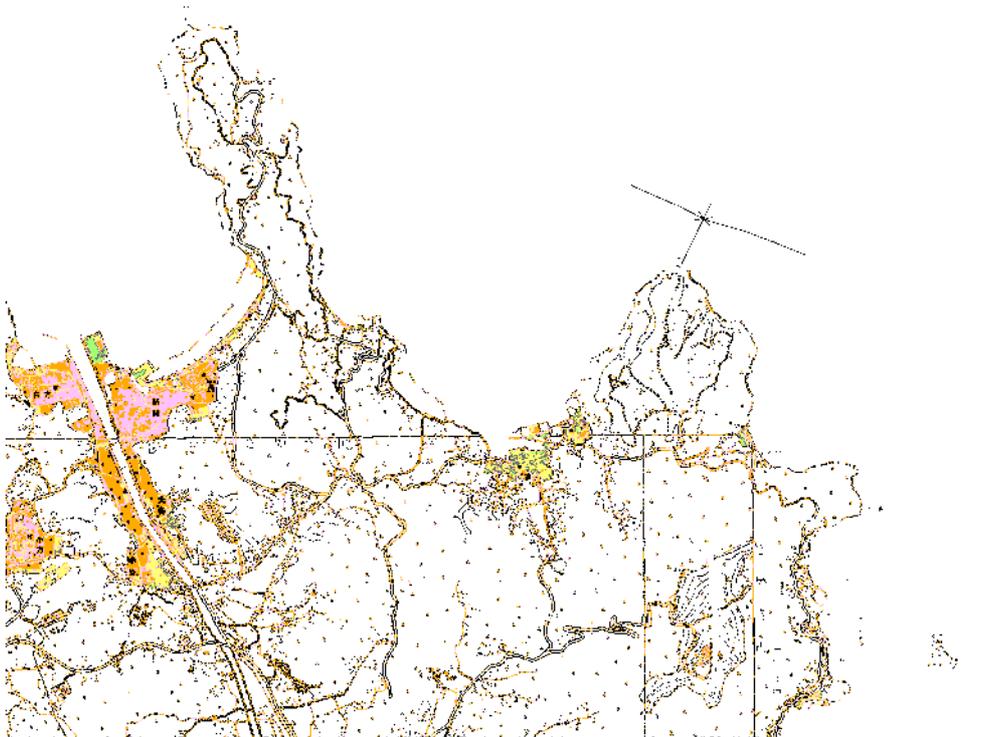


図 4.3.18 さぬき市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



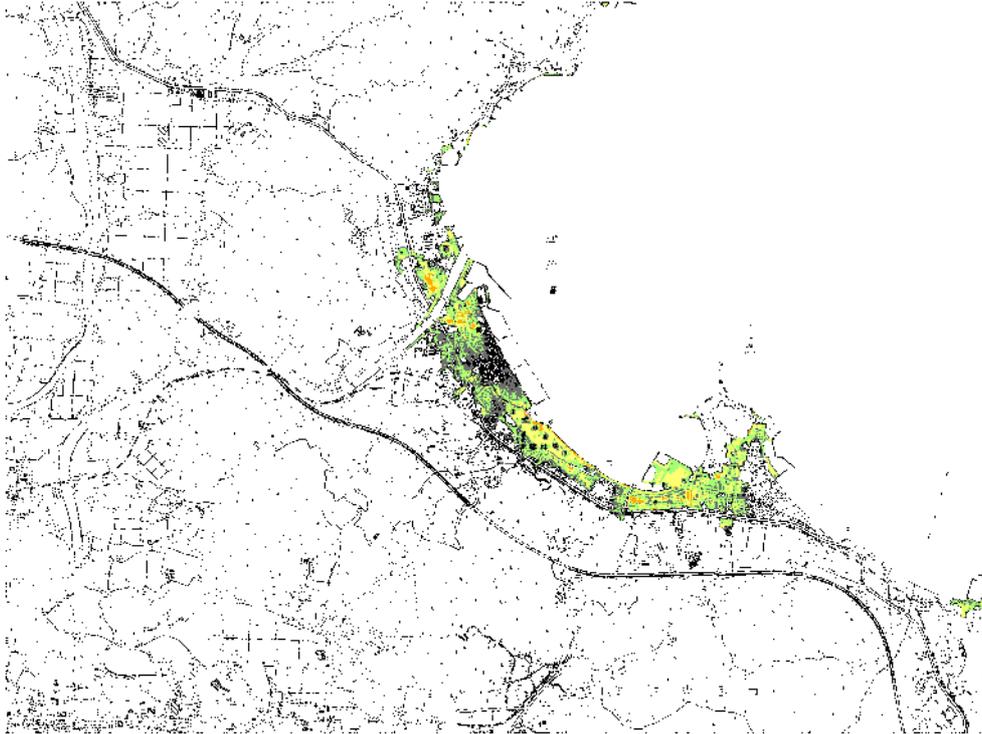


図 4.3.19 さぬき市④



図 4.3.20 東かがわ市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



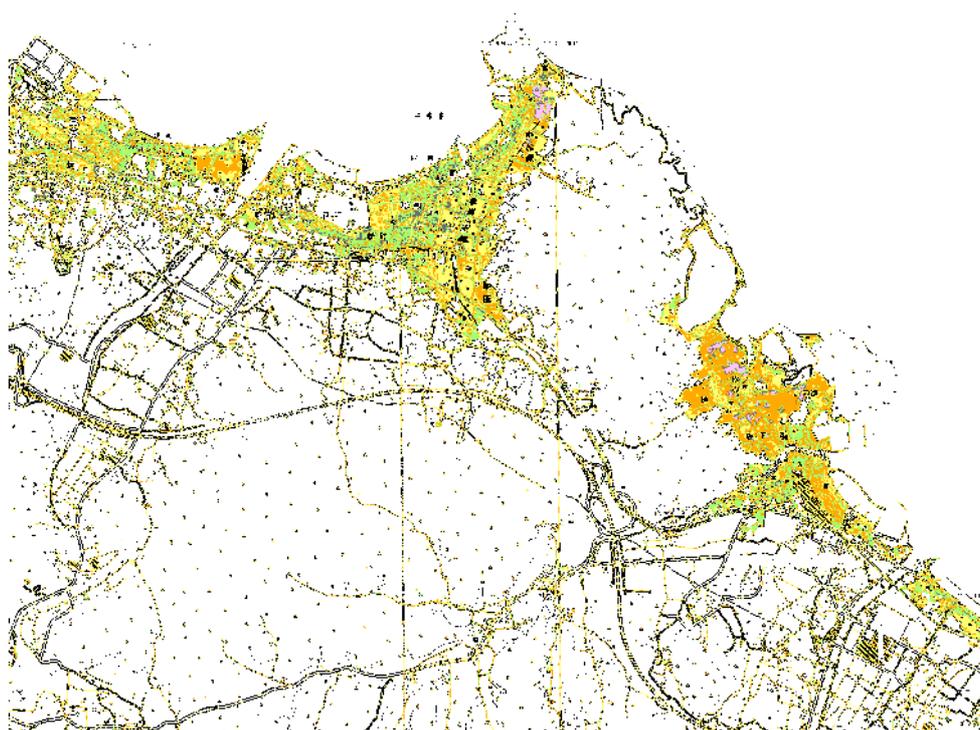


図 4.3.21 東かがわ市②

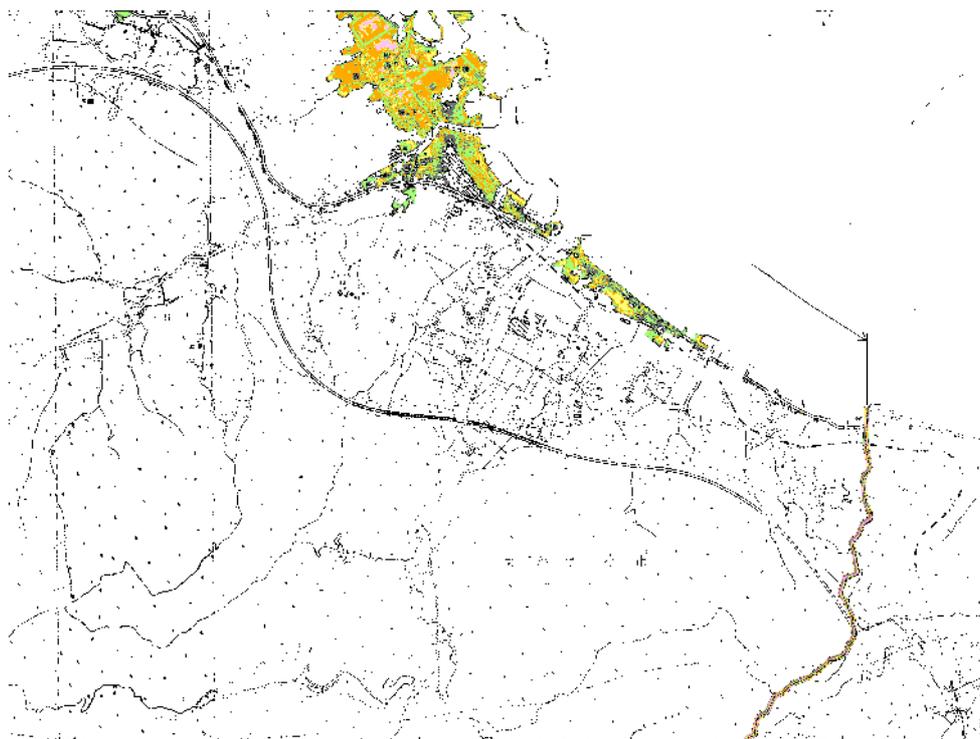


図 4.3.22 東かがわ市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





図 4.3.23 三豊市島しょ部



図 4.3.24 多度津町島しょ部

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



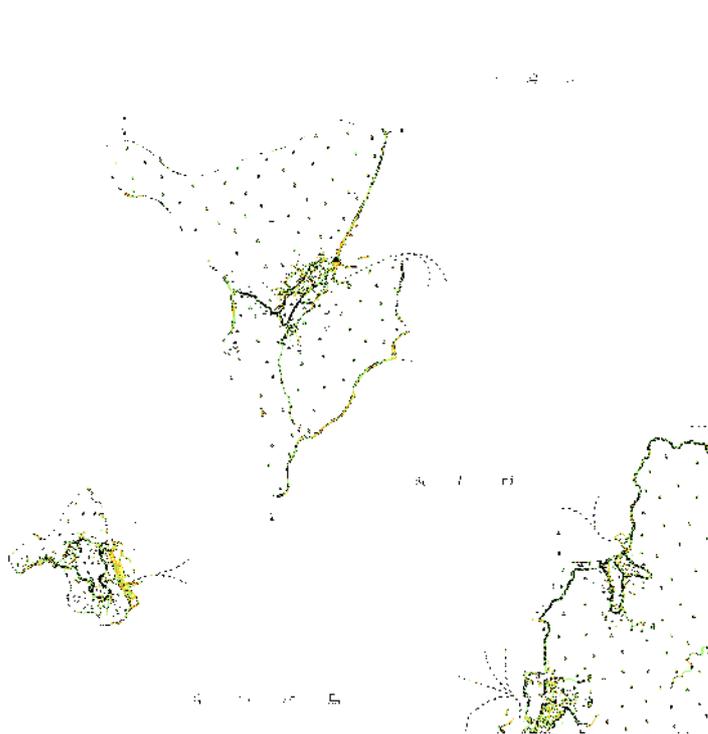


図 4.3.25 丸亀市島しょ部①

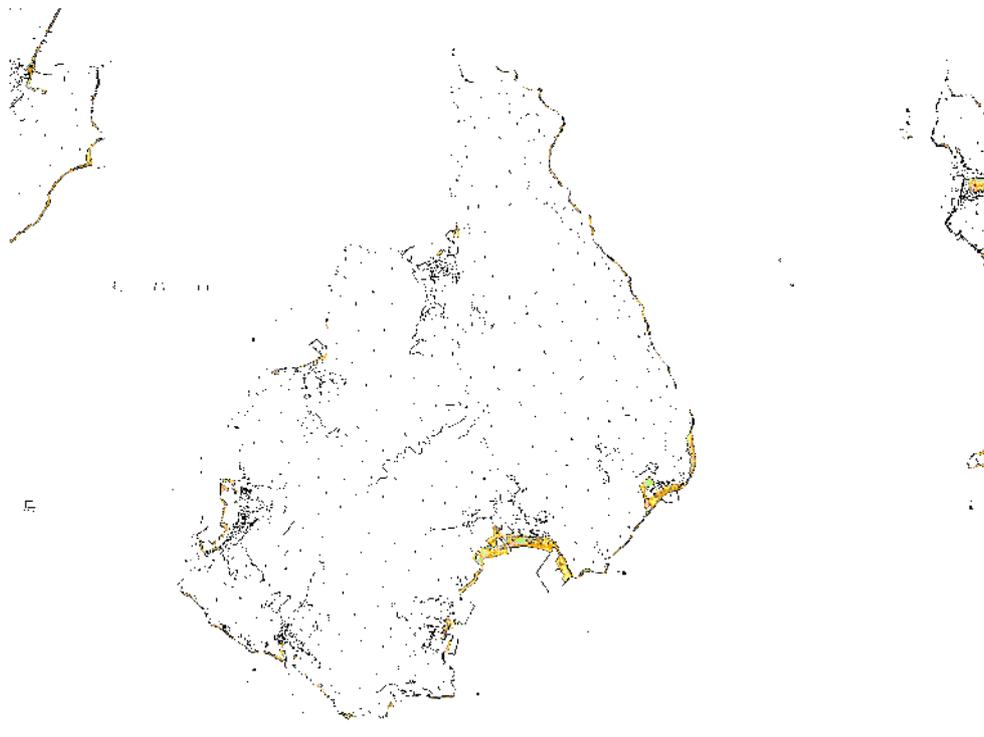


図 4.3.26 丸亀市島しょ部②

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



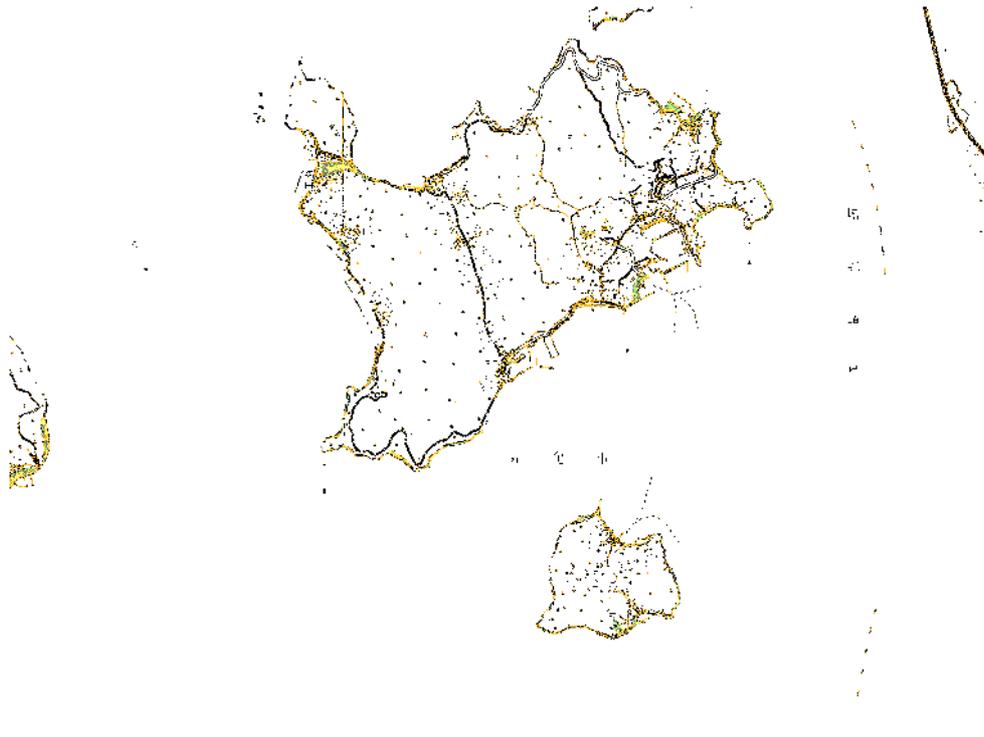


図 4.3.27 丸亀市島しょ部③



図 4.3.28 坂出市島しょ部

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



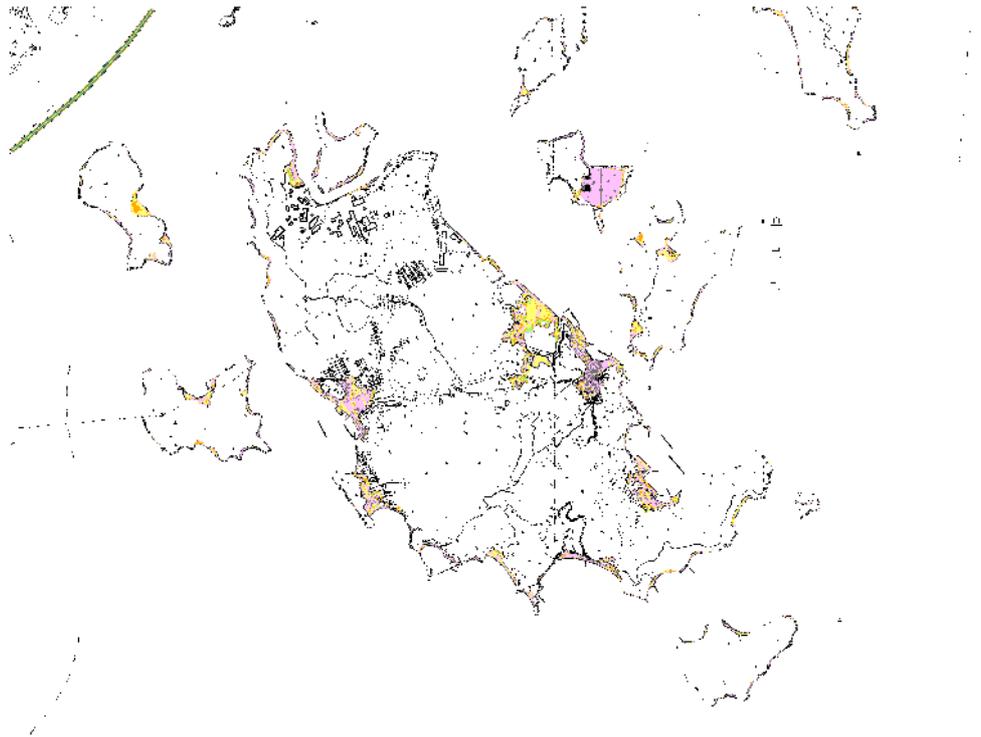


图 4.3.29 直島町①

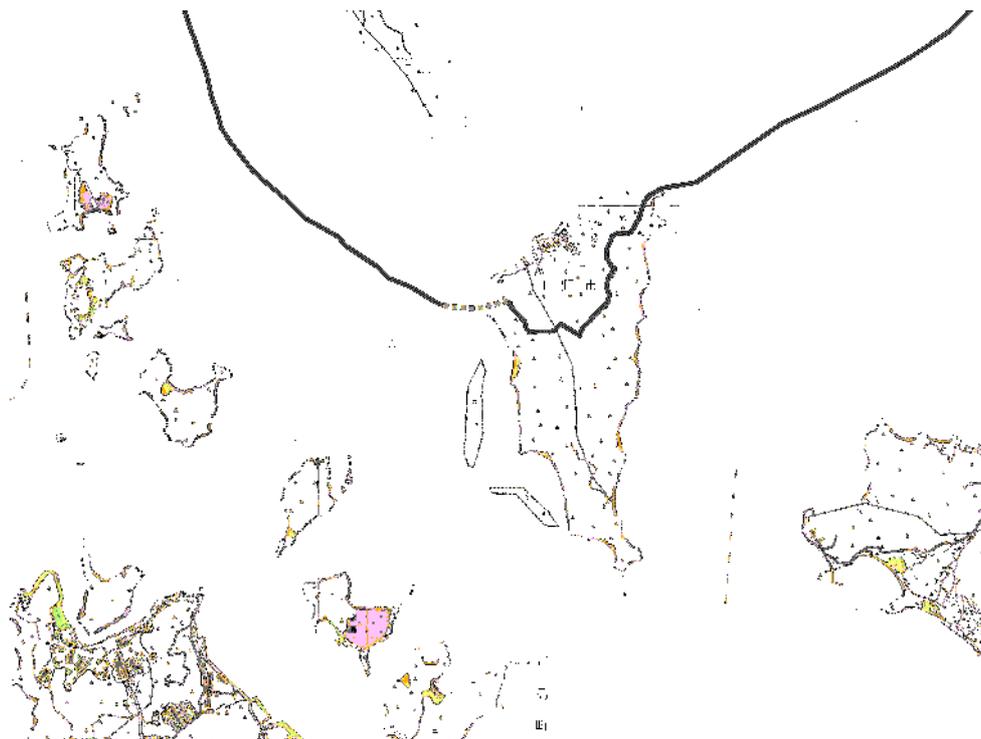


图 4.3.30 直島町②

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



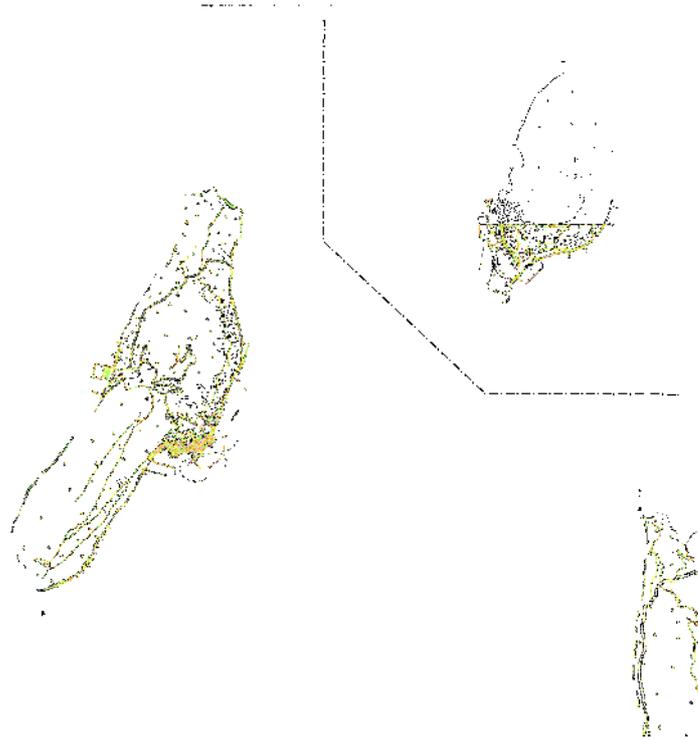


図 4.3.31 高松市島しょ部

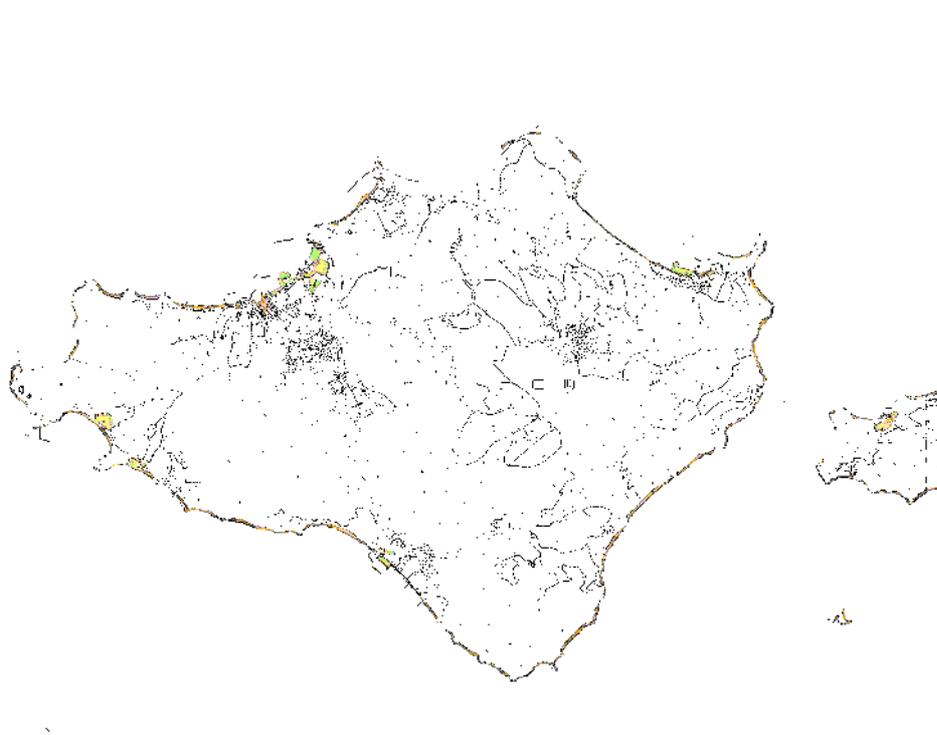


図 4.3.32 土庄町①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





图 4.3.33 土庄町②

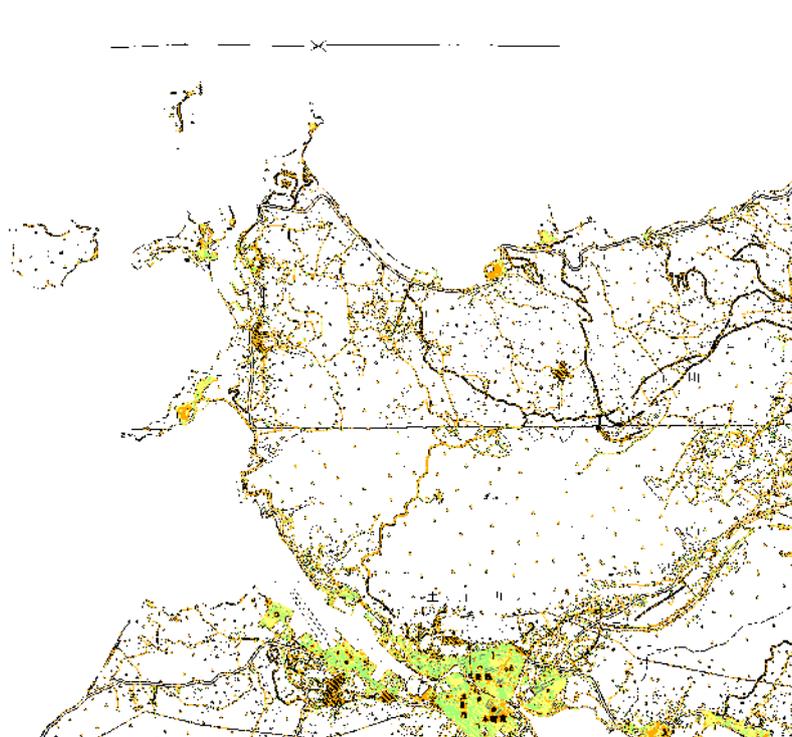


图 4.3.34 土庄町③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



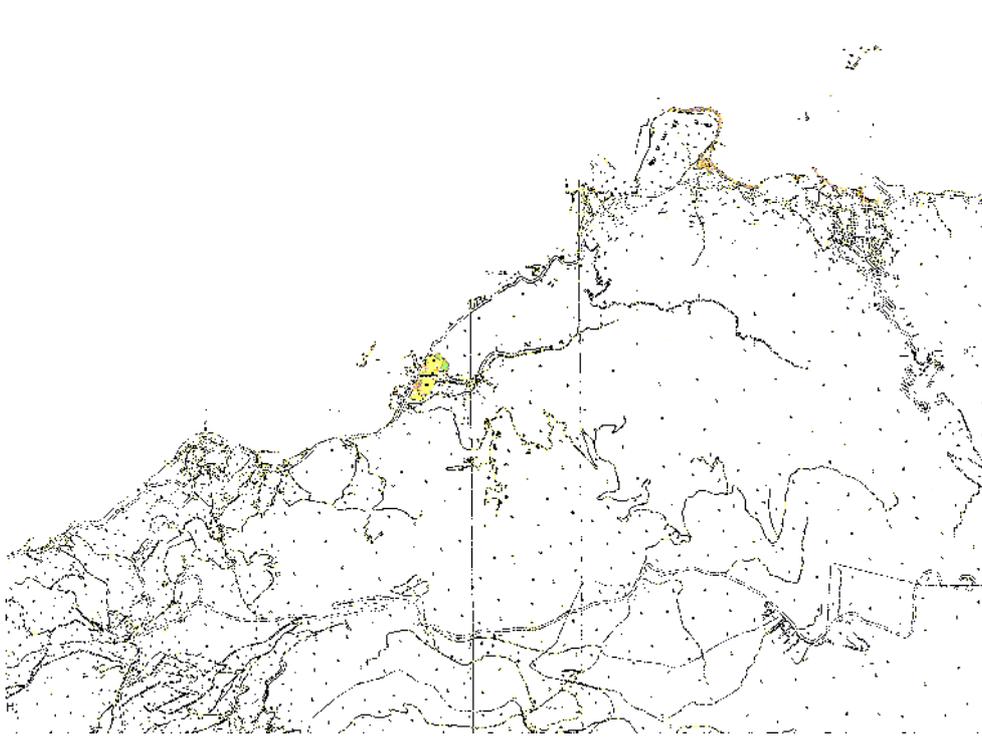


图 4.3.35 土庄町④

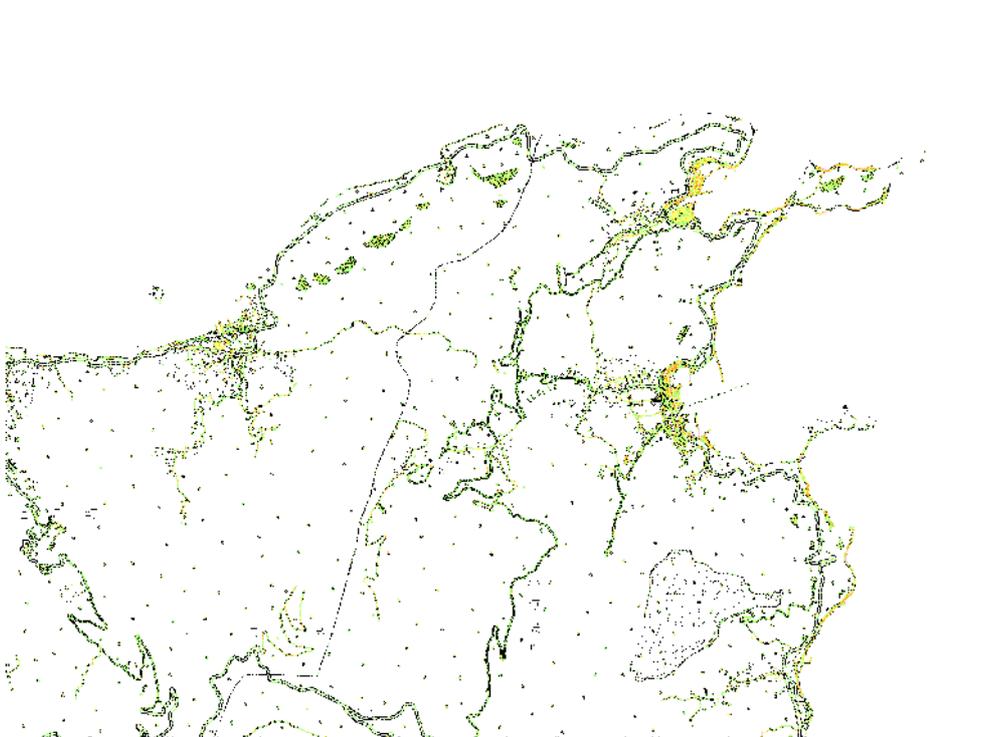


图 4.3.36 土庄町⑤・小豆島町①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



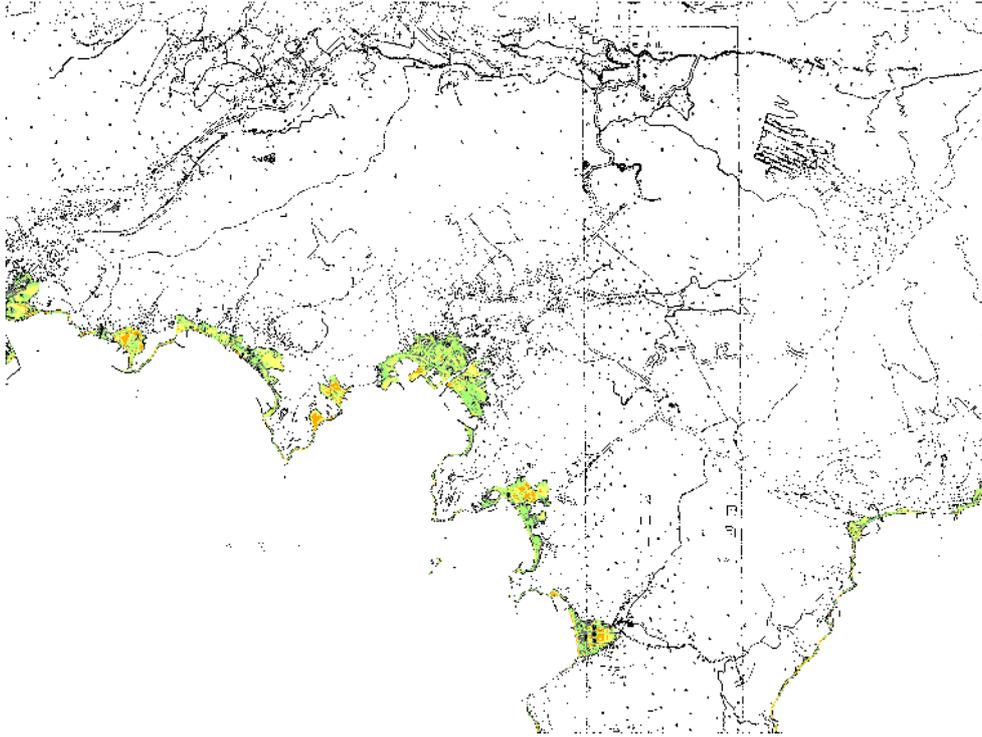


图 4.3.37 小豆島町②

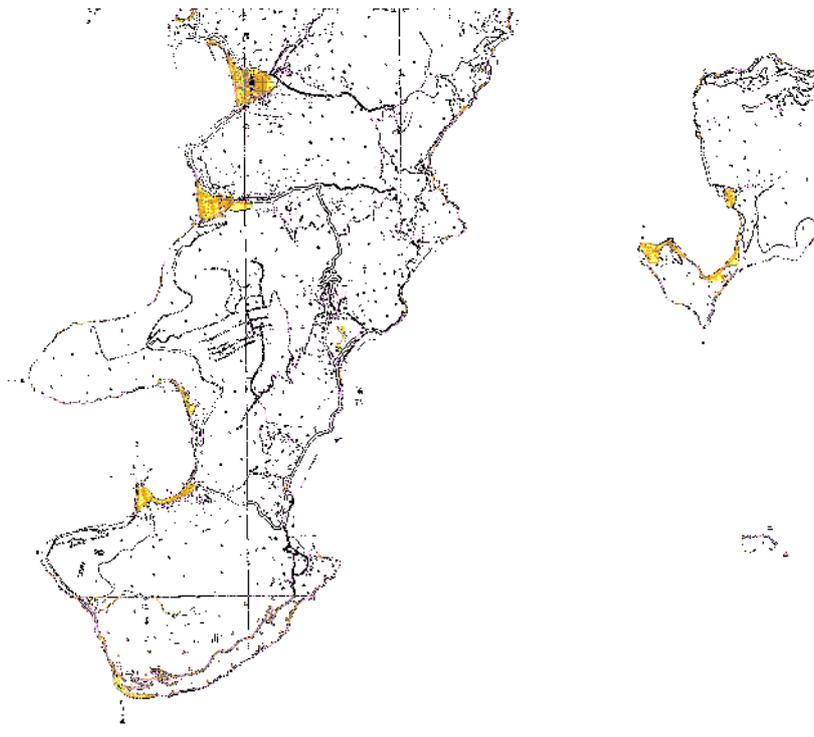


图 4.3.38 小豆島町③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



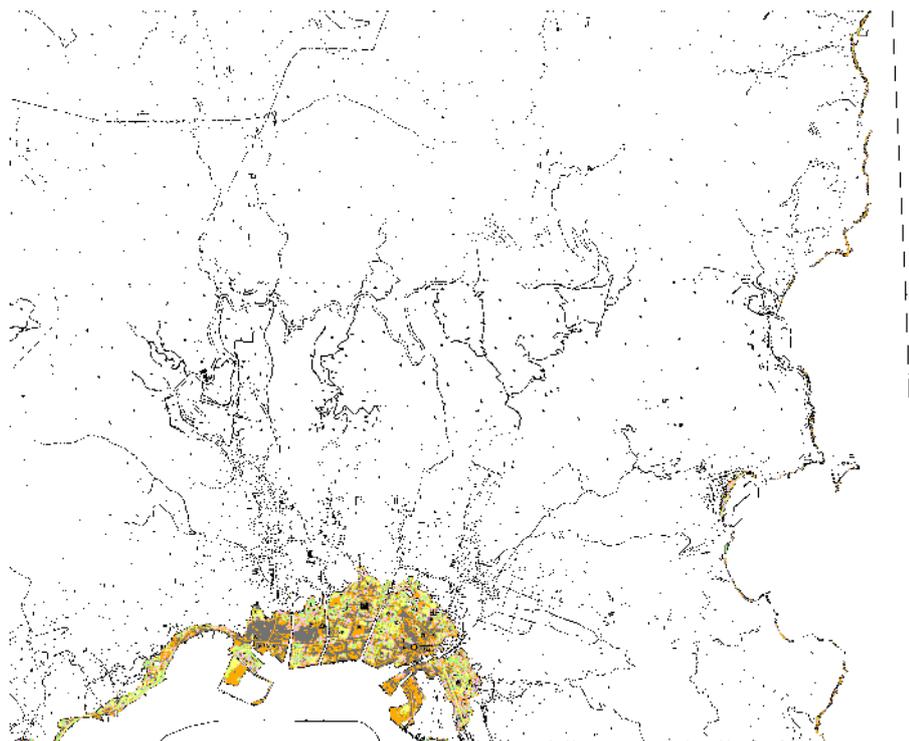


图 4.3.39 小豆島町④

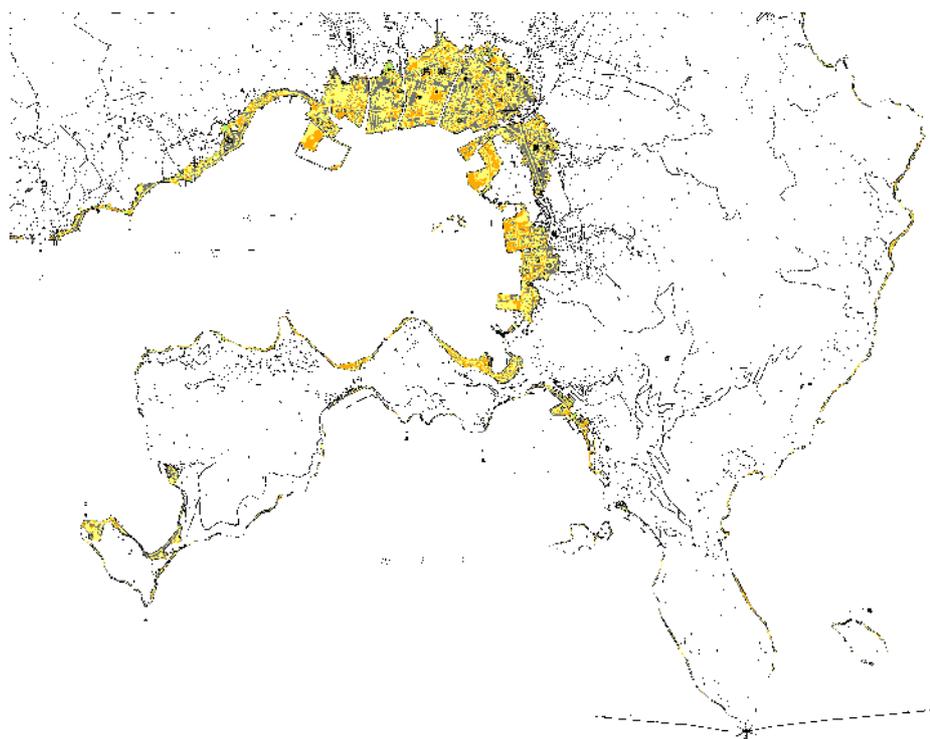


图 4.3.40 小豆島町⑤

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



4.3.2 南海トラフの発生頻度の高い地震の津波

(1) 津波の概要

南海トラフで発生する発生頻度の高い津波は、四国沿岸域から、紀伊水道、豊後水道を通じて瀬戸内海に侵入し、地震発生後約 90 分で第 1 波が鳴門海峡を通過し、東かがわ市に到達する。

津波浸水想定結果を見ると、沿岸域に 1m～2m の津波が来襲するが、津波浸水深が小さいため、大きな被害は受けない可能性がある。

(2) 津波浸水想定区域図

津波浸水想定図は、採用モデルにおける浸水深（浸水する深さ）の最大値を想定区域図として示す。津波浸水想定図は、採用モデルにおける浸水深（浸水する深さ）の最大値を想定区域図として示す。なお、この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25,000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平成 24 情複、第 930 号）(C)Esri Japan

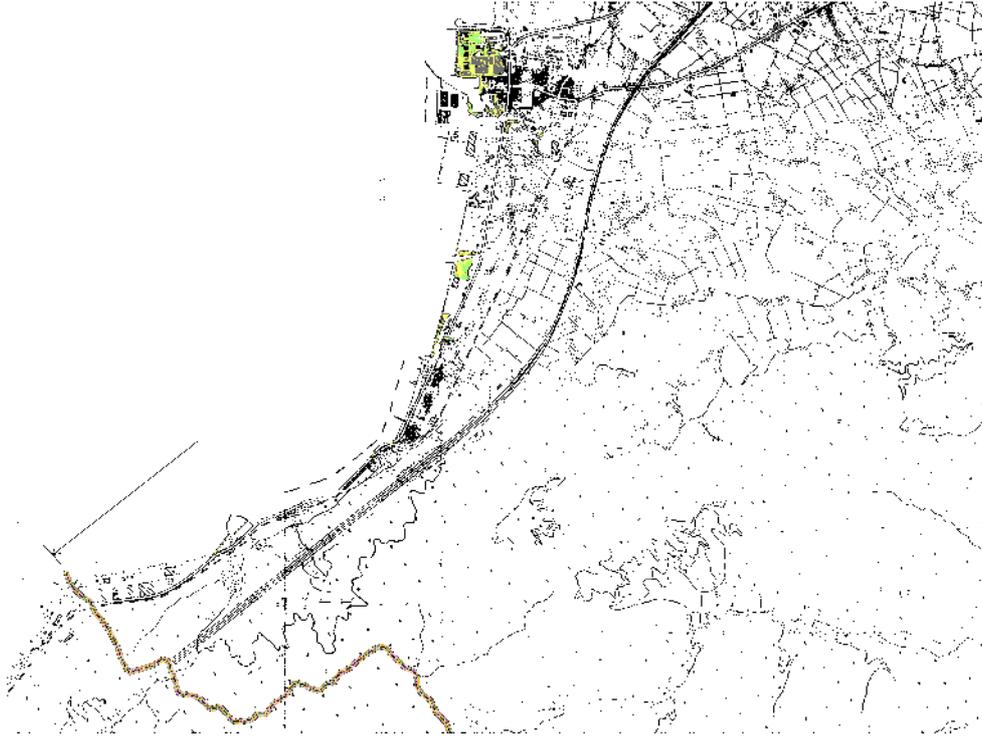


图 4.3.41 观音寺市①



图 4.3.42 观音寺市②・伊吹島

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





图 4.3.43 观音寺市③



图 4.3.44 三豊市①

浸水深(m)

	4.0 ~ 5.0
	3.0 ~ 4.0
	2.0 ~ 3.0
	1.0 ~ 2.0
	0.3 ~ 1.0
	0.01 ~ 0.3



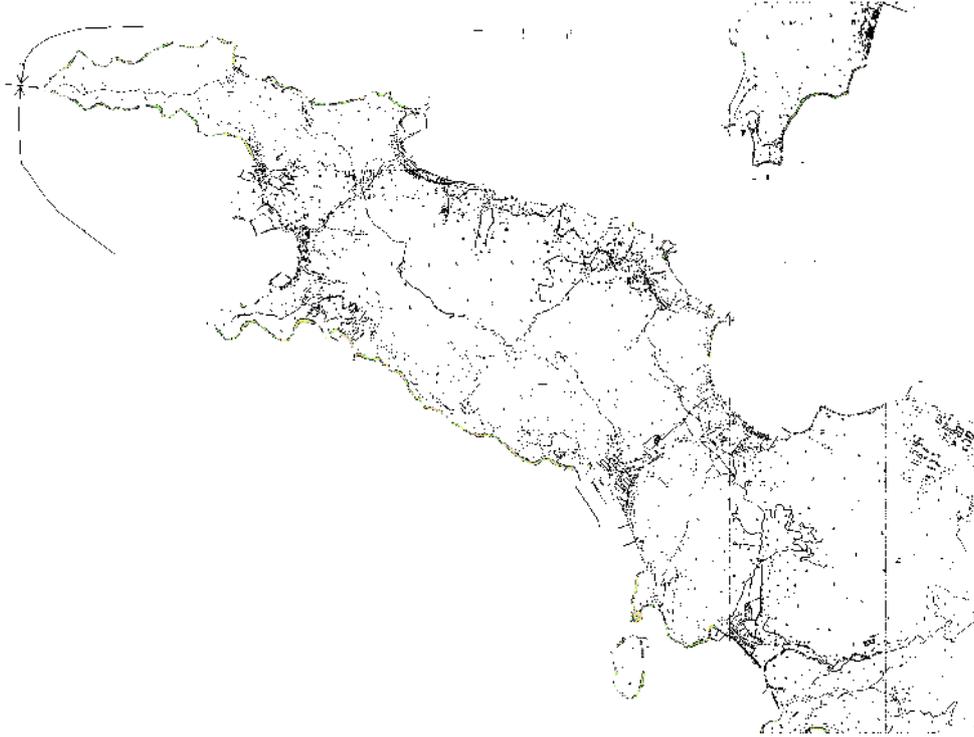


图 4.3.45 三豐市②



图 4.3.46 三豐市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3

0 0.5 1 1.5 2 km



图 4.3.47 多度津町



图 4.3.48 丸亀市・宇多津町①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





图 4.3.49 宇多津町②・坂出市①



图 4.3.50 坂出市②

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





图 4.3.51 坂出市③



图 4.3.52 高松市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





图 4.3.53 高松市②



图 4.3.54 高松市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



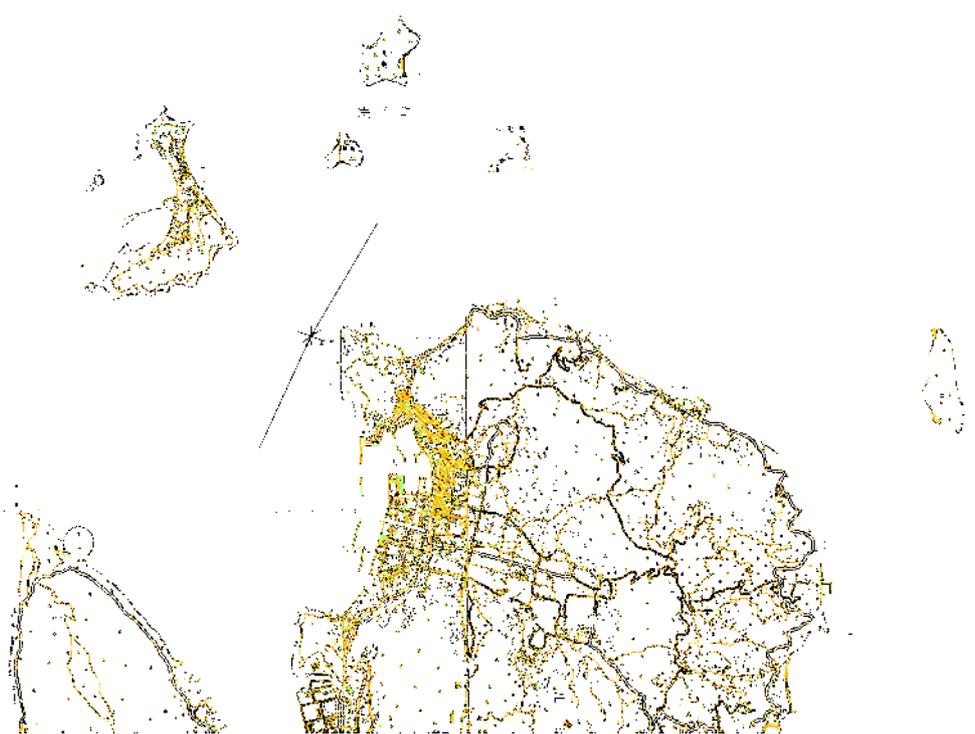


图 4.3.55 高松市④

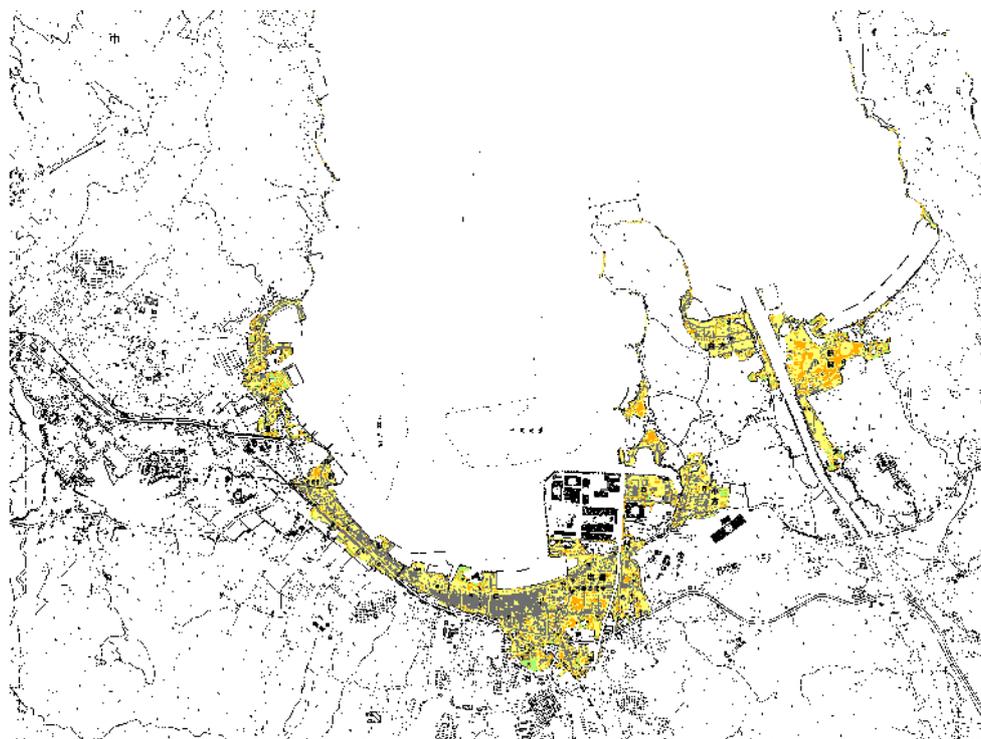


图 4.3.56 高松市⑤・さぬき市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





図 4.3.57 さぬき市②

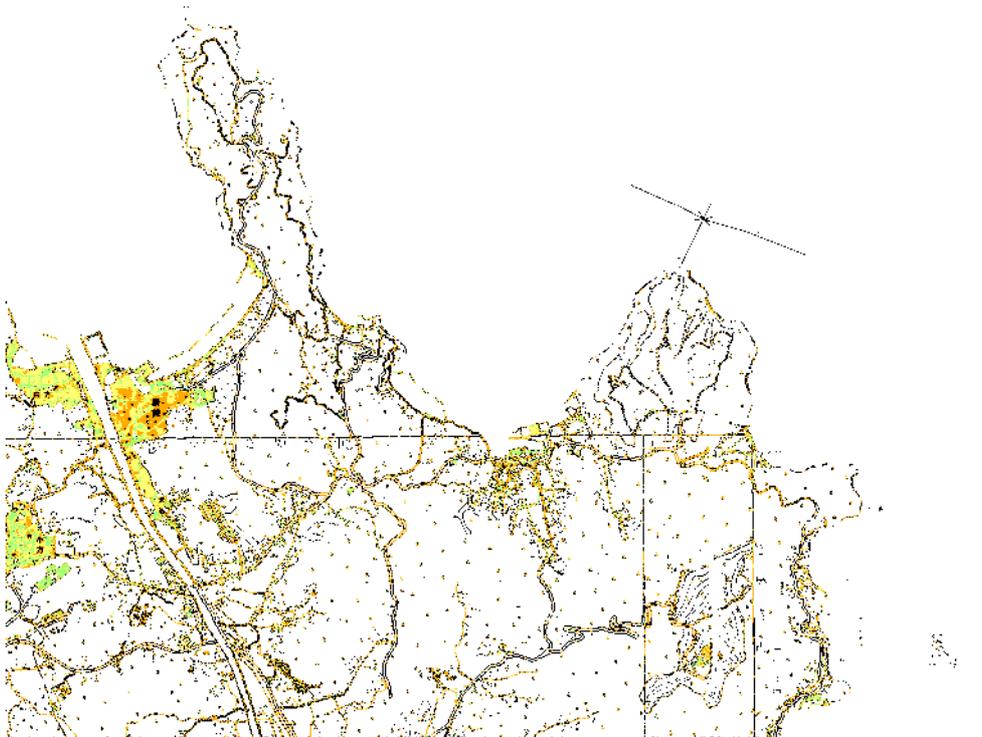


図 4.3.58 さぬき市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





図 4.3.59 さぬき市④



図 4.3.60 東かがわ市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





図 4.3.61 東かがわ市②

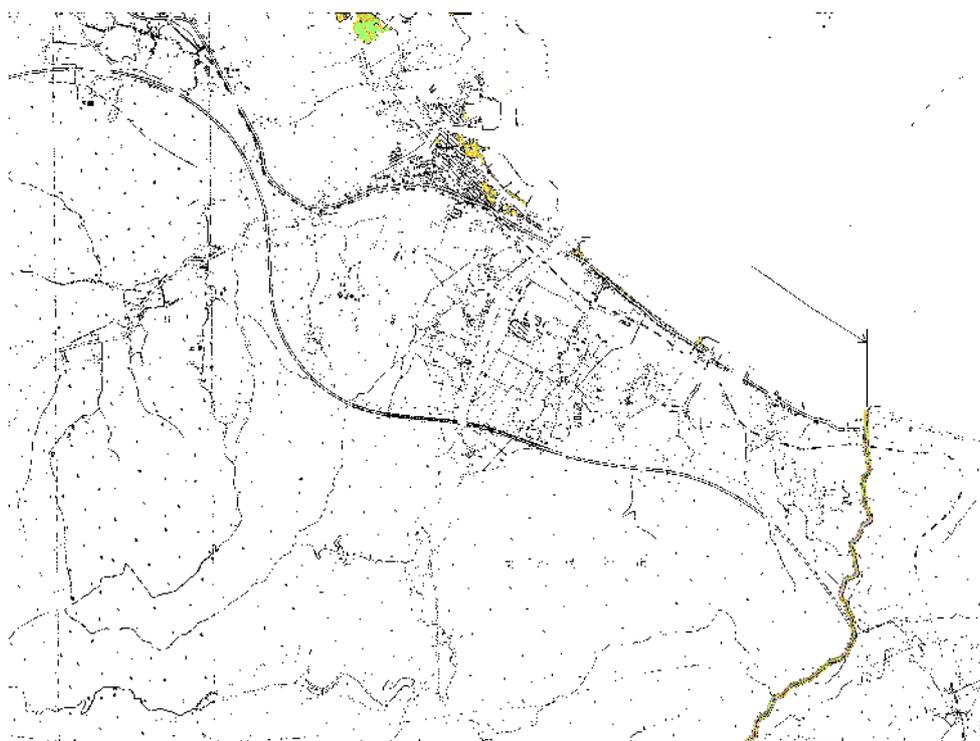


図 4.3.62 東かがわ市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



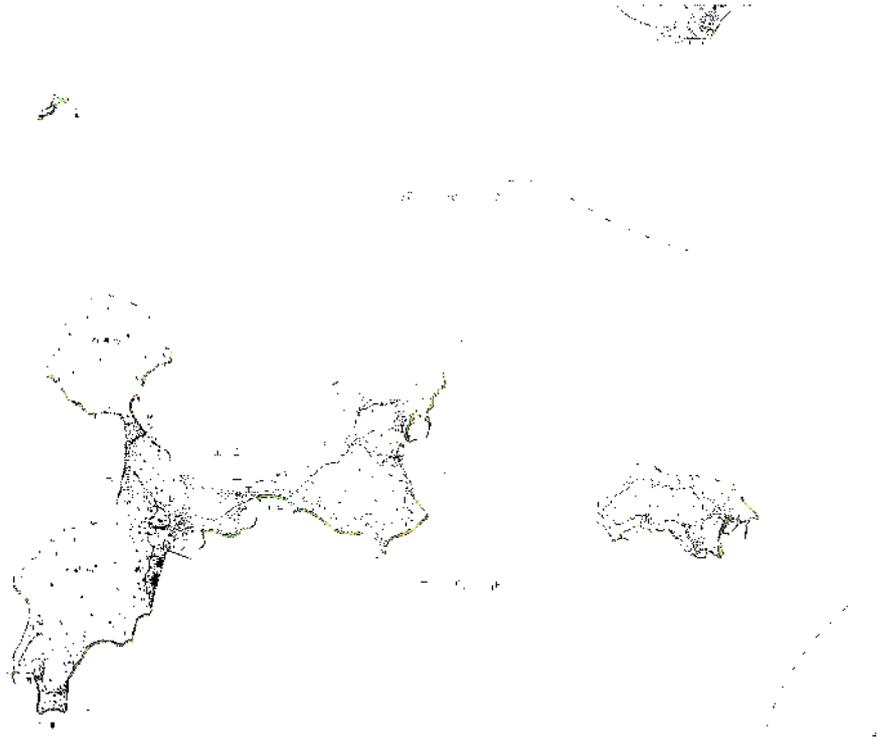


図 4.3.63 三豊市島しょ部



図 4.3.64 多度津町島しょ部

浸水深(m)

■	4.0 ~ 5.0
■	3.0 ~ 4.0
■	2.0 ~ 3.0
■	1.0 ~ 2.0
■	0.3 ~ 1.0
■	0.01 ~ 0.3





図 4.3.65 丸亀市島しょ部①

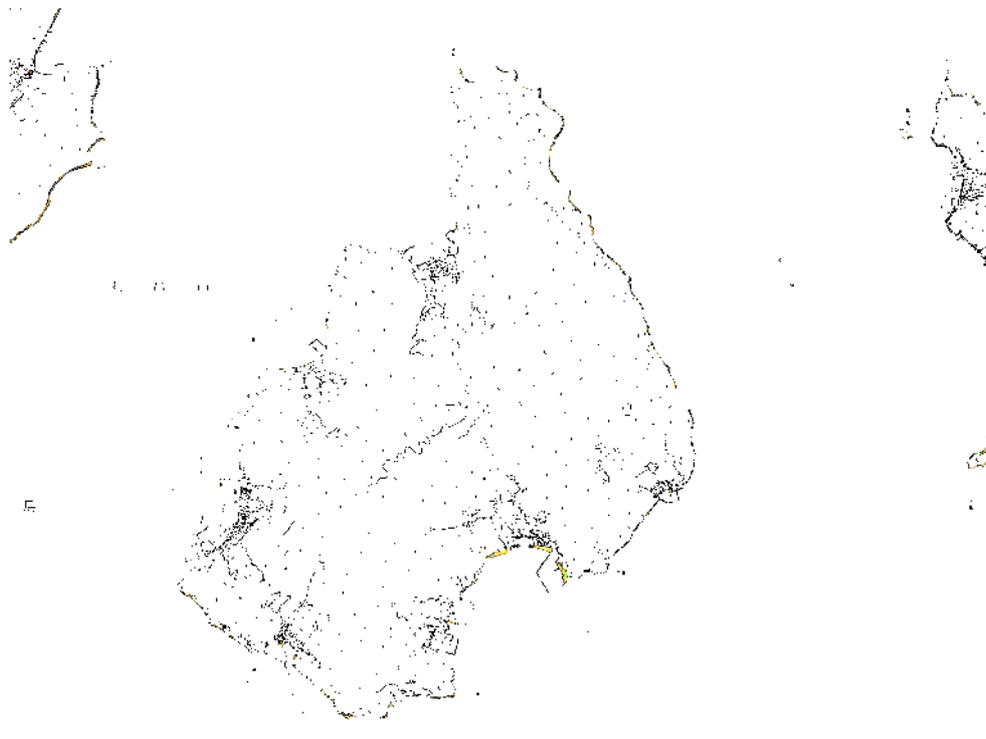


図 4.3.66 丸亀市島しょ部②

浸水深(m)

	4.0 ~ 5.0
	3.0 ~ 4.0
	2.0 ~ 3.0
	1.0 ~ 2.0
	0.3 ~ 1.0
	0.01 ~ 0.3





図 4.3.67 丸亀市島しょ部③



図 4.3.68 坂出市島しょ部

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



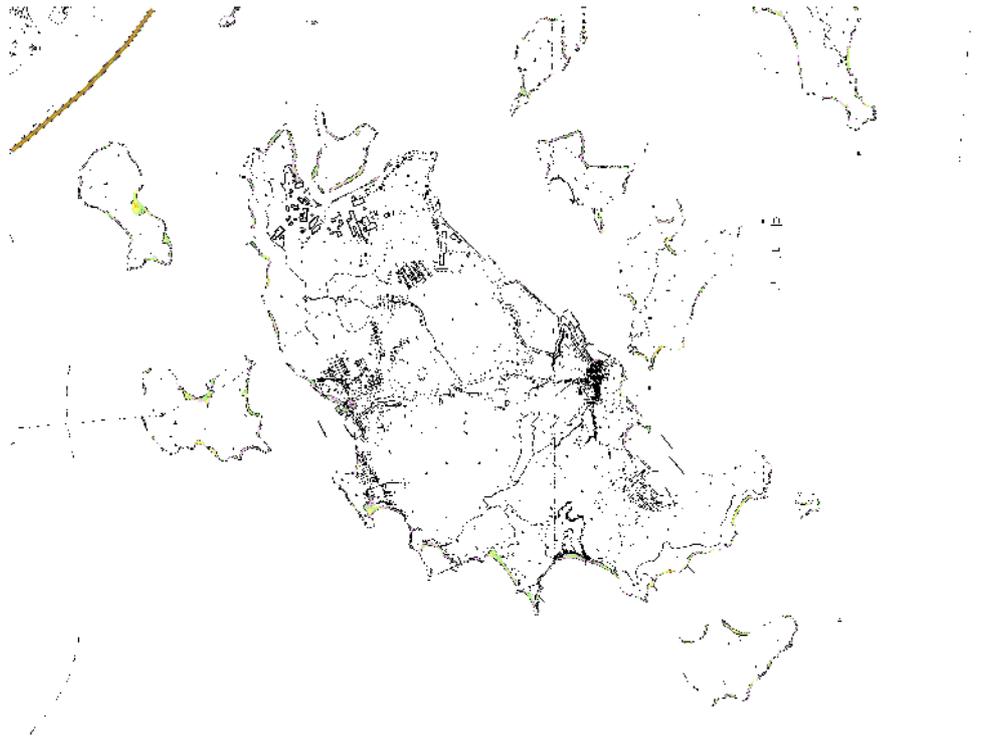


图 4.3.69 直島町①



图 4.3.70 直島町②

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



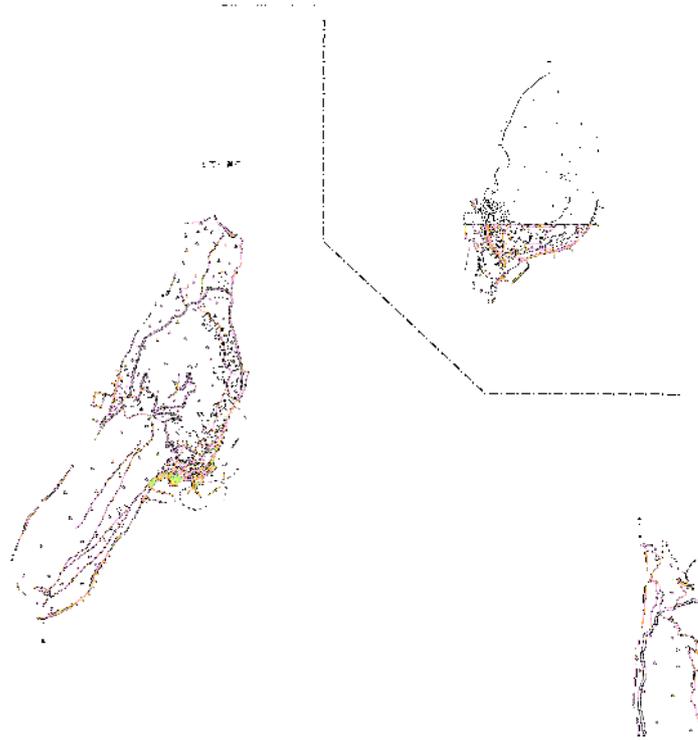


図 4.3.71 高松市島しょ部

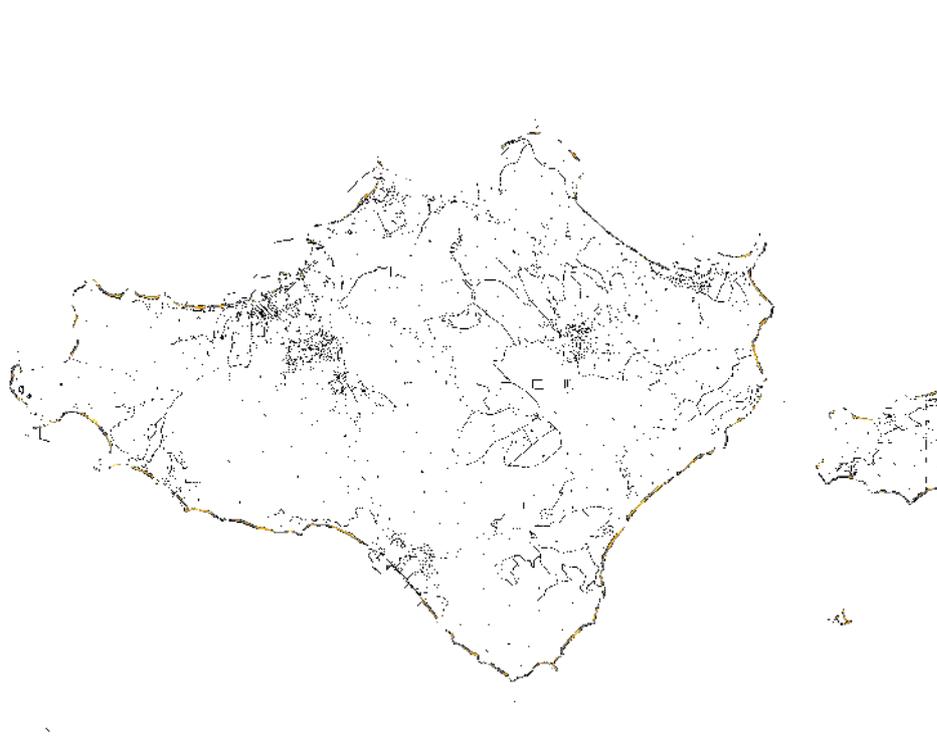


図 4.3.72 土庄町①

浸水深(m)

	4.0 ~ 5.0
	3.0 ~ 4.0
	2.0 ~ 3.0
	1.0 ~ 2.0
	0.3 ~ 1.0
	0.01 ~ 0.3





图 4.3.73 土庄町②



图 4.3.74 土庄町③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



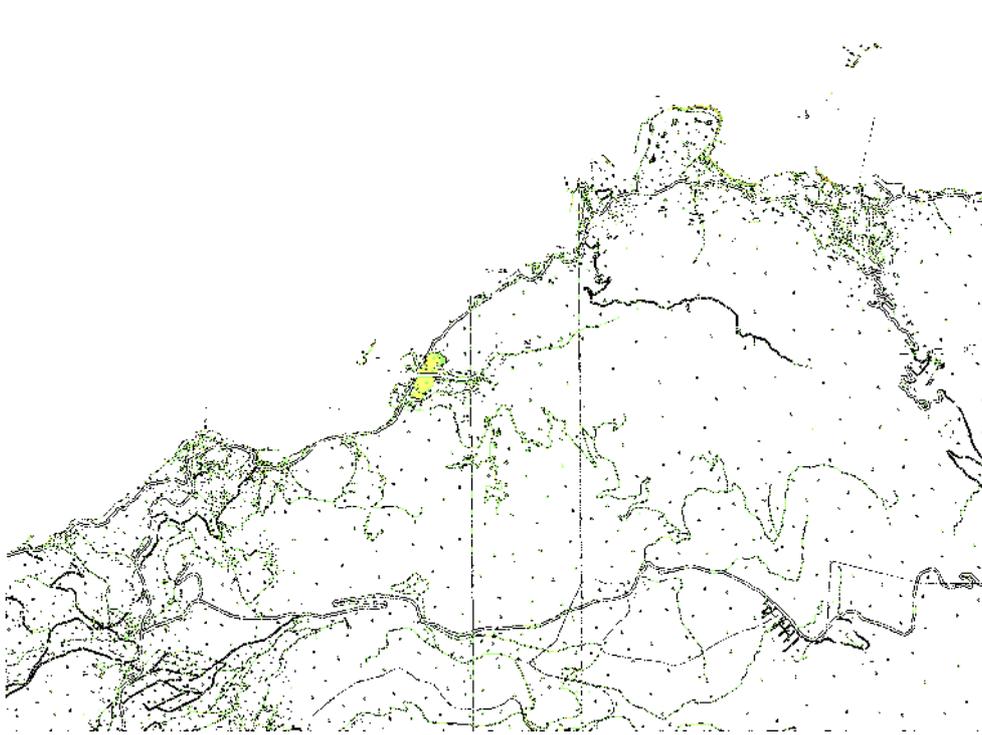


图 4.3.75 土庄町④

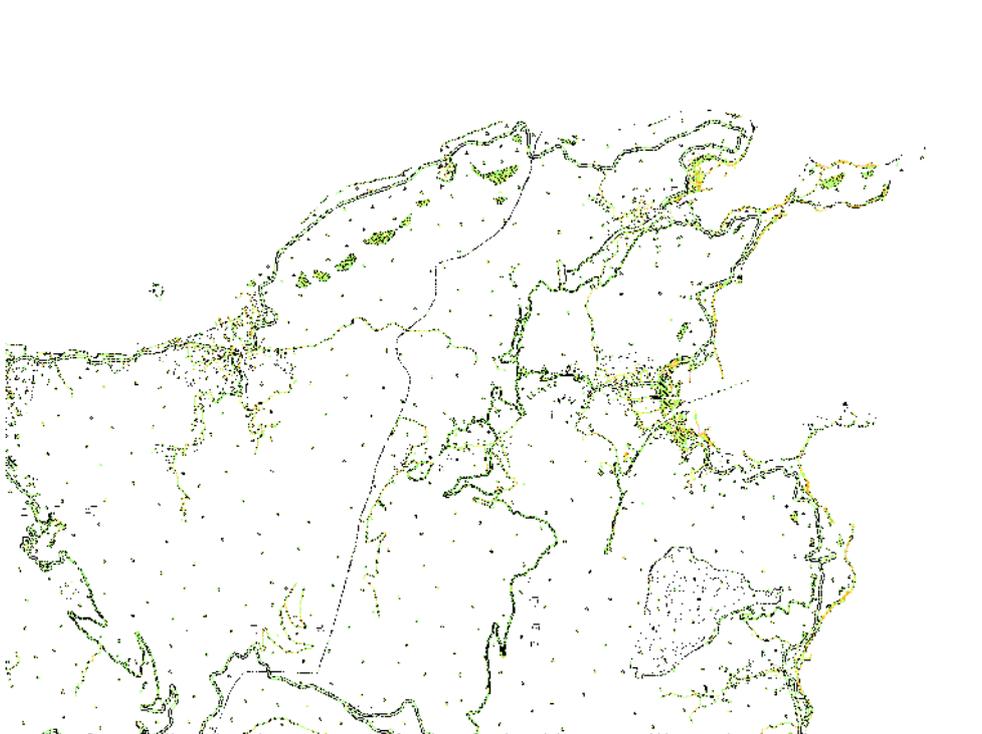


图 4.3.76 土庄町⑤・小豆島町①

浸水深(m):

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





图 4.3.77 小豆島町②

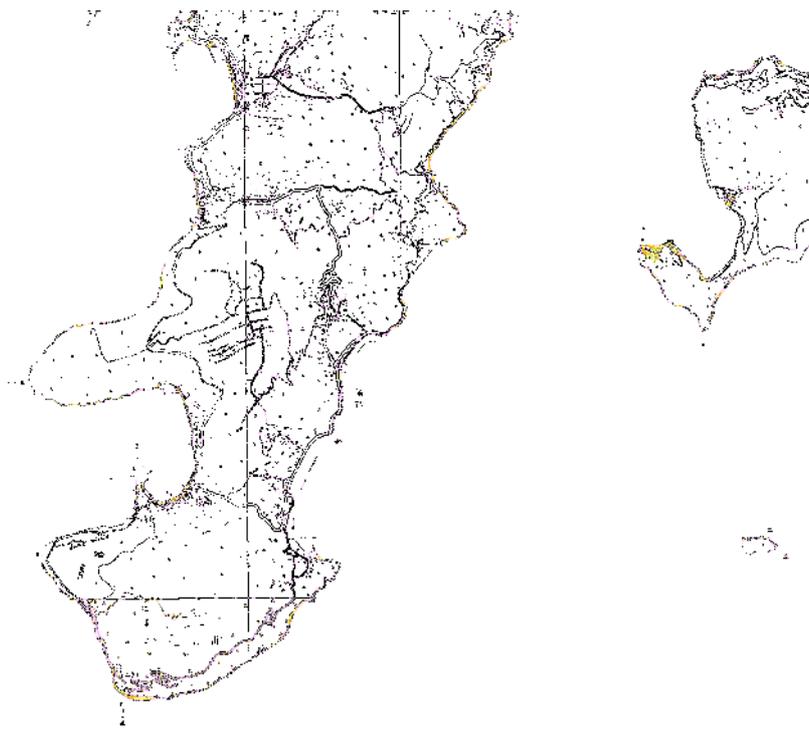


图 4.3.78 小豆島町③

浸水深(m)

	4.0 ~ 5.0
	3.0 ~ 4.0
	2.0 ~ 3.0
	1.0 ~ 2.0
	0.3 ~ 1.0
	0.01 ~ 0.3



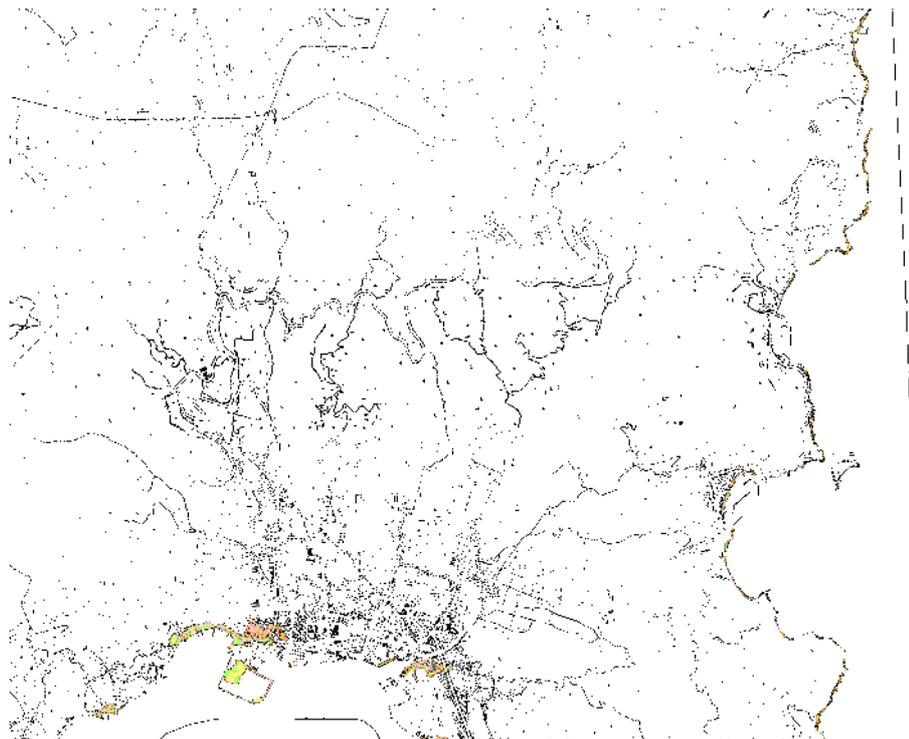


图 4.3.79 小豆島町④

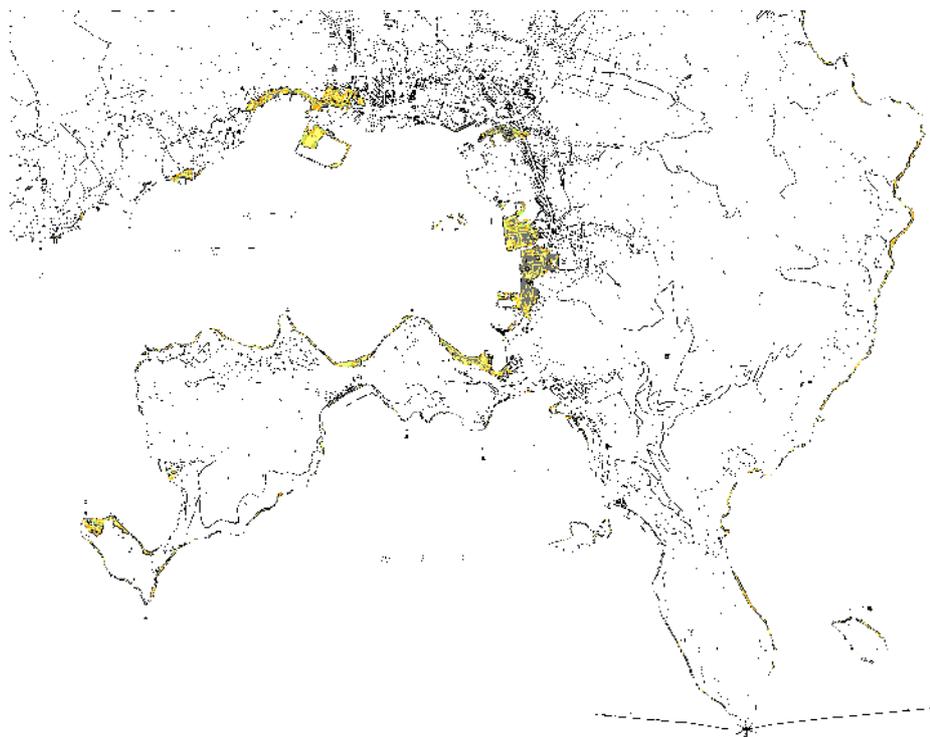


图 4.3.80 小豆島町⑤

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



III 人的・物の被害想定

1. 被害想定の設定条件

1.1 被害想定に用いる地震・津波のケースの選定

被害想定の対象とする地震は、海溝型の「南海トラフの最大クラス地震」と「南海トラフの発生頻度の高い地震」の2ケースと、直下型の「中央構造線で発生する地震」と「長尾断層で発生する地震」の2ケースを選定した。

被害想定予測では、香川県内の各市町に対して被害が最大となる組み合わせを採用することにした。被害が最大になる組み合わせとは、各地震断層と津波波源のケースに対して、地盤の揺れと津波浸水域から暴露人口を算出し、その大小により決定した。

1.2 被害想定項目

被害想定項目は、以下に示すように、建物被害、屋外転倒・落下物の発生、人的被害、ライフライン被害、交通施設被害、生活への影響、災害廃棄物、及びその他の被害とした。

表 1.2.1 被害想定予測項目と手法（その1）

予測項目		予測手法	評価項目
建物被害	揺れによる被害	計測震度－被害率曲線（構造、建築年代別）により被害を予測	全壊棟数
	液状化による被害	地盤沈下量－被害率曲線（構造、建築年代別）により被害を予測	全壊棟数
	津波による被害	津波浸水深－被害率曲線（構造、建築年代別）により被害を予測	全壊棟数
	急傾斜地崩壊による被害	耐震性危険度ランクと崩壊確率等から被害を予測	全壊棟数
	地震火災による被害	震度階から出火件数を予測し、消防運用等を考慮し、シミュレーション解析から延焼エリアを予測	延焼棟数
人的被害	建物倒壊による人的被害	全壊棟数－死者数の関係、全壊・半壊棟数－負傷者の関係から被害を予測	死者・負傷者
	津波による人的被害	津波避難未完了者の最大浸水深に対する死者率から被害を予測	死者、負傷者
	急傾斜地崩壊による人的被害	急傾斜地の被害棟数－死者・負傷者・重傷者数との関係式により被害を予測	死者・負傷者
	火災による人的被害	出火建物からの逃げ遅れ、閉じこめ、逃げまどい人口と死者数との関係式から被害を予測	死者・負傷者
	ブロック塀等の転倒による人的被害	塀転倒件数に対する被害を予測	死者・負傷者
	自動販売機の転倒による人的被害	自動販売機転倒件数に対する被害を予測	死者・負傷者
	屋外落下物による被害	屋外落下物が予想される建物から被害を予測	死者・負傷者
	屋内収容物移動・転倒による人的被害	建物の被害に対して震度別の被害を予測	死者・負傷者
	屋内落下物による人的被害	建物の被害に対して震度別の被害を予測	死者・負傷者
	揺れによる建物被害に伴う要救助者（自力脱出困難者）	建物全壊率と救助が必要となる自力脱出困難者数から被害を予測	自力脱出困難者数

表 1.2.1 被害想定予測項目と手法（その2）

予測項目		予測手法	評価項目
人的被害	津波被害に伴う要救助者・要搜索者	津波の最大浸水深より高い階の滞留人口を要救助者として予測	要救助者
ライフライン	上水道	管種・管径別の地表加速度と被害率の関係式より被害箇所を予測 浄水場の地震動被害、津波浸水等から機能停止影響を予測 発災直後からの経過日数別の断水人口を復旧状況から予測	被害箇所数 経過日数別の断水人口
	下水道	管種・管径別の震度階と被害率より被害箇所を予測 処理場の地震動被害、津波浸水等による機能停止影響エリアから予測 発災直後からの経過日数別の機能支障人口を復旧状況から予測	被害箇所数 経過日数別の機能支障人口
	電力	津波浸水被害、火災延焼・建物全壊による電柱折損・地中線用設備被害等から被害を予測 発災直後からの経過日数別の停電軒数を復旧状況から予測	経過日数別の停電軒数
	通信 (固定電話・携帯電話)	火災延焼による被害、揺れによる電柱折損から不通回線数を予測 発災直後からの経過日数別の不通回線数を停電・電柱の復旧状況から予測	経過日数別の不通回線数
		携帯電話基地局の被害、基地局の被害等から停波基地局率、不通ランクを予測	停波基地局率 携帯電話不通 ランク
都市ガス	計測震度等から機能停止影響エリアを求め被害を予測 発災直後からの経過日数別の供給停止戸数を復旧状況から予測	経過日数別のガス供給停止戸数	
交通施設	道路	震度別や津波浸水域等から被害率を定めて被害箇所数を予測	被害箇所
	鉄道	震度別や津波浸水域別等から被害率を定めて被害箇所数を予測	被害箇所
	港湾	基礎に作用する加速度と被害率の関係より被害を予測	港湾施設被害
生活への影響	避難者	地震発生直後、1週間後、1ヶ月の避難者数を予測	避難者数
災害廃棄物等	災害廃棄物等	建物の全壊・焼失等による災害廃棄物と、津波による堆積物の発生量を予測	発生量
その他の被害	エレベータの停止	地震の揺れ・停電に伴いエレベータが停止する建物棟数を予測	停止棟数
	危険物施設	揺れによる影響として、危険物の火災・流出・破損箇所数を予測	被害箇所数
直接経済被害	建物被害	建物被害数量と原単位から建物の直接被害額を算出	直接経済被害
	ライフライン被害	ライフライン被害数量と原単位からライフラインの直接被害額を算出	
	交通施設等の被害	交通施設等の被害数量と原単位から交通施設の直接被害額を算出	

1.3 被害想定の時間帯

被害想定時間帯は、冬深夜、夏12時、冬18時とした。

表 1.3.1 被害想定算出の季節・時間帯

時間帯	設定理由
冬深夜	多くが自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による死者が発生する危険性が高く、また津波からの避難が遅れることにもなる。 オフィスや繁華街の滞留者や、鉄道・道路利用者が少ない。
夏12時	オフィス、繁華街等に多数の滞留者が集中しており、自宅外で被災するケースが多い。 木造建物内滞留人口は、1日の中で少ない時間帯であり、老朽木造住宅の倒壊による死者数は冬深夜と比較して少ない。
冬18時	住宅、飲食店などで火気使用が最も多い時間帯で、出火件数が最も多くなる。 オフィスや繁華街周辺のほか、ターミナル駅にも滞留者が多数存在する。 鉄道、道路もほぼ帰宅ラッシュに近い状況でもあり、交通被害による人的被害や交通機能支障による影響が大きい。

2. 被害想定

2.1 定量評価結果一覧

各想定地震が発生すると、揺れによる建物倒壊、死者数に甚大な影響を及ぼす結果となった。また、避難者数は、建物倒壊、津波浸水、断水人口が影響し、地震発生直後より1カ月後に、南海トラフ(L2)では23万人、南海トラフ(L1)では2万人、中央構造線では7万人、長尾断層では5千人にのぼる結果となった。

以下に本調査で算出した被害想定結果の概要を示す。

(1) 全県の一覧表

表 2.1.1 被害一覧(香川県全体)

項目	条件・定義	単位	想定地震				
			南海トラフ(L2)	南海トラフ(L1)	中央構造線	長尾断層	
1 建物被害(全壊)	1 揺れによる被害	棟	25,000	410	21,000	660	
	2 液状化による被害	棟	2,500	1,900	3,000	1,300	
	3 津波による被害	棟	2,000	40	-	-	
	4 急傾斜地崩壊による被害	棟	220	*	110	20	
	5 地震火災による被害	棟	5,700	*	5,700	*	
2 人的被害(死者数)	建物倒壊による被害	人	1,600	20	1,300	40	
	1 屋内収容物移動・転倒、屋内落下物による被害(建物倒壊による被害の内数)	人	140	*	130	*	
	2 津波による被害	人	4,600	20	-	-	
	3 急傾斜地崩壊による被害	人	*	*	*	*	
	4 火災による被害	人	40	*	40	*	
	5 ブロック塀・自動販売機・屋外落下物による被害	人	*	*	*	*	
	2 人的被害(負傷者数)	建物倒壊による被害	人	16,000	1,200	12,000	1,300
		1 屋内収容物移動・転倒、屋内落下物による被害(建物倒壊による被害の内数)	人	2,300	30	1,900	40
		2 津波による被害	人	3,100	20	-	-
		3 急傾斜地崩壊による被害	人	*	*	*	*
4 火災による被害		人	20	*	20	*	
5 ブロック塀・自動販売機・屋外落下物による被害	人	*	*	*	*		
2 人的被害(自力脱出困難者・要救助者)	1 揺れによる建物被害に伴う要救助者(自力脱出困難者)	人	5,400	90	4,400	160	
	2 津波被害に伴う要救助者	人	400	10	-	-	
3 ライフライン被害	1 上水道	断水人口	763,000	226,000	622,000	205,000	
	2 下水道	支障人口	141,000	11,000	30,000	12,000	
	3 電力	停電軒数	587,000	88,000	486,000	153,000	
	4 通信(固定電話・携帯電話)	不通回線数	190,000	30,000	187,000	51,000	
	5 都市ガス	供給停止戸数	58,000	13,000	69,000	29,000	
4 交通施設被害	1 道路(緊急輸送道路)	被害箇所	690	380	540	300	
	2 鉄道	被害箇所	510	240	450	190	
	3 港湾(防災機能強化港)	港湾被害箇所	100	*	10	*	
5 生活への影響	1 避難者(発災直後)	避難所内	人	119,000	35,000	27,000	2,400
		避難所外	人	80,000	24,000	18,000	1,600
		避難所内	人	95,000	7,100	45,000	4,000
		避難所外	人	37,000	4,800	45,000	4,000
6 災害廃棄物	1 災害廃棄物等	災害廃棄物	トン	1,851,000	47,000	968,000	44,000
		津波堆積物(2.5cm)	トン	2,473,000	427,000	-	-
7 その他の被害(定量的評価)	1 エレベータの停止	津波堆積物(4cm)	トン	3,956,000	684,000	-	-
		停止数	棟数	1,200	1,200	1,200	1,200
		火災	箇所	*	-	*	*
8 耐震前直接経済被害額	1 直接経済被害額合計	流出	箇所	10	*	10	*
		破損等	箇所	110	60	100	50
		冬18時	億円	34,000	3,600	21,300	3,700

注:「-」はデータ無しまたは公表なし、「*」は少ないが被害がある、四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

(2) 市町別一覧表

1) 南海トラフの最大クラスの地震

震度 6 弱～7 の強い揺れ、沿岸域に広範的な津波の浸水を受けるため、建物倒壊、人的被害、避難者等、被害を受ける規模が大きく、また県内全域に及んでいる。

表 2.1.2 被害一覧（市町別）（1/4）

市町別	建物被害（全壊）					人的被害（死者数）					
	揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	地震火災	建物倒壊		津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀等
						うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物					
(棟数)	(棟数)	(棟数)	(棟数)	(焼失棟数)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
高松市	4,500	850	380	40	390	270	40	910	*	*	*
丸亀市	1,400	100	140	10	*	90	10	1,000	*	*	*
坂出市	950	380	180	10	*	60	10	230	*	*	*
善通寺市	580	10	-	*	*	40	*	-	*	*	*
観音寺市	5,100	160	200	20	2,200	320	20	450	*	20	*
さぬき市	1,000	290	470	20	240	60	10	1,100	*	*	*
東かがわ市	3,300	130	40	10	1,000	220	10	390	*	10	*
三豊市	4,800	170	400	60	1,100	310	20	310	*	10	*
土庄町	280	100	20	10	*	20	*	40	*	*	*
小豆島町	620	110	90	20	200	40	*	50	*	*	*
三木町	160	70	-	*	*	10	*	-	*	*	*
直島町	20	20	*	*	*	*	*	30	*	*	*
宇多津町	180	60	10	*	*	10	*	30	*	*	*
綾川町	120	10	-	*	*	10	*	-	*	*	*
琴平町	180	*	-	*	*	10	*	-	*	*	*
多度津町	1,200	30	20	10	630	80	*	90	*	*	*
まんのう町	290	*	-	*	*	20	*	-	*	*	*
香川県	25,000	2,500	2,000	220	5,700	1,600	140	4,600	*	40	*

表 2.1.3 被害一覧（市町別）（2/4）

市町別	人的被害（負傷者数）						人的被害（自力脱出困難者・要救助者）	
	建物倒壊	うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀等	揺れに伴う自力脱出困難者	津波による要救助者
高松市	4,200	580	400	*	*	*	1,300	250
丸亀市	1,300	190	820	*	*	*	370	30
坂出市	790	110	50	*	*	*	230	50
善通寺市	580	70	-	*	*	*	130	-
観音寺市	2,100	290	400	*	10	*	1,100	20
さぬき市	820	110	340	*	*	*	220	30
東かがわ市	1,200	180	780	*	10	*	710	*
三豊市	2,400	350	*	*	*	*	810	10
土庄町	290	50	*	*	*	*	40	*
小豆島町	430	50	*	*	*	*	100	10
三木町	240	60	-	*	*	*	40	-
直島町	30	20	120	*	*	*	*	*
宇多津町	150	30	80	*	*	*	70	10
綾川町	210	60	-	*	*	*	20	-
琴平町	190	30	-	*	*	*	30	-
多度津町	680	100	110	*	*	*	250	*
まんのう町	340	50	-	*	*	*	50	-
香川県	16,000	2,300	3,100	*	20	*	5,400	400

注：「-」はデータ無しまたは公表なし、「*」は少ないが被害がある、四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

表 2.1.4 被害一覧（市町別）（3/4）

市町別	ライフライン被害					交通施設被害		
	上水道	下水道	電力	通信(固定・携帯電話)	都市ガス	道路(緊急輸送)	鉄道	港湾
	断水人口 (人)	支障人口 (人)	停電軒数 (軒)	不通回線数 (回線)	供給停止戸数 (戸数)	被害箇所 (箇所)	被害箇所 (箇所)	港湾被害箇所 (箇所)
高松市	329,000	64,000	260,000	71,000	39,000	200	140	40
丸亀市	69,000	16,000	57,000	19,000	8,200	60	20	30
坂出市	43,000	13,000	32,000	7,100	4,000	60	40	*
普通寺市	20,000	950	19,000	6,100	2,300	20	10	-
観音寺市	54,000	7,300	33,000	14,000	-	60	40	*
さぬき市	39,000	14,000	30,000	14,000	-	50	40	*
東かがわ市	29,000	840	20,000	7,600	-	40	50	*
三豊市	67,000	260	36,000	18,000	-	80	50	10
土庄町	10,000	20	11,000	4,800	-	10	-	*
小豆島町	12,000	*	15,000	4,600	-	20	-	10
三木町	20,000	340	15,000	5,700	-	20	10	-
直島町	3,200	3,200	7,800	760	-	*	-	*
宇多津町	15,000	6,200	12,000	1,800	2,800	10	20	-
綾川町	15,000	450	12,000	5,700	-	30	20	-
琴平町	6,200	230	6,200	5,000	1,100	*	10	-
多度津町	19,000	13,000	12,000	3,700	860	10	30	-
まんのう町	12,000	160	8,900	2,500	-	30	30	-
香川県	763,000	141,000	587,000	190,000	58,000	690	510	100

表 2.1.5 被害一覧（市町別）（4/4）

市町別	生活への影響						災害廃棄物			その他の被害			
	避難者（直後）		避難者（1週間後）		避難者（1ヶ月後）		災害廃棄物等			エレベータの停止	危険物		
	避難者 (人)	避難所外 (人)	避難者 (人)	避難所外 (人)	避難者 (人)	避難所外 (人)	災害廃棄物 (トン)	津波堆積物(2.5cm) (トン)	津波堆積物(4cm) (トン)	停止数 (棟数)	火災 (箇所)	流出 (箇所)	破損等 (箇所)
高松市	43,000	29,000	33,000	13,000	26,000	62,000	537,000	595,000	953,000	630	*	*	30
丸亀市	11,000	7,300	8,500	3,000	4,900	12,000	126,000	228,000	365,000	160	*	*	10
坂出市	13,000	8,400	7,400	1,500	6,400	15,000	111,000	397,000	636,000	80	*	*	10
普通寺市	910	610	1,700	1,700	770	1,800	32,000	-	-	30	*	*	*
観音寺市	13,000	8,700	10,000	3,900	6,900	16,000	279,000	274,000	439,000	60	*	*	10
さぬき市	7,200	4,800	5,100	1,800	3,800	8,800	102,000	182,000	291,000	40	*	*	10
東かがわ市	7,200	4,700	6,400	2,500	4,400	10,000	180,000	125,000	199,000	30	*	*	10
三豊市	11,000	7,400	10,000	4,600	6,500	15,000	265,000	319,000	511,000	30	*	*	20
土庄町	1,800	1,200	1,400	560	1,300	3,100	19,000	65,000	104,000	20	*	*	*
小豆島町	3,400	2,300	2,400	670	2,100	4,900	41,000	114,000	182,000	10	*	*	*
三木町	350	230	620	620	250	580	15,000	-	-	20	*	*	*
直島町	510	340	420	170	540	1,300	4,100	40,000	64,000	*	*	*	*
宇多津町	2,300	1,500	1,800	740	1,600	3,700	33,000	36,000	57,000	50	*	*	*
綾川町	110	70	330	330	150	360	8,400	-	-	20	*	*	*
琴平町	260	170	490	490	200	480	11,000	-	-	20	*	*	*
多度津町	4,200	2,800	3,200	1,200	2,500	5,900	72,000	97,000	155,000	20	*	*	10
まんのう町	250	170	710	710	310	710	16,000	-	-	10	*	*	*
香川県	119,000	80,000	95,000	37,000	69,000	161,000	1,851,000	2,473,000	3,956,000	1,200	*	10	110

注：「-」はデータ無しまたは公表なし、「*」は少ないが被害がある、四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

2) 南海トラフの発生頻度の高い地震

震度 4~6 弱の揺れ、沿岸域に津波の浸水を受けるが、比較的規模が小さいため、建物倒壊、人的被害、避難者等、被害を受ける範囲は集中している。

表 2.1.6 被害一覧（市町別）（1/4）

市町別	建物被害（全壊）					人的被害（死者数）						
	揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	地震火災	建物倒壊	うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀等	
												（棟数）
高松市	50	780	10	*	*	*	*	*	*	*	*	*
丸亀市	*	60	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
坂出市	*	180	10	*	*	*	*	*	*	*	*	*
普通寺市	*	10	-	*	*	*	*	-	*	*	*	*
観音寺市	*	130	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
さぬき市	50	280	10	*	*	*	*	90	*	*	*	*
東かがわ市	290	130	*	*	*	20	*	*	*	*	*	*
三豊市	*	140	10	*	*	*	*	*	*	*	*	*
土庄町	*	30	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
小豆島町	10	40	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
三木町	*	70	-	*	*	*	*	-	*	*	*	*
直島町	*	10	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
宇多津町	*	20	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
綾川町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*	*
琴平町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*	*
多度津町	*	20	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
まんのう町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*	*
香川県	410	1,900	40	*	*	20	*	90	*	*	*	*

表 2.1.7 被害一覧（市町別）（2/4）

市町別	人的被害（負傷者数）						人的被害（自力脱出困難者・要救助者）	
	建物倒壊	うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀等	揺れに伴う自力脱出困難者	津波による要救助者
高松市	360	10	*	*	*	*	20	*
丸亀市	30	*	*	*	*	*	*	*
坂出市	30	*	*	*	*	*	*	*
普通寺市	10	*	-	*	*	*	*	-
観音寺市	40	*	*	*	*	*	*	*
さぬき市	160	*	20	*	*	*	10	10
東かがわ市	400	*	*	*	*	*	60	*
三豊市	30	*	*	*	*	*	*	*
土庄町	20	*	*	*	*	*	*	*
小豆島町	40	*	*	*	*	*	*	*
三木町	30	*	-	*	*	*	*	-
直島町	*	*	*	*	*	*	*	*
宇多津町	*	*	*	*	*	*	*	*
綾川町	10	*	-	*	*	*	*	-
琴平町	*	*	-	*	*	*	*	-
多度津町	20	*	*	*	*	*	*	*
まんのう町	*	*	-	*	*	*	*	-
香川県	1,200	30	20	*	*	*	90	10

注：「-」はデータ無しまたは公表なし、「*」は少ないが被害がある、四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

表 2.1.8 被害一覧（市町別）（3/4）

市町別	ライフライン被害					交通施設被害		
	上水道	下水道	電力	通信(固定・携帯電話)	都市ガス	道路(緊急輸送)	鉄道	港湾
	断水人口 (人)	支障人口 (人)	停電軒数 (軒)	不通回線数 (回線)	供給停止戸数 (戸数)	被害箇所 (箇所)	被害箇所 (箇所)	港湾被害箇所 (箇所)
高松市	124,000	6,500	47,000	12,000	11,000	120	80	*
丸亀市	4,800	930	790	290	710	30	10	*
坂出市	9,000	360	120	100	1,200	30	10	*
善通寺市	750	390	0	30	0	10	10	-
観音寺市	10,000	290	1,200	560	-	30	10	*
さぬき市	22,000	940	13,000	5,700	-	30	30	*
東かがわ市	23,000	340	19,000	8,300	-	30	30	*
三豊市	7,800	50	600	520	-	30	20	*
土庄町	2,200	10	660	260	-	10	-	*
小豆島町	3,900	-	3,100	1,500	-	10	-	*
三木町	10,000	160	1,300	510	-	10	10	-
直島町	180	50	*	10	-	*	-	*
宇多津町	1,200	240	0	10	20	*	10	-
綾川町	2,000	200	30	20	-	20	10	-
琴平町	180	90	0	30	0	*	*	-
多度津町	3,700	330	1,100	500	300	10	10	*
まんのう町	650	60	0	10	-	10	10	-
香川県	226,000	11,000	88,000	30,000	13,000	380	240	*

表 2.1.9 被害一覧（市町別）（4/4）

市町別	生活への影響						災害廃棄物			その他の被害			
	避難者（直後）		避難者（1週間後）		避難者（1ヶ月後）		災害廃棄物等			エレベータの停止	危険物		
	避難者	避難所外	避難者	避難所外	避難者	避難所外	災害廃棄物	津波堆積物(2.5cm)	津波堆積物(4cm)	停止数	火災	流出	破損等
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(トン)	(トン)	(トン)	(棟数)	(箇所)	(箇所)	(箇所)
高松市	13,000	8,800	2,600	1,900	2,200	5,000	21,000	82,000	131,000	600	-	*	20
丸亀市	3,200	2,100	140	110	70	160	1,300	24,000	38,000	150	-	*	10
坂出市	3,900	2,600	570	300	550	1,300	3,700	76,000	122,000	80	-	*	*
善通寺市	10	10	10	10	10	10	80	-	-	30	-	*	*
観音寺市	2,700	1,800	270	180	220	520	1,800	26,000	42,000	60	-	*	*
さぬき市	3,900	2,600	1,100	690	1,000	2,400	5,700	76,000	122,000	40	-	*	*
東かがわ市	1,800	1,200	1,200	880	800	1,900	7,200	11,000	18,000	30	-	*	*
三豊市	2,100	1,400	480	320	570	1,300	2,100	33,000	53,000	30	-	*	10
土庄町	1,300	840	160	80	170	390	440	33,000	53,000	20	-	*	*
小豆島町	2,100	1,400	240	140	270	620	770	41,000	65,000	10	-	*	*
三木町	110	70	150	130	50	130	1,500	-	-	20	-	*	*
直島町	350	230	30	20	30	80	270	22,000	35,000	*	-	*	*
宇多津町	60	40	20	20	10	20	640	140	230	40	-	*	*
綾川町	*	*	10	10	*	10	60	-	-	20	-	*	*
琴平町	*	*	*	*	*	*	20	-	-	20	-	*	*
多度津町	570	380	90	70	50	120	370	2,800	4,600	20	-	*	*
まんのう町	*	*	*	*	*	*	10	-	-	10	-	*	*
香川県	35,000	24,000	7,100	4,800	6,000	14,000	47,000	427,000	684,000	1,200	-	*	60

注：「-」はデータ無しまたは公表なし、「*」は少ないが被害がある、四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

3) 中央構造線で発生する地震

震度4～7が分布しているが、被害の範囲は島嶼部を除く地域で震度6弱～7の強い揺れが広く分布しているため、建物倒壊、人的被害、避難者等、被害を受ける規模が大きく、また県内全域に及んでいる。

表 2.1.10 被害一覧（市町別）（1/4）

市町別	建物被害（全壊）					人的被害（死者数）					
	揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	地震火災	建物倒壊	うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀等
高松市	5,300	1,100	-	30	390	320	50	-	*	*	*
丸亀市	920	100	-	*	*	60	10	-	*	*	*
坂出市	350	470	-	*	*	20	10	-	*	*	*
善通寺市	270	10	-	*	*	20	*	-	*	*	*
観音寺市	6,900	230	-	20	2,000	440	20	-	*	30	*
さぬき市	160	300	-	*	360	10	10	-	*	*	*
東かがわ市	3,500	200	-	10	890	230	10	-	*	10	*
三豊市	3,000	260	-	30	1,200	190	10	-	*	10	*
土庄町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
小豆島町	*	30	-	*	220	*	*	-	*	*	*
三木町	70	100	-	*	*	*	*	-	*	*	*
直島町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
宇多津町	70	90	-	*	*	*	*	-	*	*	*
綾川町	20	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
琴平町	10	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
多度津町	380	40	-	*	630	20	*	-	*	*	*
まんのう町	100	*	-	*	*	10	*	-	*	*	*
香川県	21,000	3,000	-	110	5,700	1,300	130	-	*	40	*

表 2.1.11 被害一覧（市町別）（2/4）

市町別	人的被害（負傷者数）						人的被害（自力脱出困難者・要救助者）	
	建物倒壊	うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀等	揺れに伴う自力脱出困難者	津波による要救助者
高松市	4,100	600	-	*	*	*	1,400	-
丸亀市	1,000	180	-	*	*	*	220	-
坂出市	430	100	-	*	*	*	80	-
善通寺市	360	70	-	*	*	*	60	-
観音寺市	2,400	330	-	*	10	*	1,300	-
さぬき市	240	100	-	*	*	*	30	-
東かがわ市	1,200	180	-	*	*	*	720	-
三豊市	1,600	200	-	*	*	*	490	-
土庄町	*	*	-	*	*	*	*	-
小豆島町	20	*	-	*	*	*	*	-
三木町	130	*	-	*	*	*	10	-
直島町	*	*	-	*	*	*	*	-
宇多津町	90	30	-	*	*	*	20	-
綾川町	60	*	-	*	*	*	*	-
琴平町	40	30	-	*	*	*	*	-
多度津町	370	60	-	*	*	*	70	-
まんのう町	190	50	-	*	*	*	20	-
香川県	12,000	1,900	-	*	20	*	4,400	-

注：「-」はデータ無しまたは公表なし、「*」は少ないが被害がある、四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

表 2.1.12 被害一覧（市町別）（3/4）

市町別	ライフライン被害					交通施設被害		
	上水道	下水道	電力	通信(固定・携帯電話)	都市ガス	道路(緊急輸送)	鉄道	港湾
	断水人口 (人)	支障人口 (人)	停電軒数 (軒)	不通回線数 (回線)	供給停止戸数 (戸数)	被害箇所 (箇所)	被害箇所 (箇所)	港湾被害箇所 (箇所)
高松市	296,000	19,000	235,000	76,000	44,000	160	140	*
丸亀市	60,000	2,800	55,000	21,000	11,000	50	20	*
坂出市	33,000	900	26,000	9,600	7,200	40	30	*
普通寺市	15,000	900	17,000	5,600	2,400	20	10	-
観音寺市	55,000	1,900	34,000	17,000	-	50	40	*
さぬき市	22,000	1,100	17,000	9,600	-	40	30	*
東かがわ市	29,000	800	20,000	9,400	-	40	50	*
三豊市	48,000	170	33,000	18,000	-	60	40	*
土庄町	30	*	10	10	-	*	-	*
小豆島町	1,700	*	1,300	610	-	10	-	*
三木町	15,000	230	10,000	3,900	-	20	10	-
直島町	*	30	*	*	-	*	-	10
宇多津町	13,000	750	11,000	2,900	3,600	10	10	-
綾川町	7,400	250	3,500	1,800	-	20	10	-
琴平町	2,900	150	2,900	2,700	500	*	10	-
多度津町	15,000	810	12,000	5,600	1,200	10	20	-
まんのう町	9,500	160	8,400	2,400	-	30	30	-
香川県	622,000	30,000	486,000	187,000	69,000	540	450	10

表 2.1.13 被害一覧（市町別）（4/4）

市町別	生活への影響						災害廃棄物			その他の被害			
	避難者（直後）		避難者（1週間後）		避難者（1ヶ月後）		災害廃棄物等			エレベータの停止	危険物		
	避難者	避難所外	避難者	避難所外	避難者	避難所外	災害廃棄物	津波堆積物(2.5cm)	津波堆積物(4cm)	停止数	火災	流出	破損等
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(トン)	(トン)	(トン)	(棟数)	(箇所)	(箇所)	(箇所)
高松市	11,000	7,000	18,000	18,000	7,600	18,000	341,000	-	-	630	*	*	30
丸亀市	1,400	910	3,700	3,700	1,200	2,700	28,000	-	-	160	*	*	10
坂出市	1,000	690	1,600	1,600	600	1,400	29,000	-	-	80	*	*	*
普通寺市	280	190	770	770	260	610	5,300	-	-	30	*	*	*
観音寺市	6,200	4,200	8,800	8,800	5,400	13,000	266,000	-	-	60	*	*	10
さぬき市	410	270	620	620	280	650	11,000	-	-	40	*	*	*
東かがわ市	3,300	2,200	4,500	4,500	2,900	6,700	154,000	-	-	30	*	*	10
三豊市	2,700	1,800	4,500	4,500	2,300	5,400	110,000	-	-	30	*	*	10
土庄町	20	20	20	20	10	30	*	-	-	20	*	*	*
小豆島町	40	30	50	50	20	50	350	-	-	10	*	*	*
三木町	170	110	380	380	120	270	3,700	-	-	20	*	*	*
直島町	*	*	*	*	*	*	*	-	-	*	*	*	*
宇多津町	220	150	620	620	200	470	5,100	-	-	50	*	*	*
綾川町	10	10	100	100	20	50	40	-	-	20	*	*	*
琴平町	20	10	50	50	20	40	120	-	-	20	*	*	*
多度津町	460	300	930	930	430	1,000	14,000	-	-	20	*	*	*
まんのう町	70	50	220	220	100	230	120	-	-	10	*	*	*
香川県	27,000	18,000	45,000	45,000	21,000	50,000	968,000	-	-	1,200	*	10	100

注：「-」はデータ無しまたは公表なし、「*」は少ないが被害がある、四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

4) 長尾断層で発生する地震

震度 4~6 強の揺れが分布しているが、建物倒壊、人的被害、避難者等、被害を受ける範囲は想定断層付近の市町に集中している。

表 2.1.14 被害一覧（市町別）（1/4）

市町別	建物被害（全壊）					人的被害（死者数）					
	揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	地震火災	建物倒壊		津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀等
						うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物					
(棟数)	(棟数)	(棟数)	(棟数)	(焼失棟数)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
高松市	470	760	-	10	*	30	*	-	*	*	*
丸亀市	*	30	-	*	*	*	*	-	*	*	*
坂出市	10	170	-	*	*	*	*	-	*	*	*
普通寺市	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
観音寺市	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
さぬき市	30	50	-	*	*	*	*	-	*	*	*
東かがわ市	60	150	-	*	*	*	*	-	*	*	*
三豊市	*	60	-	*	*	*	*	-	*	*	*
土庄町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
小豆島町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
三木町	90	80	-	*	*	10	*	-	*	*	*
直島町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
宇多津町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
綾川町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
琴平町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
多度津町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
まんのう町	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*
香川県	660	1,300	-	20	*	40	*	-	*	*	*

表 2.1.15 被害一覧（市町別）（2/4）

市町別	人的被害（負傷者数）						人的被害（自力脱出困難者・要救助者）	
	建物倒壊	うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀等	揺れに伴う自力脱出困難者	津波による要救助者
高松市	940	10	-	*	*	*	120	-
丸亀市	30	*	-	*	*	*	*	-
坂出市	60	*	-	*	*	*	*	-
普通寺市	*	*	-	*	*	*	*	-
観音寺市	*	*	-	*	*	*	*	-
さぬき市	40	*	-	*	*	*	10	-
東かがわ市	140	*	-	*	*	*	10	-
三豊市	20	*	-	*	*	*	*	-
土庄町	*	*	-	*	*	*	*	-
小豆島町	*	*	-	*	*	*	*	-
三木町	100	*	-	*	*	*	20	-
直島町	*	*	-	*	*	*	*	-
宇多津町	*	*	-	*	*	*	*	-
綾川町	*	*	-	*	*	*	*	-
琴平町	*	*	-	*	*	*	*	-
多度津町	*	*	-	*	*	*	*	-
まんのう町	10	*	-	*	*	*	*	-
香川県	1,300	40	-	*	*	*	160	-

注：「-」はデータ無しまたは公表なし、「*」は少ないが被害がある、四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

表 2.1.16 被害一覧（市町別）（3/4）

市町別	ライフライン被害					交通施設被害		
	上水道	下水道	電力	通信(固定・携帯電話)	都市ガス	道路(緊急輸送)	鉄道	港湾
	断水人口 (人)	支障人口 (人)	停電軒数 (軒)	不通回線数 (回線)	供給停止戸数 (戸数)	被害箇所 (箇所)	被害箇所 (箇所)	港湾被害箇所 (箇所)
高松市	154,000	8,500	125,000	40,000	26,000	120	90	*
丸亀市	6,300	990	360	80	80	30	10	*
坂出市	11,000	540	8,400	2,700	2,900	20	10	*
普通寺市	590	380	10	10	*	10	*	-
観音寺市	100	90	130	80	-	10	10	*
さぬき市	4,200	460	1,400	770	-	20	10	*
東かがわ市	14,000	220	9,800	4,700	-	20	30	*
三豊市	3,000	20	1,500	830	-	10	10	*
土庄町	*	*	10	10	-	*	-	*
小豆島町	*	*	20	10	-	*	-	*
三木町	10,000	240	5,600	2,100	-	10	10	-
直島町	*	10	*	*	-	*	-	*
宇多津町	340	200	*	*	*	*	*	-
綾川町	610	130	40	20	-	10	*	-
琴平町	20	50	*	*	*	*	*	-
多度津町	220	210	30	20	*	*	10	-
まんのう町	310	30	310	80	-	10	*	-
香川県	205,000	12,000	153,000	51,000	29,000	300	190	*

表 2.1.17 被害一覧（市町別）（4/4）

市町別	生活への影響						災害廃棄物			その他の被害			
	避難者（直後）		避難者（1週間後）		避難者（1ヶ月後）		災害廃棄物等			エレベータの停止	危険物		
	避難者 (人)	避難所外 (人)	避難者 (人)	避難所外 (人)	避難者 (人)	避難所外 (人)	災害廃棄物 (トン)	津波堆積物 (2.5cm) (トン)	津波堆積物 (4cm) (トン)	停止数 (棟数)	火災 (箇所)	流出 (箇所)	破損等 (箇所)
高松市	1,800	1,200	3,000	3,000	1,100	2,500	29,000	-	-	610	*	*	20
丸亀市	30	20	180	180	30	70	200	-	-	150	*	*	10
坂出市	170	120	200	200	90	210	3,800	-	-	80	*	*	*
普通寺市	*	*	*	*	*	*	*	-	-	30	*	*	*
観音寺市	0	0	0	0	0	0	*	-	-	50	*	*	*
さぬき市	20	10	60	60	20	40	510	-	-	40	*	*	*
東かがわ市	180	120	250	250	90	220	4,600	-	-	30	*	*	*
三豊市	60	40	60	60	30	70	1,500	-	-	30	*	*	*
土庄町	0	0	0	0	0	0	*	-	-	10	*	*	*
小豆島町	0	0	0	0	0	0	*	-	-	10	*	*	*
三木町	150	100	250	250	90	220	4,000	-	-	20	*	*	*
直島町	0	0	0	0	0	0	*	-	-	*	*	*	*
宇多津町	*	*	*	*	*	*	40	-	-	40	*	*	*
綾川町	0	0	*	*	0	0	*	-	-	10	*	*	*
琴平町	0	0	0	0	0	0	*	-	-	20	*	*	*
多度津町	*	*	*	*	*	*	*	-	-	20	*	*	*
まんのう町	*	*	*	*	*	*	*	-	-	10	*	*	*
香川県	2,400	1,600	4,000	4,000	1,400	3,400	44,000	-	-	1,200	*	*	50

注：「-」はデータ無しまたは公表なし、「*」は少ないが被害がある、四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

(3) ライフラインの復旧予測

1) 上水道

表 2.1.18 被害数推計結果（断水人口：人）

	供給人口	発災直後	1日後	1週間後	1か月後	参考 ^(注)
南海トラフ(L2)	981,000	763,000	554,000	377,000	229,000	208,000
南海トラフ(L1)	981,000	226,000	65,000	29,000	18,000	17,000
中央構造線	981,000	622,000	402,000	220,000	53,000	25,000
長尾断層	981,000	205,000	58,000	17,000	1,500	590

2) 下水道

表 2.1.19 被害数推計結果（支障人口：人）

	供給人口	発災直後	1日後	1週間後	1か月後	参考 ^(注)
南海トラフ(L2)	501,000	141,000	139,000	86,000	61,000	61,000
南海トラフ(L1)	501,000	11,000	9,500	1,600	690	690
中央構造線	501,000	30,000	29,000	18,000	1,700	1,700
長尾断層	501,000	12,000	11,000	2,200	40	40

3) 電力

表 2.1.20 被害数推計結果（停電軒数：軒）

	供給人口	発災直後	1日後	1週間後	1か月後	参考 ^(注)
南海トラフ(L2)	590,000	587,000	269,000	79,000	78,000	78,000
南海トラフ(L1)	590,000	88,000	22,000	7,700	7,700	7,700
中央構造線	590,000	486,000	188,000	14,000	12,000	12,000
長尾断層	590,000	153,000	28,000	1,700	1,700	1,700

4) 通信（固定電話）

表 2.1.21 被害数推計結果（不通回線数：回線）

	供給人口	発災直後	1日後	1週間後	1か月後	参考 ^(注)
南海トラフ(L2)	244,000	190,000	80,000	14,000	14,000	14,000
南海トラフ(L1)	244,000	30,000	6,000	930	930	930
中央構造線	244,000	187,000	72,000	3,700	2,800	2,800
長尾断層	244,000	51,000	9,200	140	140	140

5) 都市ガス

表 2.1.22 被害数推計結果（供給停止戸数：戸）

	供給人口	発災直後	1日後	1週間後	1か月後	参考 ^(注)
南海トラフ(L2)	85,000	58,000	54,000	52,000	28,000	2,000
南海トラフ(L1)	85,000	13,000	3,900	3,200	1,100	470
中央構造線	85,000	69,000	58,000	56,000	30,000	2,400
長尾断層	85,000	29,000	9,400	7,800	2,400	210

注：ライフラインの被害数のうち、今回の対象期間内での仮復旧が困難である津波浸水、火災、急傾斜地崩壊による被害区域における被害数を示しています。

2.2 減災効果

減災効果の予測について、以下の対策を講じた場合、南海トラフの最大クラスの地震による被害想定がどの程度軽減されるか評価した。

- 全ての建物の耐震化を実施
- 家具類の転倒・落下防止対策を実施
- 津波避難の迅速化 下表のパターンを設定

表 2.2.1 避難の有無、避難開始時期の設定

	避難行動別の比率		
	すぐに避難する (直接避難)	避難するがすぐ には避難しない (用事後避難)	切迫避難※ある いは避難しない
発災後全員が即避難	100%	0%	0%
早期避難者が少ない	20%	50%	30%

※切迫避難とは、津波に到来を自覚してから避難を開始するなどの状態を言う。

2.2.1 建物の耐震化

県内の住宅の耐震化率は、現状が約76%（平成23年10月現在）となっている。

旧耐震基準の建物の建て替えや耐震化により、全ての建物の耐震性が強化された場合には、揺れに伴う全壊棟数は、約11分の1に、それに伴う死者数は約15分の1に軽減される。

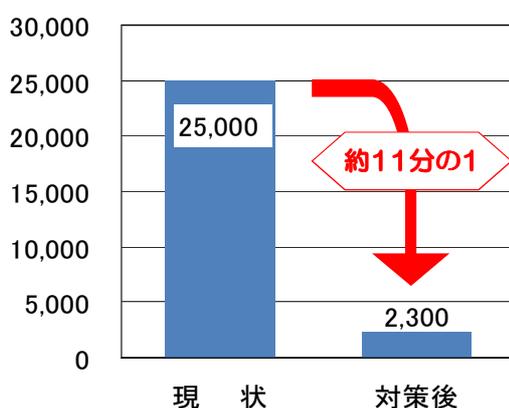


図 2.2.1 揺れによる全壊棟数の軽減 (棟)

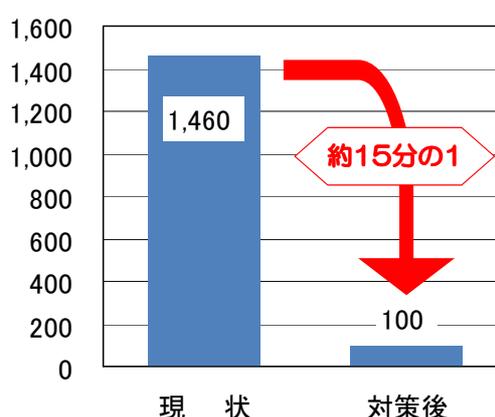


図 2.2.2 揺れによる全壊に伴う死者数の軽減 (人)

2.2.2 屋内収容物の転倒防止対策

県内の家具類の転倒・落下防止対策実施率は、約13%（平成24年10月県政世論調査）となっている。この実施率を100%にすることで、死傷者数は約4分の1に軽減される。

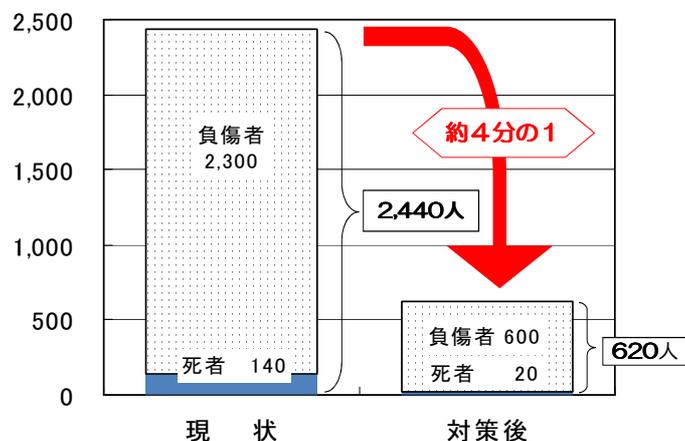


図 2.2.3 家具類の転倒・落下防止対策による死傷者の軽減（人）
（冬深夜による比較）

2.2.3 津波避難の早期化

地震発生後、すぐに避難する県民が100%になれば、死者数は、約23分の1に軽減される。

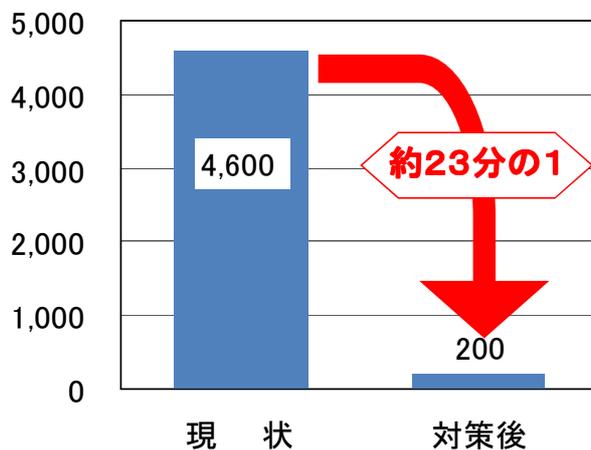


図 2.2.4 津波避難意識向上による死者数の軽減（人）
（冬深夜による比較）

2.2.4 減災効果による直接経済被害額

建物の耐震化を100%とすれば、建物倒壊が大幅に軽減され、直接経済被害額も約2分の1に減少する。

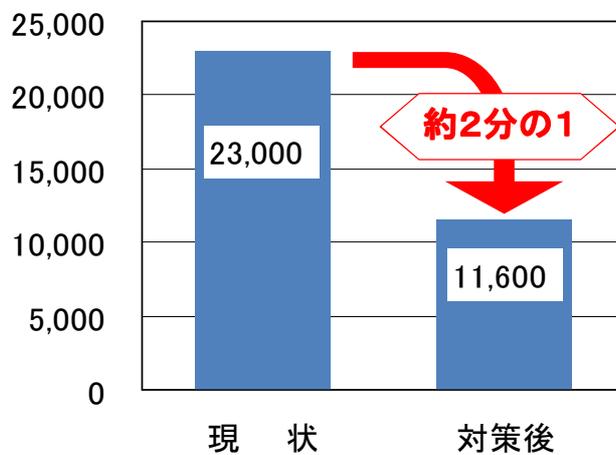


図 2.2.5 建物耐震化による建物被害額の軽減 (億円)
(冬深夜による比較)

3. 被害シナリオ

香川県に大きな被害をもたらすと思われる地震に伴う被害が、時間の経過とともにどのように推移するかを示した「被害シナリオ」を作成した。また、この被害シナリオを時系列的に、地震発生から復旧までの事態がどのように推移していくかを1枚にまとめた被害シナリオ（要約）も作成した。

本概要版では、被害シナリオ（要約）を次頁以降に示した。

なお、本被害シナリオ（要約）は、あくまでも一つの想定として作成したもので、実際に地震が発生した場合に、必ずしもこのシナリオどおりに事象が発生するわけではない。また、次に起こる地震を想定したものでもない。

3.1 南海トラフの最大クラスの地震

項目	被害想定	地震発生	～半日	～1日
災害	地震の想定 震度:5強～7	(地震動) ○県全域で震度5強～7の強い揺れが発生 (液状化) ○海岸域の埋立地で顕著であり、山地の河川沿い等の沖積地や河川等の埋立地などでも発生する区域が存在 (その他) ○地震が発生することにより、以下の事象が発生する恐れあり ・急傾斜地の崩壊や地すべりの発生 ・沿岸部では地震により堤防が破壊され、津波到達前に浸水する箇所が発生		
	津波被害の想定 海面変動開始時間(±20cm) :4分～98分 最高津波到達時間 :83分～511分 最高水位:T.P.2.8～3.8m	○津波第1波到達		
建物被害	建物被害の想定 全壊:35,000棟(合計) 揺れ:25,000棟 液状化:2,500棟 津波:2,000棟 急傾斜地:220棟 地震火災:5,700棟	○耐震性の低い古い建物を中心に全壊 ○液状化により建物が沈下、傾斜被害を受け継続的な居住や日常生活が困難 ○木造住宅が密集している地域を中心に地震火災が同時多発し延焼火災を含む大規模な火災により焼失する ○津波により建物が全壊 ○津波により漂流するがれきりからの出火などから津波火災が発生	初期消火・出火防止活動 消防署・消防団の消火活動 救護活動の拠点となる病院、避難所等の自主的防災対策を優先的に実施 避難時の留意事項の呼びかけ(ブレーカー遮断等) 消火に必要な水の確保及び対応策の検討	
	人的被害の想定 死者:6,200人 負傷者:19,000人 自力脱出困難者:5,400人 津波要救助者:400人	○耐震性の低い木造建物を中心に、揺れによる建物倒壊により死者が発生 ○急傾斜地崩壊や地滑りにより生き埋め等による死傷者が発生 ○出火家屋からの逃げ遅れ、家屋内の閉じ込め等により死者が発生 ○その他、以下の理由により死傷者が発生する可能性あり ・屋外転倒物や屋外落下物 ・屋内において、固定していない家具の移動や転倒等 ○倒壊建物等への閉じ込めによる要救助者の発生 ○津波浸水深30cm以上の地域を中心に津波に巻き込まれ死者が発生 ○津波に対して中高層階へ避難した要救助者の発生 ○津波による被害者発生(避難時等の人的被害、行方不明者)	自身の安全確保(安全確認・安否確認) 家族の安否確認 倒壊家屋からの救助活動(地域) 消防署、警察、自衛隊の連携した救助、救出活動 顧客・社員の安全確保(安全確認、緊急避難) 社員及びその家族の安否確認 社員の帰宅支援・地域の支援活動	
ライフライン被害	ライフラインの被害想定 上水道(断水人口) :763,000人(78%) 下水道(機能支障人口) :141,000人(28%) 電力(停電軒数):587,000軒 :99% 通信(不通回線数) :190,000回線(78%) 都市ガス(供給停止戸数) :58,000戸(68%)	○震度6弱以上の地域全域が停電 ○ガス供給停止、水道断水 ○下水道施設の処理が困難 ○震度6弱以上の多くのエリアで固定電話、携帯電話の利用困難 ○津波浸水エリアでは施設の損壊や倒壊により利用困難	公共機関及び医療機関における自家発電の稼働	○非常用発電機の燃料切れによる通
交通施設被害	交通施設被害 道路(緊急輸送道路) :690箇所 鉄道:510箇所 港湾(防災機能強化港) :100箇所	○高速道路では道路施設被害等による通行困難 ○点検のための交通規制、道路への建物倒壊等により通行困難 ○駅前、バス停等に帰宅困難者集結 ○中山間部で地すべりや斜面崩壊により通行機能障害が発生 ○建物倒壊などによる道路閉塞発生 ○鉄道施設の被害、地震による点検などにより鉄道全線不通 ○津波により浸水した道路が通行困難 ○津波により港湾施設が破損し機能停止	警察、道路管理者と連携した状況把握 緊急輸送道路の啓開、確保(道路障害物の除去等) 交通規制等による緊急輸送道路通行の確保	帰宅困難者の 交

項目	被害想定	地震発生	～半日	～1日
生活への影響	避難人口 199,000人	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営要員の被災 ○避難者が避難所に到着 ○サービスステーション(SS)、タンクローリーの被害 ○医療機関の機能が低下 ○医師、看護師の不足で診察機能が低下 ○病院でのトリアージ医療 	<ul style="list-style-type: none"> ○指定避難所以外への避難による混乱 ○屋外避難の発生(グラウンド、自動車) ○軽傷～重傷者が病院に集中 	<ul style="list-style-type: none"> ○帰宅困難者が避難所に避難 ○避難所の避難スペース不足 ○医師・検死医が不足し、身元確認が ○スーパー、コンビニでの物資不足(県)
災害廃棄物等廃棄	災害廃棄物 1,851,000トン 津波堆積物 2,473,000トン～3,956,000トン	<ul style="list-style-type: none"> ○家屋倒壊等に伴う災害廃棄物発生 ○津波堆積物の発生 		
その他の被害	エレベータの停止 1,200棟数 危険物 流出 10箇所 破損等 110箇所	<ul style="list-style-type: none"> ○エレベータ停止に伴う閉じ込め者の発生 ○長周期地震動の発生 ・建物被害の発生 ・屋内収容物転倒・落下等による二次被害発生 ○建物被害による道路閉塞により緊急車両の通行不能 ○避難行動要支援者等のほう助 ○施設等のダメージによる公共交通機関の機能停止 	<ul style="list-style-type: none"> ○危険物施設等のタンク等からの石油流出 ・石油流出による火災発生 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間差による地震が発生した

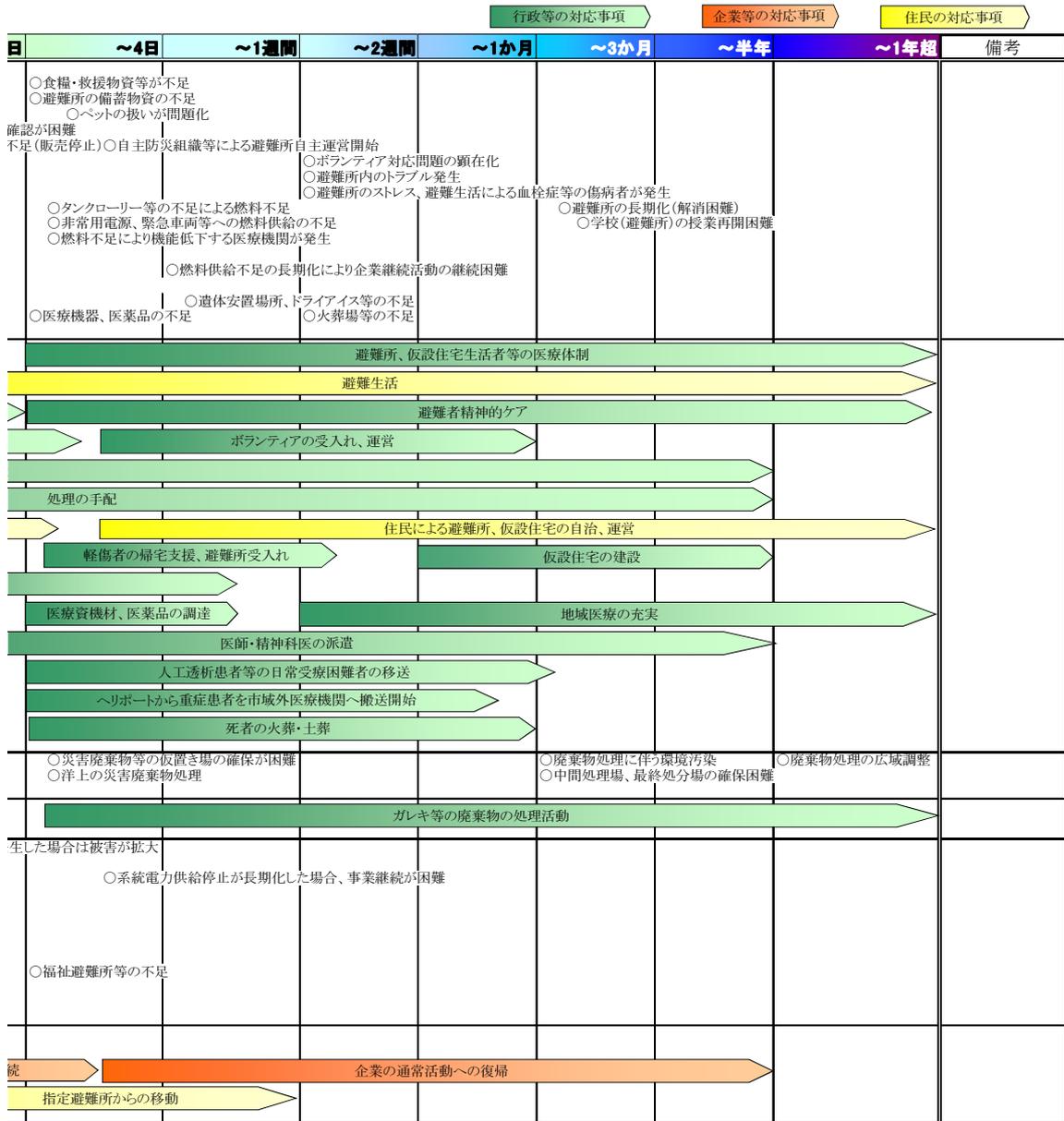


図 3.1.2 南海トラフの最大クラスの地震による被害シナリオ要約版 (2/2)

3.2 南海トラフの発生頻度の高い地震

項目	被害想定	地震発生	～半日	～1日
災害	地震の想定 震度:4～6弱	(地震動) ○県全域で震度4～6弱の強い揺れが発生 (液状化) ○海岸域の埋立地で顕著であり、山地の河川沿い等の沖積地や河川等の埋立地などでも発生する区域が存在 (その他) ○地震が発生することにより、以下の事象が発生する恐れあり ・急傾斜地の崩壊や地すべりの発生		
	津波被害の想定		○津波第1波到達	
建物被害	建物被害の想定 全壊:2,300棟(合計) 揺れ:410棟 津波:40棟 液状化:1,900棟 急傾斜地:若干	○震度6弱以上の揺れが発生する地域の耐震性の低い古い建物を中心に全壊 ○液状化により建物が沈下、傾斜被害を受け継続的な居住や日常生活が困難 ○地震火災に伴う被害が発生する恐れあり ○津波により建物が全壊 ○津波により漂流するがれきからの出火などから津波火災が発生	初期消火・出火防止活動 消防署・消防団の消火活動 救護活動の拠点となる病院、避難所等の自主的防災活動を優先的に実施 避難時の留意事項の呼びかけ(ブレーカー遮断等)	
	人的被害の想定 死者:50人 負傷者:1,200人 自力脱出困難者:90人	○耐震性の低い木造建物を中心に、揺れによる建物倒壊により死者が発生 ○急傾斜地崩壊や地滑りにより生き埋め等による死傷者が発生 ○出火家屋からの逃げ遅れ、家屋内の閉じ込め等により死者が発生 ○その他、以下の理由により死傷者が発生する可能性あり ・屋外転倒物や屋外落下物 ・屋内において、固定していない家具の移動や転倒等 ○倒壊建物等への閉じ込めによる要救助者の発生 ○津波浸水深30cm以上の地域を中心に津波に巻き込まれ死者が発生 ○津波に対して中高層階へ避難した要救助者の発生 ○津波による被害者発生(避難時等の人的被害、行方不明者)	自身の安全確保(安全確認・安否確認) 家族の安否確認 倒壊家屋からの救助活動(地域) 消防署、警察、自衛隊の連携した救助、救出活動 顧客・社員の安全確保(安全確認、緊急避難) 社員及びその家族の安否確認	
ライフライン被害	ライフラインの被害想定 上水道(断水人口) :226,000人(23%) 下水道(機能支障人口) :11,000人(2%) 電力(停電軒数) :88,000軒(15%) 通信(不通回線数) :30,000回線(12%) 都市ガス(供給停止戸数) :13,000戸(16%)	○震度6弱以上の地域全域が停電 ○ガス供給停止、水道断水 ○下水道施設の処理が困難 ○震度6弱以上の多くのエリアで固定電話、携帯電話の利用困難 ○津波浸水エリアでは施設の損壊や倒壊により利用困難	公共機関及び医療機関における自家発電の稼働	○
交通施設被害	交通施設被害 道路(緊急輸送道路) :380箇所 鉄道:240箇所	○高速道路では道路施設被害等による通行困難 ○公共交通機関停止による帰宅困難者発生 ○点検のための交通規制、道路への建物倒壊等により通行困難 ・駅前、バス停等に帰宅困難者集結 ○中山間部で地すべりや斜面崩壊により通行機能障害が発生 ○建物倒壊などによる道路閉塞発生 ○鉄道施設の被害、地震による点検などにより不通となる箇所あり ○港湾施設の点検 ○港湾施設の機能停止 ○津波により浸水した道路が通行困難 ○津波により港湾施設が破損し機能停止	警察、道路管理者と連携した状況把握 緊急輸送道路の啓開、確保(道路障害物の除去等) 交通規制等による緊急輸送道路通行の確保 直轄国道、高速	○

項目	被害想定	地震発生	～半日	～1日
生活への影響	避難人口 59,000人	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営委員の被災 ○サービスステーション(SS)、タンクローリーの被害 ○避難者が避難所に到着 ○病院でのトリアージ医療 	<ul style="list-style-type: none"> ○指定避難所以外への避難による混乱 ○屋外避難の発生(グラウンド、自動車) ○軽傷～重傷者が病院に集中 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所の避難スペース不足 ○スーパー、コンビニでの物資不足
棄物等廃	災害廃棄物 47,000トン 津波堆積物 427,000～684,000トン	○家屋倒壊等に伴う災害廃棄物発生		
その他の被害	エレベータの停止 1,200棟数 危険物 破損等 60箇所	<ul style="list-style-type: none"> ○エレベータ停止に伴う閉じ込め者の発生 ○長周期地震動の発生 ・建物被害の発生 ・屋内収容物転倒・落下等による二次被害発生 ○建物被害による道路閉塞により緊急車両の通行不能 ○避難行動要支援者等のほう助 ○施設等のダメージによる公共交通機関の機能停止 	○危険物施設等のタンク等からの石油流出 ・石油流出による火災発生	

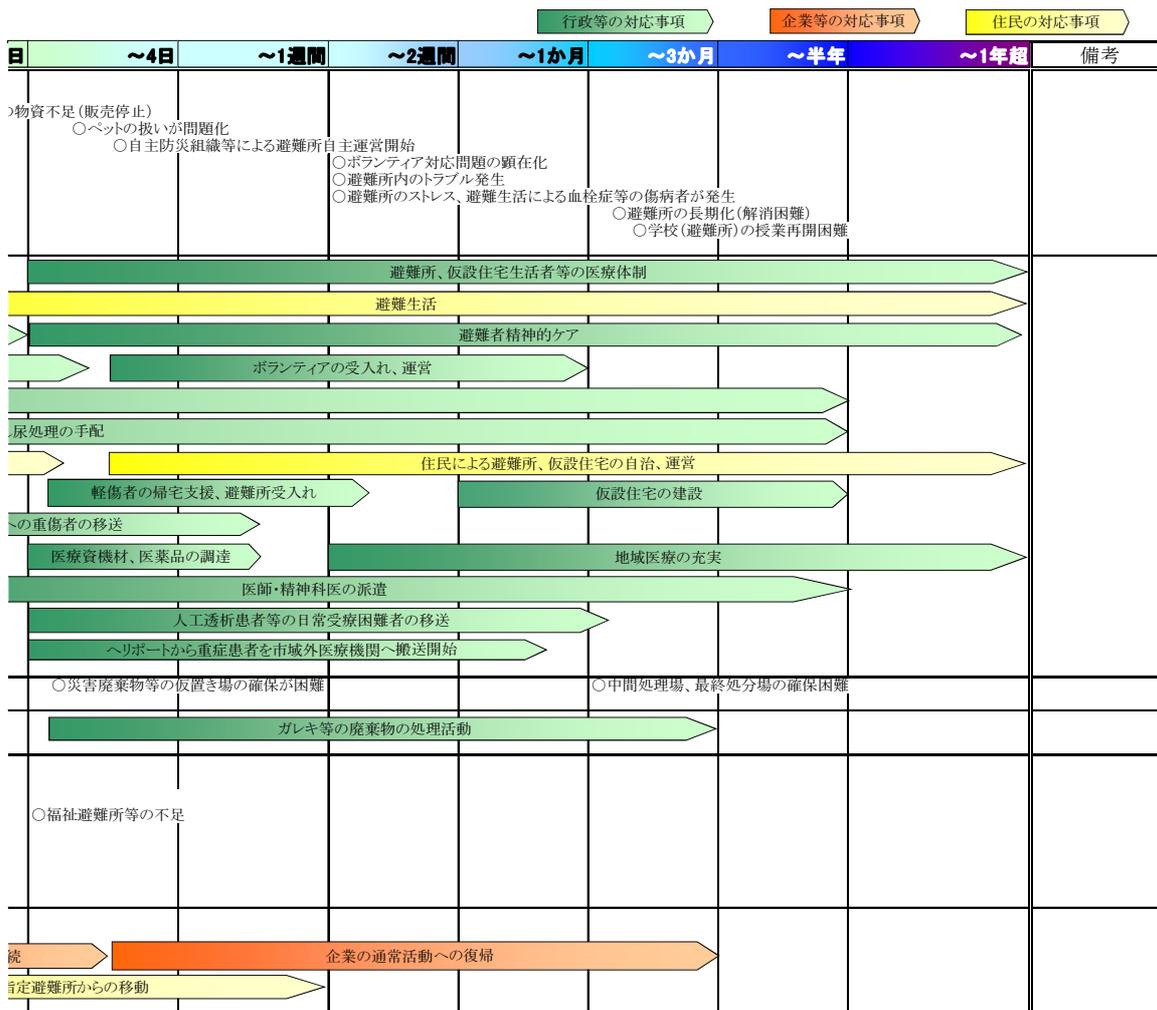


図 3.2.2 南海トラフの発生頻度の高い地震による被害シナリオ要約版 (2/2)

3.3 中央構造線で発生する地震

項目	被害想定	地震発生	～半日	～1日
災害	地震の想定 震度:3~7	(地震動) ○県全域で震度3~7の強い揺れが発生 (液状化) ○海岸域の埋立地で顕著であり、山地の河川沿い等の沖積地や河川等の埋立地などでも発生する区域が存在 (その他) ○地震が発生することにより、以下の事象が発生する恐れあり ・急傾斜地の崩壊や地すべりの発生		
建物被害	建物被害の想定 全壊:30,000棟(合計) 揺れ:21,000棟 液状化:3,000棟 急傾斜地:110棟 地震火災:5,700棟	○耐震性の低い古い建物を中心に全壊 ○液状化により建物が沈下、傾斜被害を受け継続的な居住や日常生活が困難 ○木造住宅が密集している地域を中心に地震火災が同時多発し延焼火災を含む大規模な火災により焼失する		
人的被害	人的被害の想定 死者:1,400人 負傷者:12,000人 自力脱出困難者:4,400人	○耐震性の低い木造建物を中心に、揺れによる建物倒壊により死者が発生 ○急傾斜地崩壊や地滑りにより生き埋め等による死傷者が発生 ○出火家屋からの逃げ遅れ、家屋内の閉じ込め等により死者が発生 ○その他、以下の理由により死傷者が発生する可能性あり ・屋外転倒物や屋外落下物 ・屋内において、固定していない家具の移動や転倒等 ○倒壊建物等への閉じ込めによる要救助者の発生		
ライフライン被害	ライフラインの被害想定 上水道(断水人口) :622,000人(63%) 下水道(機能障害人口) :30,000人(6%) 電力(停電軒数):486,000軒 :82% 通信(不通回線数) :187,000回線(76%) 都市ガス(供給停止戸数) :69,000戸(82%)	○震度6弱以上の地域全域が停電 ○ガス供給停止、水道断水 ○下水道施設の処理が困難 ○震度6弱以上の多くのエリアで固定電話、携帯電話の利用困難	○非常用発電機の燃料切れによる通信障害発生	
交通施設被害	交通施設被害 道路(緊急輸送道路) :540箇所 鉄道:450箇所 港湾(防災機能強化港) :10箇所	○高速道路では道路施設被害等による通行困難 ○公共交通機関停止による帰宅困難者発生 ○点検のための交通規制、道路への建物倒壊等により通行困難 ・駅前、バス停等に帰宅困難者集結 ○中山間部で地すべりや斜面崩壊により通行機能障害が発生 ○建物倒壊などによる道路閉塞発生 ○鉄道施設の被害、地震による点検などにより不通となる箇所あり ○港湾施設の機能停止		

項目	被害想定	地震発生	～半日	～1日
生活への影響	避難人口 45,000人	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営要員の被災 ○避難者が避難所に到着 ○サービスステーション(SS)、タンクローリーの被害 ○医療機関の機能が低下 ○医師、看護師の不足で診察機能が低下 ○病院でのトリアージ医療 	<ul style="list-style-type: none"> ○指定避難所以外への避難による混乱 ○屋外避難の発生(グラウンド、自動車) ○軽傷～重傷者が病院に集中 	<ul style="list-style-type: none"> ○帰宅困難者が避難所に避難 ○避難所の避難スペース不足 ○医師・検死医が不足し、身元不明者発生 ○スーパー、コンビニでの物資不足
災害廃棄	災害廃棄物 968,000トン	○家屋倒壊等に伴う災害廃棄物発生		
その他の被害	エレベータの停止 1,200棟数 危険物 流出 10箇所 破損等 100箇所	<ul style="list-style-type: none"> ○エレベータ停止に伴う閉じ込め者の発生 ○長周期地震動の発生 ・建物被害の発生 ・屋内収容物転倒・落下等による二次被害発生 ○建物被害による道路閉塞により緊急車両の通行不能 ○避難行動要支援者等のほう助 ○施設等のダメージによる公共交通機関の機能停止 	<ul style="list-style-type: none"> ○危険物施設等のタンク等からの石油流出 ・石油流出による火災発生 	

3.4 長尾断層で発生する地震

項目	被害想定	地震発生	～半日	～1日
災害 地震	地震の想定 震度:3～6強	(地震動) ○県全域で震度3～6強の強い揺れが発生 (液状化) ○海岸域の埋立地で顕著であり、山地の河川沿い等の沖積地や河川等の埋立地などでも発生する区域が存在 (その他) ○地震が発生することにより、以下の事象が発生する恐れあり ・急傾斜地の崩壊や地すべりの発生		
建物被害	建物被害の想定 全壊:2,000棟(合計) 揺れ:660棟 液状化:1,300棟 急傾斜地:20棟	○震度6弱以上の揺れが発生する地域の耐震性の低い古い建物を中心に全壊 ○液状化により建物が沈下、傾斜被害を受け継続的な居住や日常生活が困難 ○地震火災に伴う被害が発生する恐れあり		
人的被害	人的被害の想定 死者:40人 負傷者:1,300人 自力脱出困難者:160人	○耐震性の低い木造建物を中心に、揺れによる建物倒壊により死者が発生 ○急傾斜地崩壊や地滑りにより生き埋め等による死傷者が発生 ○出火家屋からの逃げ遅れ、家屋内の閉じ込め等により死者が発生 ○その他、以下の理由により死傷者が発生する可能性あり ・屋外転倒物や屋外落下物 ・屋内において、固定していない家具の移動や転倒等 ○倒壊建物等への閉じ込めによる要救助者の発生		
ライフライン被害	ライフラインの被害想定 上水道(断水人口) :205,000人(21%) 下水道(機能支障人口) :12,000人(2%) 電力(停電軒数):153,000軒 :26% 通信(不通回線数) :51,000回線(21%) 都市ガス(供給停止戸数) :29,000戸(34%)	○震度6弱以上の地域全域が停電 ○ガス供給停止、水道断水 ○下水道施設の処理が困難 ○震度6弱以上の多くのエリアで固定電話、携帯電話の利用困難		○
交通施設被害	交通施設被害 道路(緊急輸送道路) :300箇所 鉄道:190箇所	○高速道路では道路施設被害等による通行困難 ○点検のための交通規制、道路への建物倒壊等により通行困難 ○中山間部で地すべりや斜面崩壊により通行機能障害が発生 ○建物倒壊などによる道路閉塞発生 ○鉄道施設の被害、地震による点検などにより不通となる箇所あり ○港湾施設の点検		○
				交 直轄国道、高速

項目	被害想定	地震発生	～半日	～1日
生活への影響	避難人口 4,000人	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営要員の被災 ○避難者が避難所に到着 ○サービスステーション(SS)、タンクローリーの被害 ○病院でのトリアージ医療 	<ul style="list-style-type: none"> ○指定避難所以外への避難による混乱 ○屋外避難の発生(グラウンド、自動車) ○軽傷～重傷者が病院に集中 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所の避難スペース不足 ○スーパー、コンビニでの物資不足
棄物等廃	災害廃棄物 44,000トン	○家屋倒壊等に伴う災害廃棄物発生		
その他の被害	エレベータの停止 1,200棟数 危険物 破損等 50箇所	<ul style="list-style-type: none"> ○エレベータ停止に伴う閉じ込め者の発生 ○長周期地震動の発生 <ul style="list-style-type: none"> ・建物被害の発生 ・屋内収容物転倒・落下等による二次被害発生 ○建物被害による道路閉塞により緊急車両の通行不能 ○避難行動要支援者等のほう助 ○施設等のダメージによる公共交通機関の機能停止 	<ul style="list-style-type: none"> ○危険物施設等のタンク等からの石油流出 ・石油流出による火災発生 	

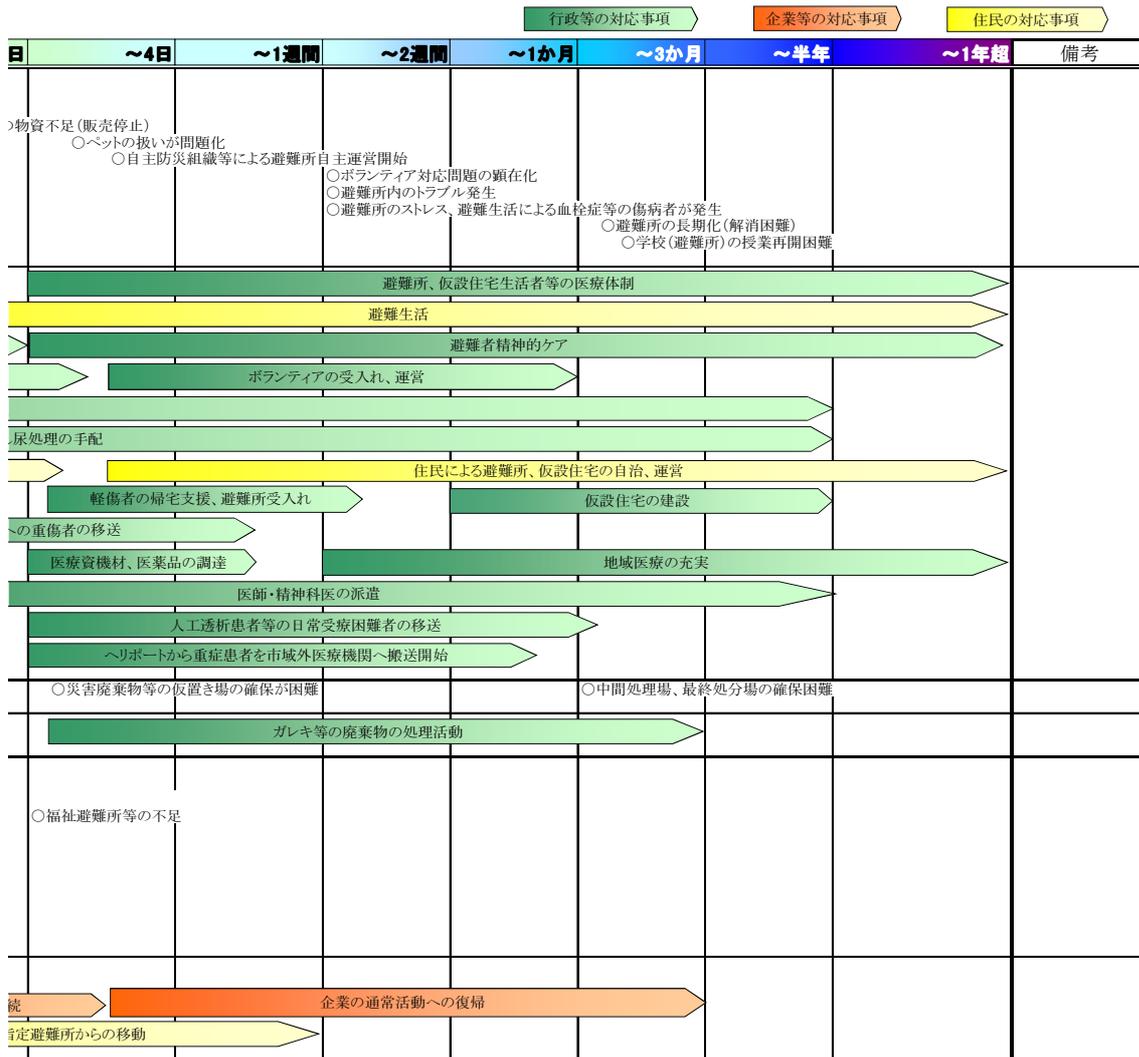


図 3.4.2 長尾断層で発生する地震による被害シナリオ要約版 (2/2)

IV 被害想定結果のまとめ

1. 被害想定結果のまとめ

1.1 県全体結果

表 1.1.1 被害想定総括表（県全体結果）

項目	条件・定義	単位	想定地震				
			南海トラフ(L2)	南海トラフ(L1)	中央構造線	長尾断層	
1 建物被害(全壊)	1 揺れによる被害	棟	25,000	410	21,000	660	
	2 液状化による被害	棟	2,500	1,900	3,000	1,300	
	3 津波による被害	棟	2,000	40	-	-	
	4 急傾斜地崩壊による被害	棟	220	*	110	20	
	5 地震火災による被害	冬深夜	棟	1,400	*	1,600	*
		夏12時	棟	1,800	*	1,800	*
冬18時		棟	5,700	*	5,700	*	
合計*2	冬18時	棟	35,000	2,300	30,000	2,000	
2 人的被害(死者数)	建物倒壊による被害*3	冬深夜	人	1,600	20	1,300	40
		夏12時	人	1,300	20	1,100	30
		冬18時	人	1,200	20	1,000	30
	1 屋内収容物移動・転倒、屋内落下物による被害(建物倒壊による被害の内数)	冬深夜	人	140	*	130	*
		夏12時	人	170	*	160	*
		冬18時	人	140	*	130	*
	2 津波による被害*4	冬深夜	人	4,600	20	-	-
		夏12時	人	3,100	90	-	-
		冬18時	人	3,400	40	-	-
	3 急傾斜地崩壊による被害	冬深夜	人	*	*	*	*
		夏12時	人	*	*	*	*
		冬18時	人	*	*	*	*
	4 火災による被害	冬深夜	人	40	*	40	*
		夏12時	人	50	*	50	*
冬18時		人	120	*	120	*	
5 ブロック塀・自動販売機・屋外落下物による被害	冬深夜	人	*	*	*	*	
	夏12時	人	*	*	*	*	
	冬18時	人	*	*	*	*	
合計*2	L1は夏12時、他は冬深夜	人	6,200	120	1,400	40	
2 人的被害(負傷者数)	建物倒壊による被害*3	冬深夜	人	16,000	1,200	12,000	1,300
		夏12時	人	11,000	790	8,300	900
		冬18時	人	9,500	690	7,300	800
	1 屋内収容物移動・転倒、屋内落下物による被害(建物倒壊による被害の内数)	冬深夜	人	2,300	30	1,900	40
		夏12時	人	3,000	30	2,500	40
		冬18時	人	2,400	20	2,000	40
	2 津波による被害*4	冬深夜	人	3,100	20	-	-
		夏12時	人	1,500	70	-	-
		冬18時	人	1,000	40	-	-
	3 急傾斜地崩壊による被害	冬深夜	人	*	*	*	*
		夏12時	人	*	*	*	*
		冬18時	人	*	*	*	*
	4 火災による被害	冬深夜	人	20	*	20	*
		夏12時	人	20	*	20	*
冬18時		人	60	*	60	*	
5 ブロック塀・自動販売機・屋外落下物による被害	冬深夜	人	*	*	*	*	
	夏12時	人	60	*	50	*	
	冬18時	人	160	20	150	10	
合計*2	冬深夜	人	19,000	1,200	12,000	1,300	
3 人的被害(自力脱出困難者・要救助者)	1 揺れによる建物被害に伴う要救助者(自力脱出困難者)	冬深夜	人	5,400	90	4,400	160
		夏12時	人	4,400	80	3,900	140
		冬18時	人	4,200	40	3,700	130
	2 津波被害に伴う要救助者*4	冬深夜	人	400	10	-	-
夏12時	人	400	10	-	-		
冬18時	人	400	10	-	-		
3 ライフライン被害*2	1 上水道	断水人口	人	763,000	226,000	622,000	205,000
		断水率	%	78%	23%	63%	21%
	2 下水道	支障人口	人	141,000	11,000	30,000	12,000
		支障率	%	28%	2%	6%	2%
	3 電力	停電軒数	軒	587,000	88,000	486,000	153,000
		停電率	%	99%	15%	82%	26%
	4 通信(固定電話・携帯電話)	不通回線数	回線	190,000	30,000	187,000	51,000
		不通回線率	%	78%	12%	76%	21%
		携帯停波基地局率	%	70%	13%	71%	21%
	5 都市ガス	供給停止戸数	戸数	58,000	13,000	69,000	29,000
供給停止率		%	68%	16%	82%	34%	
4 交通施設被害	1 道路(緊急輸送道路)	被害箇所	箇所	690	380	540	300
	2 鉄道	被害箇所	箇所	510	240	450	190
	3 港湾(防災機能強化港)	港湾被害箇所	箇所	100	*	10	*
5 生活への影響	1 避難者(直後)*5	冬深夜(避難所)	人	119,000	35,000	27,000	2,400
		冬深夜(避難所外)	人	80,000	24,000	18,000	1,600
		冬深夜計	人	199,000	59,000	45,000	4,000
6 災害廃棄物	1 災害廃棄物等	災害廃棄物	トン	1,851,000	47,000	968,000	44,000
		津波堆積物	トン	2,473,000~ 3,956,000	427,000~ 684,000	-	-
7 その他の被害	1 エレベーター内閉じこめ	停止数	棟数	1,200	1,200	1,200	1,200
		火災	箇所	*	-	*	*
		流出	箇所	10	*	10	*
		破損等	箇所	110	60	100	50
8 直接経済被害額	1 直接経済被害額合計	冬深夜	百億円	330	36	204	37
		夏12時	百億円	331	36	204	37
		冬18時	百億円	340	36	213	37

※1:「-」はデータ無し、「*」は少ないが被害がある
 ※2:最大の被害となる時間帯の合計
 ※3:屋内収容物移動・転倒、屋内落下物による被害を含む
 ※4:早期避難率低の場合の被害状況を記載
 ※5:冬深夜の発災直後の被災状況

1.2 市町別一覧

(1) 南海トラフの最大クラスの地震

震度6弱～7の強い揺れ、沿岸域に広範的な津波の浸水を受けるため、建物倒壊、人的被害、避難者等、被害を受ける規模が大きく、また県内全域に広く及んでいる。

表 1.2.1 市町別一覧表（南海トラフ（L2））

市町名	建物被害(全壊)(冬16時)					
	揺れ (棟数)	液状化 (棟数)	津波 (棟数)	急傾斜地崩壊 (棟数)	地震火災 (棟数)	合計 (棟数)
高松市	4,500	850	380	40	390	6,100
丸亀市	1,400	100	140	10	*	1,700
坂出市	950	380	180	10	*	1,500
普通寺市	580	10	-	*	*	590
観音寺市	5,100	160	200	20	2,200	7,680
さぬき市	1,000	290	470	20	240	2,000
東かがわ市	3,300	130	40	10	1,000	4,500
三豊市	4,800	170	400	60	1,100	6,500
土庄町	280	100	20	10	*	400
小豆島町	620	110	90	20	200	1,000
三木町	160	70	-	*	*	230
直島町	20	20	*	*	*	50
宇多津町	180	60	10	*	*	260
綾川町	120	10	-	*	*	120
琴平町	180	*	-	*	*	180
多度津町	1,200	30	20	10	630	1,900
まんのう町	290	*	-	*	*	290
計	25,000	2,500	2,000	220	5,700	35,000

市町名	人的被害(死者数)(冬深夜)							人的被害(負傷者数)(冬深夜)							人的被害(自力脱出困難者・要救助者)	
	建物倒壊 (人)	うち屋内収容者移動・転倒、屋内落下物 (人)	津波 (人)	急傾斜地崩壊 (人)	火災 (人)	ブロック塀等 (人)	合計 (人)	建物倒壊 (人)	うち屋内収容者移動・転倒、屋内落下物 (人)	津波 (人)	急傾斜地崩壊 (人)	火災 (人)	ブロック塀等 (人)	合計 (人)	揺れに伴う自力脱出困難者 (人)	津波による要救助者 (人)
高松市	270	40	910	*	*	*	1,200	4,200	580	400	*	*	*	4,600	1,300	250
丸亀市	90	10	1,000	*	*	*	1,100	1,300	190	820	*	*	*	2,100	370	30
坂出市	60	10	230	*	*	*	290	790	110	50	*	*	*	840	230	50
普通寺市	40	*	-	*	*	*	40	580	70	-	*	*	*	580	130	-
観音寺市	320	20	450	*	20	*	790	2,100	290	400	*	10	*	2,500	1,100	20
さぬき市	60	10	1,100	*	*	*	1,100	820	110	340	*	*	*	1,200	220	30
東かがわ市	220	10	390	*	10	*	620	1,200	180	780	*	10	*	2,000	710	*
三豊市	310	20	310	*	10	*	630	2,400	350	*	*	*	*	2,400	810	10
土庄町	20	*	40	*	*	*	60	290	50	*	*	*	*	290	40	*
小豆島町	40	*	50	*	*	*	90	430	50	*	*	*	*	430	100	10
三木町	10	*	-	*	*	*	10	240	60	-	*	*	*	240	40	-
直島町	*	*	30	*	*	*	30	30	20	120	*	*	*	150	*	*
宇多津町	10	*	30	*	*	*	40	150	30	80	*	*	*	230	70	10
綾川町	10	*	-	*	*	*	10	210	60	-	*	*	*	210	20	-
琴平町	10	*	-	*	*	*	10	190	30	-	*	*	*	190	30	-
多度津町	80	*	90	*	*	*	170	680	100	110	*	*	*	790	250	*
まんのう町	20	*	-	*	*	*	20	340	50	-	*	*	*	340	50	-
計	1,800	140	4,600	*	40	*	6,200	16,000	2,300	3,100	*	20	*	19,000	5,400	400

市町名	ライフライン被害											交通施設被害			生活への影響	
	上水道		下水道		電力		通信(固定・携帯電話)		都市ガス		道路(緊急輸送)	鉄道	港湾	避難者		
	新水人口 (人)	新水率 (%)	支障人口 (人)	支障率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	不通回線数 (回線)	不通回線率 (%)	停波基地局率 (%)	供給停止戸数 (戸数)	供給停止率 (%)	被害箇所 (箇所)	被害箇所 (箇所)	港湾被害箇所 (箇所)	避難所 (人)	避難所外 (人)
高松市	329,000	79%	64,000	22%	260,000	100%	71,000	78%	70%	39,000	72%	200	140	40	43,000	29,000
丸亀市	69,000	63%	16,000	27%	57,000	99%	19,000	83%	73%	8,200	65%	60	20	30	11,000	7,300
坂出市	43,000	78%	13,000	71%	32,000	97%	7,100	53%	52%	4,000	45%	60	40	*	13,000	8,400
普通寺市	20,000	60%	950	5%	19,000	100%	6,100	97%	93%	2,300	82%	20	10	-	910	610
観音寺市	54,000	88%	7,300	52%	33,000	100%	14,000	78%	79%	-	-	60	40	*	13,000	8,700
さぬき市	39,000	77%	14,000	47%	30,000	99%	14,000	80%	64%	-	-	50	40	*	7,200	4,800
東かがわ市	29,000	92%	840	12%	20,000	100%	7,600	78%	66%	-	-	40	50	*	7,100	4,700
三豊市	67,000	100%	260	9%	36,000	100%	18,000	81%	57%	-	-	80	50	10	11,000	7,400
土庄町	10,000	69%	20	5%	11,000	98%	4,800	68%	73%	-	-	10	-	*	1,800	1,200
小豆島町	12,000	76%	*	*	15,000	100%	4,600	63%	52%	-	-	20	-	10	3,400	2,300
三木町	20,000	75%	340	7%	15,000	99%	5,700	94%	100%	-	-	20	10	-	350	230
直島町	3,200	100%	3,200	100%	7,800	100%	760	48%	0%	-	-	*	-	*	510	340
宇多津町	15,000	79%	6,200	36%	12,000	100%	1,800	60%	50%	2,800	68%	10	20	-	2,300	1,500
綾川町	15,000	63%	450	4%	12,000	100%	5,700	91%	81%	-	-	30	20	-	110	70
琴平町	6,200	66%	230	5%	6,200	100%	5,000	96%	100%	1,100	82%	*	10	-	260	170
多度津町	19,000	80%	13,000	91%	12,000	99%	3,700	63%	63%	860	62%	10	30	-	4,200	2,800
まんのう町	12,000	69%	160	5%	8,900	100%	2,500	91%	100%	-	-	30	30	-	250	170
計	763,000	78%	141,000	28%	587,000	99%	190,000	78%	70%	58,000	68%	690	510	100	119,000	80,000

市町名	災害廃棄物		その他の被害(定量的手法)					
	災害廃棄物等		エレベータの停止		危険物			
	災害廃棄物 (トン)	津波堆積物 (トン)	停止数 (棟数)	火災 (箇所)	流出 (箇所)	破壊等 (箇所)		
高松市	537,000	595,000	~	953,000	630	*	*	30
丸亀市	126,000	228,000	~	365,000	160	*	*	10
坂出市	111,000	397,000	~	636,000	80	*	*	10
普通寺市	32,000	-	~	-	30	*	*	+
観音寺市	279,000	274,000	~	439,000	60	*	*	10
さぬき市	102,000	182,000	~	291,000	40	*	*	10
東かがわ市	180,000	125,000	~	199,000	30	*	*	10
三豊市	265,000	319,000	~	511,000	30	*	*	20
土庄町	19,000	65,000	~	104,000	20	*	*	+
小豆島町	41,000	114,000	~	182,000	10	*	*	+
三木町	15,000	-	~	-	20	*	*	+
直島町	4,100	40,000	~	64,000	*	*	*	+
宇多津町	33,000	36,000	~	57,000	50	*	*	+
綾川町	8,400	-	~	-	20	*	*	+
琴平町	11,000	-	~	-	20	*	*	+
多度津町	72,000	97,000	~	155,000	20	*	*	10
まんのう町	16,000	-	~	-	10	*	*	+
計	1,851,000	2,473,000	~	3,956,000	1,200	*	10	110

※1:「*」は少ないが被害がある
 ※2:「-」は該当無し
 ※3:四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

(2) 南海トラフの発生頻度の高い地震

震度 4~6 弱の揺れ、沿岸域に津波の浸水を受けるが、比較的規模が小さいため、建物倒壊、人的被害、避難者等、被害を受ける範囲は集中している。

表 1.2.2 市町別一覧表 (南海トラフ (L1))

市町名	建物被害(全壊)(冬18時)					
	揺れ (棟数)	液状化 (棟数)	津波 (棟数)	急傾斜地崩壊 (棟数)	地震火災 (棟数)	合計 (棟数)
高松市	50	780	10	*	*	840
丸亀市	*	60	*	*	*	60
坂出市	*	180	10	*	*	190
善通寺市	*	10	-	*	*	10
観音寺市	*	130	*	*	*	140
さぬき市	50	280	10	*	*	340
東かがわ市	290	130	*	*	*	420
三豊市	*	140	10	*	*	150
土庄町	*	30	*	*	*	30
小豆島町	10	40	*	*	*	50
三木町	*	70	-	*	*	70
直島町	*	10	*	*	*	10
宇多津町	*	20	*	*	*	20
綾川町	*	*	-	*	*	*
琴平町	*	*	-	*	*	*
多度津町	*	20	*	*	*	20
まんのう町	*	*	-	*	*	*
合計	410	1,900	40	*	*	2,300

市町名	人的被害(死者数)(夏12時)							人的被害(負傷者数)(冬深夜)							人的被害 (自力脱出困難者・要救助者)	
	建物倒壊 (人)	うち屋内収容 物移動・転倒・ 屋内落下物 (人)	津波 (人)	急傾斜地崩壊 (人)	火災 (人)	ブロック崩等 (人)	合計 (人)	建物倒壊 (人)	うち屋内収容 物移動・転倒・ 屋内落下物 (人)	津波 (人)	急傾斜地崩壊 (人)	火災 (人)	ブロック崩等 (人)	合計 (人)	揺れに伴う自 力脱出困難者 (人)	津波による要 救助者 (人)
高松市	*	*	*	*	*	*	*	360	10	*	*	*	*	360	20	*
丸亀市	*	*	*	*	*	*	*	30	*	*	*	*	*	30	*	*
坂出市	*	*	*	*	*	*	*	30	*	*	*	*	*	30	*	*
善通寺市	*	*	*	*	*	*	*	10	*	*	*	*	*	10	*	*
観音寺市	*	*	*	*	*	*	*	40	*	*	*	*	*	40	*	*
さぬき市	*	*	90	*	*	*	100	160	*	20	*	*	*	170	10	10
東かがわ市	20	*	*	*	*	*	20	400	*	*	*	*	*	400	60	*
三豊市	*	*	*	*	*	*	*	30	*	*	*	*	*	30	*	*
土庄町	*	*	*	*	*	*	*	20	*	*	*	*	*	20	*	*
小豆島町	*	*	*	*	*	*	*	40	*	*	*	*	*	40	*	*
三木町	*	*	-	*	*	*	*	30	*	-	*	*	*	30	*	-
直島町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
宇多津町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
綾川町	*	*	-	*	*	*	*	10	*	-	*	*	*	10	*	-
琴平町	*	*	-	*	*	*	*	*	*	-	*	*	*	*	*	-
多度津町	*	*	*	*	*	*	*	20	*	*	*	*	*	20	*	*
まんのう町	*	*	-	*	*	*	*	*	*	-	*	*	*	*	*	*
合計	20	*	90	*	*	*	120	1,200	30	20	*	*	1,200	90	10	

市町名	ライフライン被害										交通施設被害			生活への影響		
	上水道		下水道		電力		通信(固定・携帯電話)		都市ガス		道路 (緊急輸送)	鉄道	港湾	避難者		
	断水人口 (人)	断水率 (%)	支障人口 (人)	支障率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	不通回線数 (回線)	不通回線率 (%)	停波基地局率 (%)	供給停止戸数 (戸数)	供給停止率 (%)	被害箇所 (箇所)	被害箇所 (箇所)	港湾被害箇所 (箇所)	避難者 (人)	避難者外 (人)
高松市	124,000	30%	6,500	2%	47,000	18%	12,000	13%	11%	11,000	21%	120	80	*	13,000	8,800
丸亀市	4,800	4%	930	2%	790	1%	290	1%	0%	710	6%	30	10	*	3,200	2,100
坂出市	9,000	17%	360	2%	120	*	100	*	0%	1,200	14%	30	10	*	3,900	2,600
善通寺市	750	2%	390	2%	0	0%	30	*	0%	0	0%	10	10	-	10	10
観音寺市	10,000	16%	290	2%	1,200	4%	560	3%	6%	-	-	30	10	*	2,700	1,800
さぬき市	22,000	43%	940	3%	13,000	44%	5,700	33%	20%	-	-	30	30	*	3,900	2,600
東かがわ市	23,000	72%	340	5%	19,000	97%	8,300	86%	84%	-	-	30	30	*	1,800	1,200
三豊市	7,800	12%	50	2%	600	2%	520	2%	9%	-	-	30	20	*	2,100	1,400
土庄町	2,200	15%	10	2%	660	6%	260	4%	1%	-	-	10	-	*	1,300	840
小豆島町	3,900	25%	-	-	3,100	20%	1,500	20%	26%	-	-	10	-	*	2,100	1,400
三木町	10,000	37%	160	3%	1,300	9%	510	8%	13%	-	-	10	10	-	110	70
直島町	180	6%	50	2%	*	*	10	*	0%	-	-	*	-	*	350	230
宇多津町	1,200	6%	240	1%	0	0%	10	*	0%	20	*	*	10	-	60	40
綾川町	2,000	8%	200	2%	30	*	20	*	0%	-	-	20	10	-	*	*
琴平町	180	2%	90	2%	0	0%	30	*	0%	0	0%	*	*	-	*	*
多度津町	3,700	16%	330	2%	1,100	9%	500	8%	0%	300	21%	10	10	*	570	380
まんのう町	850	4%	60	2%	0	0%	10	*	0%	-	-	10	10	-	*	*
合計	226,000	23%	11,000	2%	88,000	15%	30,000	12%	13%	13,000	16%	380	240	*	35,000	24,000

市町名	災害廃棄物			その他の被害 (定量的手法)				
	災害廃棄物等		エレベータ閉 じこめ (棟数)	危険物			破損等 (箇所)	
	災害廃棄物 (トン)	津波増積物 (トン)		停止数	火災 (箇所)	流出 (箇所)		
高松市	21,000	82,000	~	131,000	600	-	*	20
丸亀市	1,300	24,000	~	38,000	150	-	*	10
坂出市	3,700	76,000	~	122,000	80	-	*	*
善通寺市	80	~	~	~	30	-	*	*
観音寺市	1,500	26,000	~	42,000	60	-	*	*
さぬき市	5,700	76,000	~	122,000	40	-	*	*
東かがわ市	7,200	11,000	~	18,000	30	-	*	*
三豊市	2,100	33,000	~	53,000	30	-	*	10
土庄町	440	33,000	~	53,000	20	-	*	*
小豆島町	770	41,000	~	65,000	10	-	*	*
三木町	1,500	-	~	-	20	-	*	*
直島町	270	22,000	~	35,000	*	-	*	*
宇多津町	640	140	~	230	40	-	*	*
綾川町	60	-	~	-	20	-	*	*
琴平町	20	-	~	-	20	-	*	*
多度津町	370	2,800	~	4,600	20	-	*	*
まんのう町	10	-	~	-	10	-	*	*
合計	47,000	427,000	~	684,000	1,200	-	*	60

※1:「*」は少ないが被害がある
 ※2:「-」は該当無し
 ※3:四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

(3) 中央構造線で発生する地震

震度4~7の揺れが分布しており、島嶼部を除く地域で震度6弱~7の強い揺れが広く分布しているため、建物倒壊、人的被害、避難者等、被害を受ける規模が大きく、また県内全域に広く及んでいる。

表 1.2.3 市町別一覧表（中央構造線）

市町名	建物被害(全壊) (冬18時)				
	揺れ	液状化	急傾斜地崩壊	地震火災	合計
	(棟数)	(棟数)	(棟数)	(棟数)	(棟数)
高松市	5,300	1,100	30	390	6,800
丸亀市	920	100	*	*	1,000
坂出市	350	470	*	*	810
普通寺市	270	10	*	*	280
観音寺市	6,900	230	20	2,000	9,100
さぬき市	160	300	*	360	830
東かがわ市	3,500	200	10	890	4,600
三豊市	3,000	260	30	1,200	4,500
土庄町	*	*	*	*	*
小豆島町	*	30	*	220	250
三木町	70	100	*	*	170
直島町	*	*	*	*	*
宇多津町	70	90	*	*	160
綾川町	20	*	*	*	20
琴平町	10	*	*	*	20
多度津町	380	40	*	630	1,100
まんのう町	100	*	*	*	110
計	21,000	3,000	110	5,700	30,000

市町名	人的被害(死者数)(冬深夜)						人的被害(負傷者数)(冬深夜)						人的被害(自力脱出困難者)
	建物倒壊		急傾斜地崩壊	火災	ブロック等	合計(冬深夜)	建物倒壊		急傾斜地崩壊	火災	ブロック等	合計(冬深夜)	
	(人)	うち屋内取寄物移動・転倒、屋内落下物(人)					(人)	(人)					
高松市	320	50	*	*	*	330	4,100	600	*	*	*	4,100	1,400
丸亀市	60	10	*	*	*	60	1,000	180	*	*	*	1,000	220
坂出市	20	10	*	*	*	20	430	100	*	*	*	430	80
普通寺市	20	*	*	*	*	20	360	70	*	*	*	360	60
観音寺市	440	20	*	30	*	460	2,400	330	*	10	*	2,400	1,300
さぬき市	10	10	*	*	*	10	240	100	*	*	*	240	30
東かがわ市	230	10	*	10	*	240	1,200	180	*	*	*	1,200	720
三豊市	190	10	*	10	*	200	1,600	200	*	*	*	1,600	490
土庄町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
小豆島町	*	*	*	*	*	*	20	*	*	*	*	20	*
三木町	*	*	*	*	*	*	130	*	*	*	*	130	10
直島町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
宇多津町	*	*	*	*	*	*	90	30	*	*	*	90	20
綾川町	*	*	*	*	*	*	60	*	*	*	*	60	*
琴平町	*	*	*	*	*	*	40	20	*	*	*	40	*
多度津町	20	*	*	*	*	20	370	80	*	*	*	370	70
まんのう町	10	*	*	*	*	10	190	50	*	*	*	190	20
計	1,300	130	*	40	*	1,400	12,000	1,900	*	20	*	12,000	4,400

市町名	ライフライン被害										交通施設被害			生活への影響		
	上水道		下水道		電力		通信(固定・携帯電話)		都市ガス		道路(緊急輸送)	鉄道	港湾	避難者		
	断水人口	断水率	支障人口	支障率	停電軒数	停電率	不通回線数	不通回線率	停波基地局数	供給停止戸数	供給停止率	被害箇所	被害箇所	港湾被害箇所	避難所	避難所外
	(人)	(%)	(人)	(%)	(軒)	(%)	(回線)	(%)	(%)	(戸数)	(%)	(箇所)	(箇所)	(箇所)	(人)	(人)
高松市	298,000	71%	19,000	6%	235,000	90%	78,000	85%	81%	44,000	81%	160	140	*	11,000	7,000
丸亀市	60,000	54%	2,800	5%	55,000	95%	21,000	91%	82%	11,000	87%	50	20	*	1,400	910
坂出市	33,000	61%	900	5%	26,000	79%	9,600	72%	58%	7,200	81%	40	30	*	1,000	690
普通寺市	15,000	43%	900	5%	17,000	93%	5,600	89%	93%	2,400	84%	20	10	-	280	190
観音寺市	55,000	89%	1,900	13%	34,000	100%	17,000	98%	94%	-	-	50	40	*	6,200	4,200
さぬき市	22,000	43%	1,100	4%	17,000	55%	9,600	56%	56%	-	-	40	30	*	410	270
東かがわ市	29,000	92%	800	11%	20,000	100%	9,400	97%	94%	-	-	40	50	*	3,300	2,200
三豊市	48,000	71%	170	6%	33,000	91%	18,000	82%	79%	-	-	60	40	*	2,700	1,800
土庄町	20	*	*	*	10	0%	10	0%	*	-	-	-	-	*	20	20
小豆島町	1,700	71%	*	*	1,200	12%	610	8%	*	-	-	10	10	-	40	30
三木町	15,000	54%	230	5%	10,000	69%	3,900	65%	81%	-	-	20	10	-	170	110
直島町	*	*	30	1%	*	*	*	*	*	-	-	*	-	10	*	*
宇多津町	13,000	71%	750	4%	11,000	95%	2,900	94%	67%	3,600	87%	10	10	-	220	150
綾川町	7,400	31%	250	2%	3,500	30%	1,800	28%	19%	-	-	20	10	-	10	10
琴平町	2,900	31%	150	3%	2,900	46%	2,700	52%	40%	500	39%	*	10	-	20	10
多度津町	15,000	64%	810	5%	12,000	96%	5,600	94%	75%	1,200	86%	10	20	-	460	300
まんのう町	9,500	53%	160	5%	8,400	94%	2,400	87%	100%	-	-	30	30	-	70	50
計	622,000	63%	30,000	6%	486,000	82%	187,000	76%	71%	69,000	82%	540	450	10	27,000	18,000

市町名	災害廃棄物(トン)	その他の被害(定量的手法)			
		エレベータの停止		危険物	
		停止数	火災	流出	破壊等
高松市	341,000	630	*	*	30
丸亀市	28,000	160	*	*	10
坂出市	29,000	80	*	*	*
普通寺市	5,300	30	*	*	*
観音寺市	268,000	60	*	*	10
さぬき市	11,000	40	*	*	*
東かがわ市	154,000	30	*	*	10
三豊市	110,000	30	*	*	10
土庄町	*	20	*	*	*
小豆島町	350	10	*	*	*
三木町	3,700	20	*	*	*
直島町	*	*	*	*	*
宇多津町	5,100	50	*	*	*
綾川町	40	20	*	*	*
琴平町	120	20	*	*	*
多度津町	14,000	20	*	*	*
まんのう町	120	10	*	*	*
計	968,000	1,200	*	10	100

※1:「*」は少ないが被害がある
 ※2:「-」は該当無し
 ※3:四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

(4) 長尾断層で発生する地震

震度 4~6 強の揺れが分布しているが、建物倒壊、人的被害、避難者等、被害を受ける範囲は想定断層付近の市町に集中している。

表 1.2.4 市町別一覧表 (長尾断層)

市町名	建物被害(全壊) (冬18時)				
	揺れ	液化化	急傾斜地崩壊	地震火災	合計
	(棟数)	(棟数)	(棟数)	(棟数)	(棟数)
高松市	470	760	10	*	1,200
丸亀市	*	30	*	*	30
坂出市	10	170	*	*	170
普通寺市	*	*	*	*	*
観音寺市	*	*	*	*	*
さぬき市	30	50	*	*	80
東かがわ市	60	150	*	*	210
三豊市	*	60	*	*	70
土庄町	*	*	*	*	*
小豆島町	*	*	*	*	*
三木町	90	80	*	*	170
直島町	*	*	*	*	*
宇多津町	*	*	*	*	*
綾川町	*	*	*	*	*
琴平町	*	*	*	*	*
多度津町	*	*	*	*	*
まんのう町	*	*	*	*	*
計	660	1,300	20	*	2,000

市町名	人的被害(死者数)(冬深夜)						人的被害(負傷者数)(冬深夜)						人的被害(自力脱出困難者)		
	建物倒壊	うち屋内取寄物移動・転倒、屋内落下物		急傾斜地崩壊	火災	ブロック壁等	合計	建物倒壊	うち屋内取寄物移動・転倒、屋内落下物		急傾斜地崩壊	火災		ブロック壁等	合計
		(人)	(人)						(人)	(人)					
高松市	30	*	*	*	*	30	940	10	*	*	*	*	940	120	
丸亀市	*	*	*	*	*	*	30	*	*	*	*	*	30	*	
坂出市	*	*	*	*	*	*	60	*	*	*	*	*	60	*	
普通寺市	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
観音寺市	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
さぬき市	*	*	*	*	*	*	40	*	*	*	*	*	40	10	
東かがわ市	*	*	*	*	*	*	140	*	*	*	*	*	140	10	
三豊市	*	*	*	*	*	*	20	*	*	*	*	*	20	*	
土庄町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
小豆島町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
三木町	10	*	*	*	*	10	100	*	*	*	*	*	100	20	
直島町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
宇多津町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
綾川町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
琴平町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
多度津町	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
まんのう町	*	*	*	*	*	*	10	*	*	*	*	*	10	*	
計	40	*	*	*	*	40	1,300	40	*	*	*	1,300	160		

市町名	ライフライン被害												交通施設被害			生活への影響	
	上水道		下水道		電力		通信(固定・携帯電話)			都市ガス		道路(緊急輸送)	鉄道	港湾	避難者		
	断水人口	断水率	支障人口	支障率	停電軒数	停電率	不通回線数	不通回線率	停波基地局率	供給停止戸数	供給停止率	被害箇所	被害箇所	港湾被害箇所	避難所	避難所外	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(軒)	(%)	(回線)	(%)	(%)	(戸数)	(%)	(箇所)	(箇所)	(箇所)	(人)	(人)	
高松市	154,000	37%	8,500	3%	125,000	48%	40,000	44%	45%	28,000	48%	120	90	*	1,800	1,200	
丸亀市	6,300	6%	990	2%	360	1%	80	0%	2%	80	1%	30	10	*	30	20	
坂出市	11,000	20%	540	3%	8,400	25%	2,700	20%	13%	2,900	33%	20	10	*	170	120	
普通寺市	590	2%	380	2%	10	0%	10	0%	*	*	*	10	0	-	*	*	
観音寺市	100	0%	90	1%	130	0%	80	0%	1%	-	-	10	10	*	0	0	
さぬき市	4,200	8%	460	2%	1,400	5%	770	4%	10%	-	-	20	10	*	20	10	
東かがわ市	14,000	43%	220	3%	9,800	49%	4,700	48%	47%	-	-	20	30	*	180	120	
三豊市	3,000	5%	20	1%	1,500	4%	830	4%	4%	-	-	10	4%	*	60	40	
土庄町	*	*	*	*	10	0%	10	0%	*	-	-	*	-	*	0	0	
小豆島町	*	*	*	*	20	0%	10	0%	*	-	-	*	-	*	0	0	
三木町	10,000	37%	240	5%	5,600	38%	2,100	35%	50%	-	-	10	10	-	150	100	
直島町	*	*	10	0%	*	*	*	*	*	-	-	*	*	*	0	0	
宇多津町	340	2%	200	1%	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
綾川町	610	3%	130	1%	40	0%	20	0%	*	-	-	10	0	-	0	0	
琴平町	220	0%	50	1%	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	0	0	
多度津町	220	1%	210	1%	30	0%	20	0%	*	*	*	*	10	-	*	*	
まんのう町	310	2%	30	1%	310	4%	80	3%	4%	-	-	10	*	-	*	*	
計	205,000	21%	12,000	2%	153,000	28%	51,000	21%	21%	29,000	34%	300	190	*	2,400	1,600	

市町名	災害廃棄物 (トン)	その他の被害(定量的手法)			
		エレベータの停止	危険物		
			停止数	火災	流出
(棟数)	(箇所)	(箇所)	(箇所)	(箇所)	
高松市	29,000	610	*	*	20
丸亀市	200	150	*	*	10
坂出市	3,800	80	*	*	*
普通寺市	*	30	*	*	*
観音寺市	*	50	*	*	*
さぬき市	510	40	*	*	*
東かがわ市	4,600	30	*	*	*
三豊市	1,500	30	*	*	*
土庄町	*	10	*	*	*
小豆島町	*	10	*	*	*
三木町	4,000	20	*	*	*
直島町	*	*	*	*	*
宇多津町	40	40	*	*	*
綾川町	*	10	*	*	*
琴平町	*	20	*	*	*
多度津町	*	20	*	*	*
まんのう町	*	10	*	*	*
計	44,000	1,200	*	*	50

※1「*」は少ないが被害がある
 ※2「-」は該当無し
 ※3「四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある」

香川県地震・津波被害想定調査報告書（概要）

平成26年6月発行

香川県危機管理総局危機管理課

〒760-8570 高松市番町四丁目1番10号

TEL (087) 832-3111 FAX (087) 831-8811

E-mail:kikikanri@pref.kagawa.lg.jp
